

平成 27 年度

市民アンケート実施結果

報 告 書

平成 27 年 8 月

鹿角市総務部政策企画課総合戦略室

目 次

I	実施概要	1
II	回収状況	2
III	調査の総括	
	1. 共動について	4
	2. 地域コミュニティについて	4
	3. 公共交通について	4
	4. まちづくりについて	5
	5. 市街地の整備について	5
	6. 公園の環境について	5
	7. 運動の実施状況について	6
	8. 男女共同参画の状況について	6
	9. 地域医療について	6
10.	広報について	7
11.	地域情報化について	7
12.	コミュニティFMの利用について	7
13.	子育て支援について	8
14.	防災について	8
15.	スキーと駅伝のまち“賑わい創出”プロジェクトについて	8
16.	学校の再編（統合等）について	9
17.	市の政策について	9
IV	設問別集計結果	
	1. 共動について	12
	2. 地域コミュニティについて	14
	3. 公共交通について	16
	4. まちづくりについて	19
	5. 市街地の整備について	20
	6. 公園の環境について	22
	7. 運動の実施状況について	24
	8. 男女共同参画の状況について	26
	9. 地域医療について	28
10.	広報について	32
11.	地域情報化について	34
12.	コミュニティFMの利用について	36
13.	子育て支援について	38
14.	防災について	42
15.	スキーと駅伝のまち“賑わい創出”プロジェクトについて	44
16.	学校の再編（統合等）について	46
17.	市の政策について	48
18.	自由意見	54

I 実施概要

1 実施目的

本市では、平成 23 年度から 32 年度を計画期間とする「第 6 次鹿角市総合計画（以下、「総合計画」と呼びます。）」において、市の将来のあるべき姿として、「笑顔がつながり活力を生むまち・鹿角」を将来都市像として定め、その実現を目指しています。この調査は、総合計画の推進を図るため、市が導入している行政評価制度の外部評価の一環として、総合計画を構成する各施策の進捗状況を成果指標として確認するほか、施策の効果とニーズ（需要）を調査・把握するとともに、市民の意識や意見等を集約し、今後の施策推進に活用することを目的としています。

2 設問構成

設問	設問の趣旨	担当課
1. あなた自身について	居住地区、性別、年代、子育て状況の確認	—
2. 共動について	共動の共感度の把握	市民共動課
3. 地域コミュニティについて	社会活動、地域活動への参加頻度の把握	市民共動課
4. 公共交通について	バス等の利用頻度と不便を感じる方の割合及び利用促進策の把握	市民共動課
5. まちづくりについて	鹿角市の住みごこちに対する満足度の把握	都市整備課
6. 市街地の整備について	中心市街地の生活環境に対する満足度と不満要因の把握	都市整備課
7. 公園の環境について	公園整備状況に対する満足度と不満要因の把握	都市整備課
8. 運動の実施状況について	運動や生活活動の頻度とその時間の把握	スポーツ振興課
9. 男女共同参画の状況について	ワーク・ライフ・バランスの認知度、地域内の共同参画状況の把握	市民共動課
10. 地域医療について	かかりつけ医を持っている割合の把握	いきいき健康課
11. 広報について	広報かづのの閲読率と改善点の把握	政策企画課
12. 地域情報化について	インターネット利用状況の把握	総務課
13. コミュニティFMの利用について	きりたんぼFMの聴取率の把握	政策企画課
14. 子育て支援について	子育て支援の満足度と不満要因の把握	福祉課
15. 防災について	備蓄の状況と避難所認知度の把握	危機管理室
16. スキーと駅伝のまちについて	スキーと駅伝のまち“賑わい創出”プロジェクトに対する満足度の把握	総合戦略室
17. 学校の再編(統合等)について	学校の再編(統合等)を進めることに対する意向とその理由の把握	総務学事課
18. 市の政策について	施策の効果と施策に対する市民ニーズを調査し、施策評価と優先度等の検討に活かす	総合戦略室
19. 自由記入	—	—

3 実施期間

平成 27 年 5 月 28 日（木）～6 月 15 日（月）まで

4 実施対象

平成 27 年 5 月 28 日時点で住民基本台帳に登載されている方のうち、無作為によって抽出した満年齢 18 歳以上 74 歳以下の市民 700 人。抽出にあたっては、性別、年齢及び地域条件を考慮し均衡を図ったほか、平成 24 年度から 26 年度までの市民アンケート調査対象者を除いています。

5 実施方法

- (1) 配付 自治会長及び広報等配布員による配付（一部郵送）
- (2) 回収 職員による回収及び郵便（受取人払い）による回収

Ⅱ 回収状況

1 回収率

62.4% (437人/700人)

2 回答者の属性

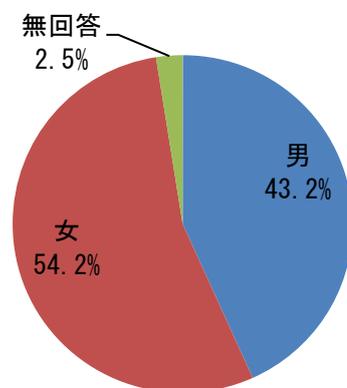
市民アンケートの属性別の対象者数、回答者数及び回収率は以下のとおりです。構成比(※1)は、その区分の対象者(回答者)が全対象者(回答者)のうち何%を占めているかを表しています。回収率(※2)は、その区分の対象者数のうち何%が回答を寄せたかを表しています。

※1 構成比 = その区分に属する対象者数(回答者数) ÷ 全対象者数(全回答者数)

※2 回収率 = その区分に属する回答者数 ÷ その区分に属する対象者数

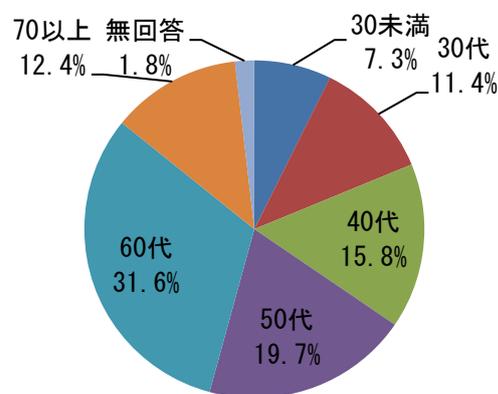
(1) 男女別

	対象者数		回答者数		回収率
	人数	構成比	人数	構成比	
男	336	48.0%	189	43.3%	56.3%
女	364	52.0%	237	54.2%	65.1%
無回答			11	2.5%	
計	700	100.0%	437	100.0%	62.4%



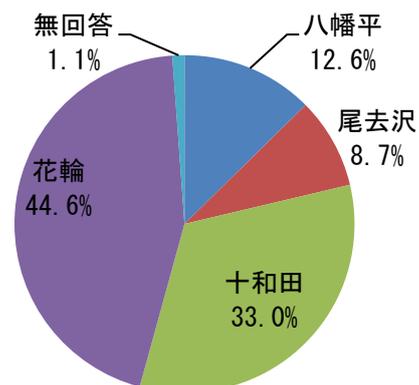
(2) 年代別

	対象者数		回答率		回収率
	人数	構成比	人数	構成比	
30歳未満	75	10.7%	32	7.3%	42.7%
30代	111	15.9%	50	11.4%	45.1%
40代	125	17.9%	69	15.8%	55.2%
50代	135	19.3%	86	19.7%	63.7%
60代	175	25.0%	138	31.6%	78.9%
70歳以上	79	11.3%	54	12.4%	68.4%
			8	1.8%	
計	700	100.0%	437	100.0%	62.4%



(3) 地区別

	対象者数		回答率		回収率
	人数	構成比	人数	構成比	
八幡平	90	12.9%	55	12.6%	61.1%
尾去沢	59	8.4%	38	8.7%	64.4%
十和田	228	32.6%	144	33.0%	63.2%
花輪	323	46.1%	195	44.6%	60.4%
無回答			5	1.1%	
計	700	100.0%	437	100.0%	62.4%



※各設問における項目選択の割合(%)は、四捨五入の関係で合計が100%にならない場合があります。

Ⅲ 調査の総括

[Redacted content]

Ⅲ 調査の総括

1. 共動について

共動共感度 75.3%	⇒詳細 P12
---------------------------	---------

「共動」については、第6次総合計画の基本理念として、様々な施策の中に取り入れており、自治会活動を通じた支援、地域づくり協議会による市民センターの運営、各種事業の企画段階からの市民の参画といったものがあります。

中でも、今年4月にオープンした文化の杜交流館コモッセでは、市民サポーターによる市民参加型事業の企画運営やコモッセの利活用促進に資する活動にオープン前から取り組み、その活動には高い評価を得ていることから、共動は市民の間で十分浸透しているものと捉えています。

共感できない理由には、具体的な活動が見えてこないという意見もあることから、今後も様々な事業の実施にあたっての具体的な取り組みの広報に力を入れていきます。

2. 地域コミュニティについて

社会活動・地域活動の参加割合 70.5%	⇒詳細 P14
------------------------------------	---------

個人の社会活動や地域活動への参加状況の把握は、地域コミュニティの活性化を図る上で重要なデータとなります。昨年1年間に社会活動や地域活動に参加した割合は、70.5%と基準値である46.8%（秋田県県民意識調査）を今回も大きく上回っており、地域コミュニティへの参加は秋田県の平均に比べ大きく進んでいると考えられます。

地域コミュニティの活性化を図っていくためには、現在の活動の中心となっている世代はもちろんですが、若年層の参加が重要となっていくため、若年層が数多くの活動に参加できるような仕組みを構築することが必要です。

3. 公共交通について

公共交通に不便を感じる市民の割合 17.8%	⇒詳細 P16
--------------------------------------	---------

9割近い人が自家用車を普段の移動手段としていると考えられ、利用時間、場所に制限のない自家用車と比べて制限の多い公共交通は不便と感じている人が多くなっています。

バスや鉄道の不便を解消するため、運行本数を増やして欲しい、利用したい時間帯に走らせて欲しいという声が多いですが、利用者の減少とともに運行本数を縮小せざるを得なかった経緯から、増便は難しい状況にあります。公共交通を必要とする人は少数ながら各地域に分散しており、こうした小規模な需要をカバーするため、タクシー車両や自家用車を用いた予約型交通などの形態を取り入れること、また将来に向け持続可能性を考慮した運行確保が必要と考えられます。

また、バスに関して進めるべき取り組みとして、最も多く選択された「距離に関わらない定額制とすること」については、公共交通が地域に無くてはならないインフラであることや、分かりやすさを重視する観点から、有効な取り組みであると考えられます。

4. まちづくりについて

住みごこちに満足している割合 54.7%

⇒詳細 P19

本市の住みごこちについて調査した結果、「住みよい」「まあ住みよい」と回答した方は54.7%と、鹿角市都市計画マスタープラン（目標年次は平成37年）の策定にあたって行った、平成17年の調査に比べて5.9ポイント低くなっています。

少子高齢化による人口の減少や、地域産業における経済活性化対策など、抱える課題は少なくありませんが、計画的な社会基盤整備を進めることにより、活力のある、誰もが笑顔で暮らすことのできる、安全で安心なまちづくりを進めてまいります。

5. 市街地の整備について

中心市街地の環境に満足している市民の割合 52.7%

⇒詳細 P20

市では、まちづくりビジョンに基づき、花輪駅西住宅の建設のほか、今春完成した文化の杜交流館コモッセに加え、花輪駅前広場の整備計画を進めることで、まちなかのにぎわい創出と活性化を目指しています。

アンケートでは、花輪市街地の環境に52.7%が概ね満足と回答していますが、昨年よりも4.5ポイント減少しました。

中心市街地の活性化を図るため、空き店舗利活用や駐車スペースの確保による既存商店街での集客力の向上、また、市役所・病院等公共施設と中心市街地間の公共交通機関の充実と利便性の向上など、利用しやすい環境整備を進めるほか、まちなか観光による来街客の誘客活動を行うなど、賑わいのあるまちづくりが必要と考えます。

6. 公園の環境について

公園の環境に満足している市民の割合 65.9%

⇒詳細 P22

平成22年度に策定した公園施設長寿命化計画に基づき、老朽化した遊具等の更新を計画的に進めるとともに、家族で安心して楽しめる「公園」機能の充実強化と利便性向上を図っており、満足度は昨年より1.5ポイント上昇しました。

今後も誰もが利用しやすい公園となるよう、各公園の景観、機能や特性を生かした魅力ある公園環境の整備を進めてまいります。

7. 運動の実施状況について

週 1 回以上の頻度で運動する市民の割合	58.1%	⇒詳細 P24
-----------------------------	--------------	---------

日常的なスポーツ活動を促すためのきっかけづくりとして、生活活動動作が健康づくりと密接な係わりがある、との意識を醸成するため、市広報やスポーツイベントを通して啓発に努めてきたところ、平成 25 年度から実施率が 50%を超え、平成 27 年度の目標値である 47%を上回っています。

40 歳代の働き盛り世代の実施率が 40%台と、低い状況にはありますが、平成 25 年度の 30%台よりは微弱ながら増加している点は、広報等を活用した継続的な啓発活動が効果的であるものと推測できます。

地区別では、尾去沢地区が 39.5%と最も低い数値となっていますが、昨年度は 6 割を超えていたことから、昨年度との変化について今後確認・検証を行ってまいります。

8. 男女共同参画の状況について

ワーク・ライフ・バランス認知度	23.8%	⇒詳細 P26
------------------------	--------------	---------

「ワーク・ライフ・バランス」の認知度については、23.8%となっており、昨年度（23.5%）とほぼ同様の割合となっています。

世代別の認知度についても、全ての年代で知らなかった割合が 70%を超えており、依然として全体の認知度が低い状況のため、認知度を高める必要があります。

また、男女の地位の平等感については、全体で 65.9%の方が「男性が優遇されている」、「どちらかといえば男性が優遇されている」と答えており、昨年度とほぼ同様の割合となっていることから、男性が優遇されていると感じている現状は変わっていません。

このため、引き続き、男女の性別に関わりなく個性や能力を発揮できる社会をつくっていくよう周知や啓発に取り組んで行く必要があります。

9. 地域医療について

かかりつけ医を持っている市民の割合	65.8%	⇒詳細 P28
--------------------------	--------------	---------

地域医療の充実は、市民の「安心」、「安全」に直接結びつく最も重要な課題であり、そのための医療体制の構築については、医療機関だけに頼るのではなく市の医師確保対策と合わせ市民の方が「かかりつけ医」を持つことによる一次医療体制の確立など、市民と行政が一体となって取り組んでいかなければなりません。

今回のアンケートでは、過去一年間における医療機関の利用状況を調査しましたが、結果は 79.6%と 8 割近い方が医療機関を利用していることが分かりました。

また、地域で限られた医療機関をいかに有効に活用して適正な受診に結び付けるか調査するため、かかりつけ医について調査しましたが、65.8%が「決めている」と回答しており、高い割合で浸透しているものと考えられます。

10. 広報について

⇒詳細 P32

広報かづのの閲読頻度やニーズを把握し、情報発信ツールとしての広報かづのの現状分析及び今後の作成指針に反映させるため、アンケートを実施しました。

広報かづのを「毎号読んでいる」、「ときどき読んでいる」と回答した人の割合は 84.0%と高率であり、行政の情報発信ツールとしての役割を果たしているものと思われます。

広報かづのについて求める今後の工夫・改善としては、市民活動の紹介が約 5 割を占めたことから、地域、市民の身近な出来事の紹介が広報に対するニーズとしてうかがえます。

必要な行政情報を伝達するという目標は果たせており、今後は限られた紙面の中でも市民・地域活動を魅力的に紹介していくことを検討します。

11. 地域情報化について

インターネットを利用している市民の割合	56.1%	⇒詳細 P34
----------------------------	--------------	---------

インターネット人口普及率（インターネットを利用していると回答した割合）は、昨年より 4.6 ポイント高い 56.1%となりました。

インターネットの利用機器としては、パソコンの利用が 63.3%、次いでスマートフォン 53.1%、スマートフォン以外の携帯電話・PHS が 20.9%となっています。パソコンの利用割合は各年代とも 60%を超えていますが、40 代以下の年代では、スマートフォンの利用割合のほうが高く、若年層を中心に普及が進んでいることがうかがえます。

インターネットを利用していない理由（自由記載）としては、「関心がない」、「必要としない」という回答が 6 割で、50 代以上に多くみられますが、60 代以上の「使い方が分らない」、「操作が難しそう」といった回答の中には、インターネットへの関心や興味を示すコメントも多く、IT 機器の操作や利便性を体験できる機会を積極的に提供しながら、インターネット人口普及率の向上に努めます。

12. コミュニティ FM の利用について

⇒詳細 P36

「鹿角きりたんぼ FM」は、地域の身近な情報を発信しており、市でも行政情報の発信に活用しています。

効果的な情報発信を行うため、きりたんぼ FM の聴かれている割合やリスナーの特性を把握するアンケートを実施しましたが、結果、きりたんぼ FM は約 6 割の市民が耳にしており、特に 40 代～60 代については、習慣的に聴くリスナーも一定層いることが分かりました。

また、40 代～50 代は車内での聴取機会が多いことから、現在、通勤時間帯で放送している「鹿角市からのお知らせ」は効果的であり、さらに、情報の内容が 40 代～50 代向けのものであれば、より有効な情報発信になると考えられます。

1 3. 子育て支援について

⇒詳細 P38

「子育てしやすいまちだと感じるか」うかがったところ、プラスに捉える「感じる」、「どちらかといえば感じる」が46.2%で、マイナスに捉える「感じない」、「どちらかといえば感じない」の32.1%より14.1ポイント高い結果となりました。

「子育てがしやすいまちだと感じない」、「どちらかといえば感じない」と回答した方にその理由を尋ねたところ、回答が多い順に「医療体制」、「経済的支援」、「職場の理解や制度」、「遊ぶ場や機会」が選ばれており、その後に「保育サービス」、「安全を確保する取組み」について不足と感じていることが分かりました。

子育て世代を取り巻く様々な社会的環境の整備があつて、はじめて子育てしやすいまちとして充実感を得られることから、関係機関や部署との連携による、さらなる子育て環境の充実が求められています。

1 4. 防災について

⇒詳細 P42

市では、甚大な被害をもたらした東日本大震災や最近の自然災害等を教訓とした災害対策基本法の改正や国の防災計画の見直し、秋田県地域防災計画の修正等を踏まえ、昨年度「鹿角市地域防災計画」の見直しを行い、防災対策の推進を図っています。

アンケートの結果、災害に備え備蓄をしている人の割合は約50%となっており、全国平均の47.4%（平成23年国民健康・栄養調査：厚生労働省）よりは高いものの、約半数の方が備蓄していないことが分かりました。

また、避難所の認知度は、約74%の方が自分の地域の避難所を知っていましたが、1/4の方は地域の避難所を知らないという結果となりました。

防災対策については、これで十分ということではなく、一人一人が、自分の周りにどのような災害の危険が及ぶのかを考え、その被害をできるだけ少なくするために必要な対策を講じることが重要であることから、今年度、全戸配布を予定している防災マップで災害に対する備蓄の重要性や地域ごとの避難所などについて、分かりやすく周知してまいります。

1 5. スキーと駅伝のまち“賑わい創出”プロジェクトについて

⇒詳細 P44

市が、県の支援を受けて進めてきた「スキーと駅伝のまち“賑わい創出”プロジェクト」の取り組みについては、「満足」が5割、「不満」が3割、無回答が2割となりました。不満との割合で見ると、成果を感じている市民のほうが上回っているといえますが、「取り組みを知らなかった」という自由意見も多く、地域経済波及効果など、プロジェクトに取り組む意義とその内容を分かりやすく伝えていく必要があります。

また、自由意見の内容を踏まえ、大会や合宿に関する情報をきめ細かく市民に伝えるとともに、子どもたちが競技に親しみやすい環境づくり、ジュニア選手の育成強化プログラムの実施を進めてまいります。

16. 学校の再編（統合等）について

⇒詳細 P46

学校の再編について、54.2%が「進めるべき」「どちらかといえば進めるべき」と回答しており、その理由として、一定の児童生徒数が確保されることにより、児童生徒の協調性の向上や集団の中での生活で成長が促される、少人数では教育活動が制限されるためといった理由が大半を占めました。

「進めるべきでない」「どちらかといえば進めるべきでない」と回答した割合は22.9%で、再編により通学が困難になる、地域の活力が低下するといったことが主な理由でありました。

一方、無回答とした割合が全体の2割近くを占めたことから、わからない、あるいは無関心である方も少なくないことをうかがわせる結果となりました。

今回のアンケート結果を踏まえ、学校の再編については保護者および地域住民に代表される市民に対して丁寧に説明を行いながら合意形成を図り、計画どおり進めていくこととします。

17. 市の施策について

⇒詳細 P48

- ・市が進めている取り組みの中で、効果が得られていると感じるもの
- ・市が進めている取り組みの中で、もっと力を入れて欲しいと感じるもの

効果が得られていると感じられるものとして高い評価を得た施策は、順に「子育て支援の充実」「健康づくりの推進」「高齢者福祉の充実」「スポーツ環境の充実」「観光の振興」となり、市民福祉の充実と地域資源を生かした賑わいづくりへの取り組みが評価されています。

また、もっと力を入れて欲しいと感じる施策については、順に「雇用環境の充実」「地域医療体制の充実」「学校教育の充実」「商店街の活性化」「観光の振興」という結果となりました。雇用情勢は上向いているものの、経済面からまちの魅力の向上に繋がる施策が選ばれているほか、「地域医療体制の充実」については診療科の不足、「学校教育の充実」については、市の未来を支える人材づくりへの期待と受け止めています。

【効果が得られていると感じるもの】

	H 2 6	H 2 5	H 2 4
第1位	子育て支援の充実	子育て支援の充実	高齢者福祉の充実
第2位	健康づくりの推進	高齢者福祉の充実	子育て支援の充実
第3位	高齢者福祉の充実	健康づくりの推進	健康づくりの推進
第4位	スポーツ環境の充実	スポーツ環境の充実	観光の振興
第5位	観光の振興	観光の振興	スポーツ環境の充実 農業生産の振興

【もっと力を入れて欲しいと感じるもの】

	H 2 6	H 2 5	H 2 4
第1位	雇用環境の充実	雇用環境の充実	雇用環境の充実
第2位	地域医療体制の充実	地域医療体制の充実	地域医療体制の充実
第3位	学校教育の充実	商店街の活性化	観光の振興
第4位	商店街の活性化	高齢者福祉の充実	子育て支援の充実
第5位	観光の振興	子育て支援の充実	学校教育の充実

IV 設問別集計結果

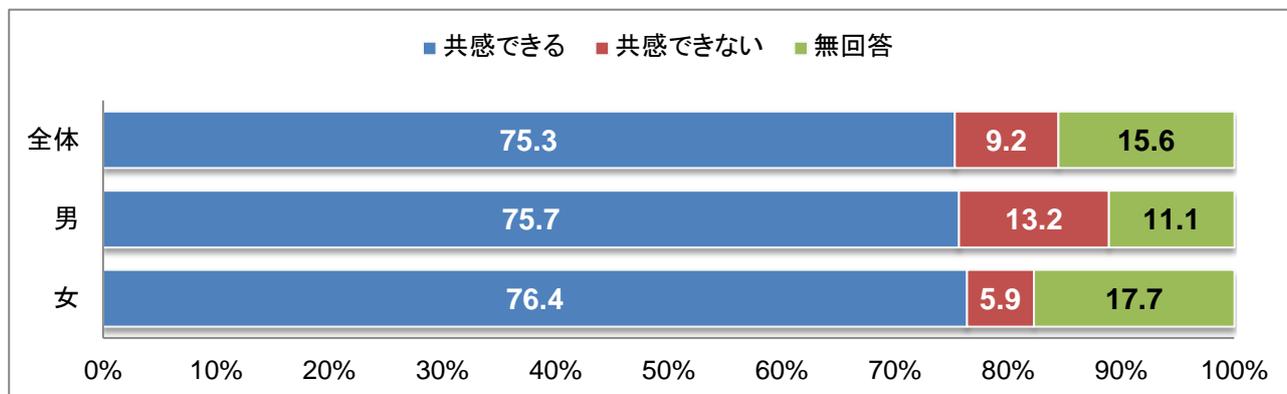


1 共動について

設問② 市が提唱している共動について、あなたは共感できますか。

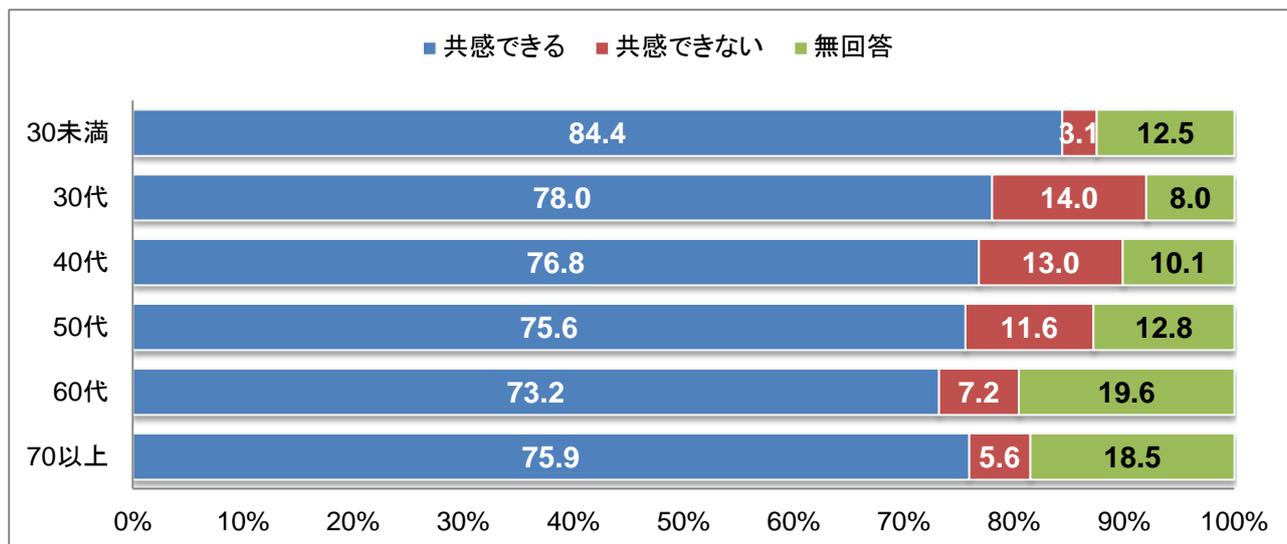
①全体／男女別

[単位：%]



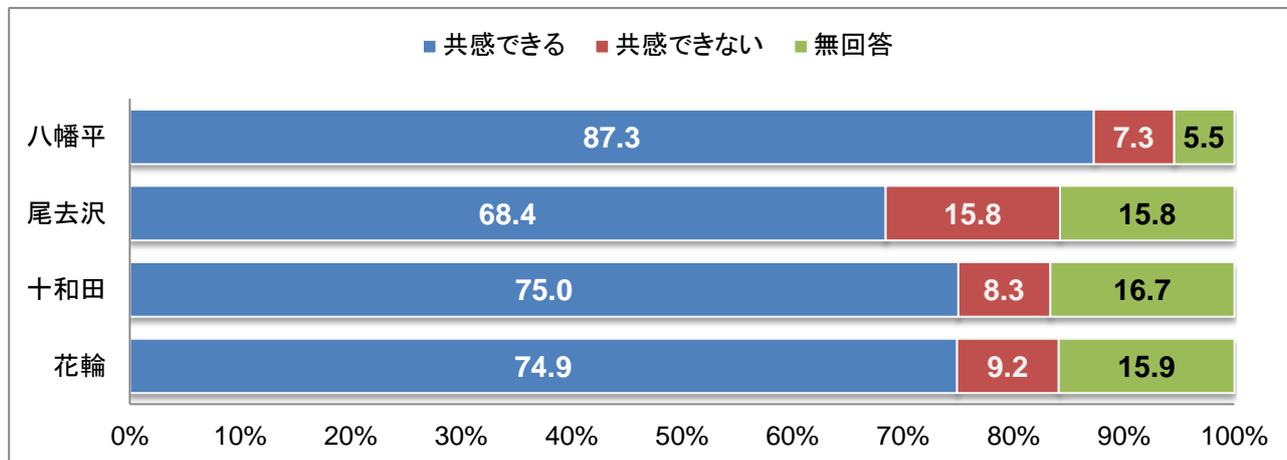
②年齢別

[単位：%]



③地区別

[単位：%]



④分析結果

共動に共感できるかどうかについては、75.3%が共感できるとしています。

昨年度の79.1%から3.8ポイント下回っているものの、約7割以上の方が共感できると回答していることから、多くの市民に理解されていることが分かります。

共感できないとした割合は、9.2%と昨年度の8.6%を若干上回りましたが、23年度からほぼ同じ割合となっています。

共感できない理由として、具体的な活動が見えてこないという意見がみられることから、様々な施策の展開にあたり共動の理念の浸透を図っていきます。

〔参考〕第6次総合計画成果指標と実績値

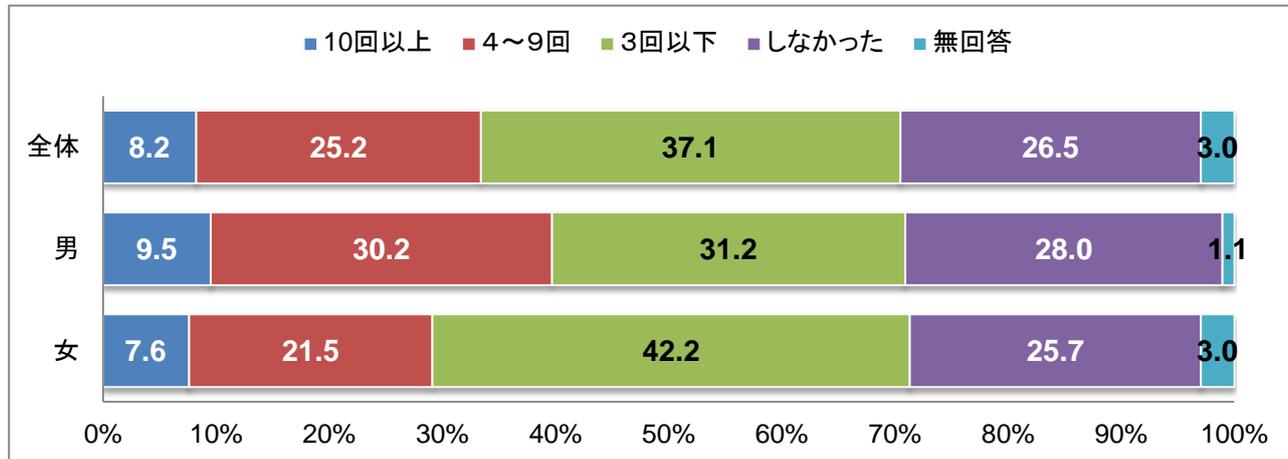
成果指標	基準値	実績値(H26)	目標値(H27)
共動共感度	66.7%	75.3%	70.0%

2 地域コミュニティについて

設問③ あなたは、昨年1年間に社会活動や地域活動（ボランティア活動、自治会活動など）にどの程度参加しましたか。

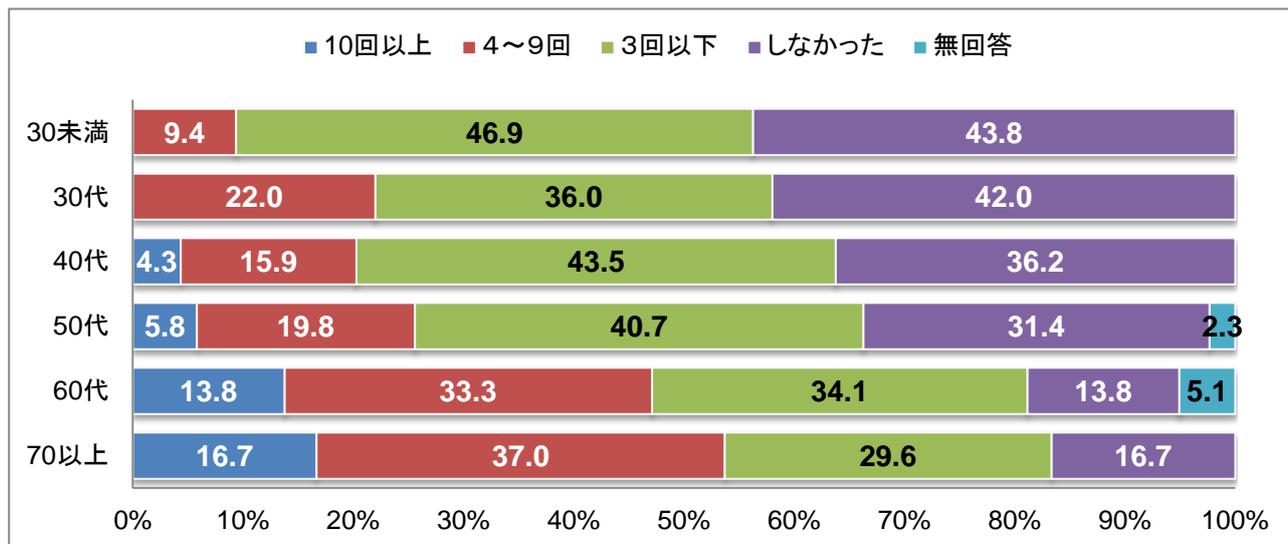
①全体／男女別

[単位：%]



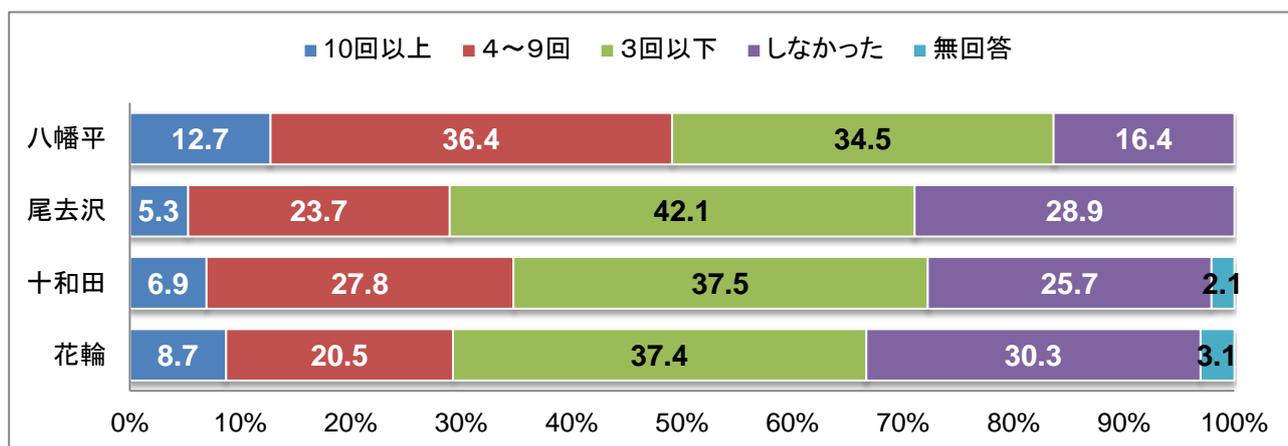
②年齢別

[単位：%]



③地区別

[単位：%]



④分析結果

個人が昨年1年間に社会活動や地域活動へ参加した割合は、70.5%となり、昨年度の68.2%から2.3ポイント上昇しています。

男女別でみると、参加した割合が男性は70.9%であったのに対し、女性が71.3%と昨年に比べ4.8ポイント上昇しており、初めて男女間の割合が逆転しています。

年代別でみると、全ての世代で基準値である46.8%を上回っており、若年層の参加も進んでいますが、今後は、仕事や子育てを抱えた若年層の世代が、複数回参加できる仕組みを構築する必要があります。

〔参考〕第6次総合計画成果指標と実績値

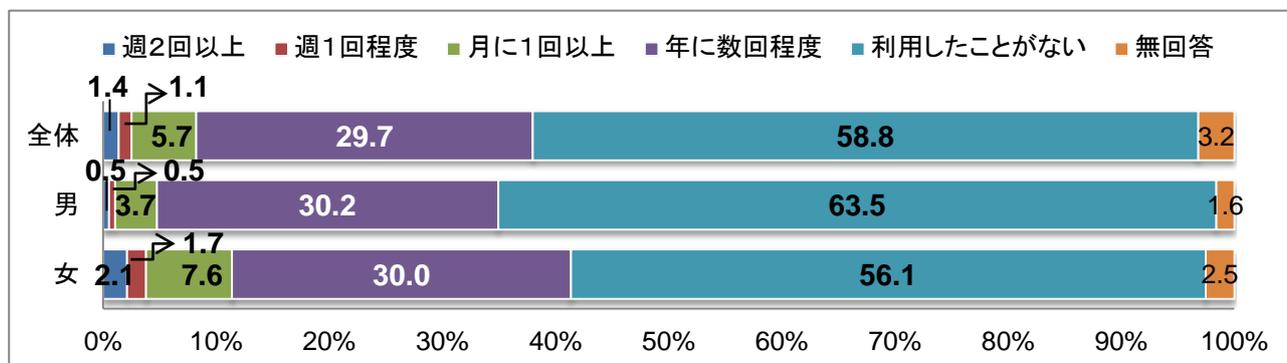
成果指標	基準値	実績値 ^(H26)	目標値 ^(H27)
社会活動や地域活動(ボランティア活動・自治会活動など)に参加した市民の割合	46.8%	70.5%	65.0%

3 公共交通について

設問④-1 バス（予約型乗合タクシー含む）または鉄道（以下、「公共交通機関」といいます。）の利用頻度として当てはまるものを一つ選んでください。

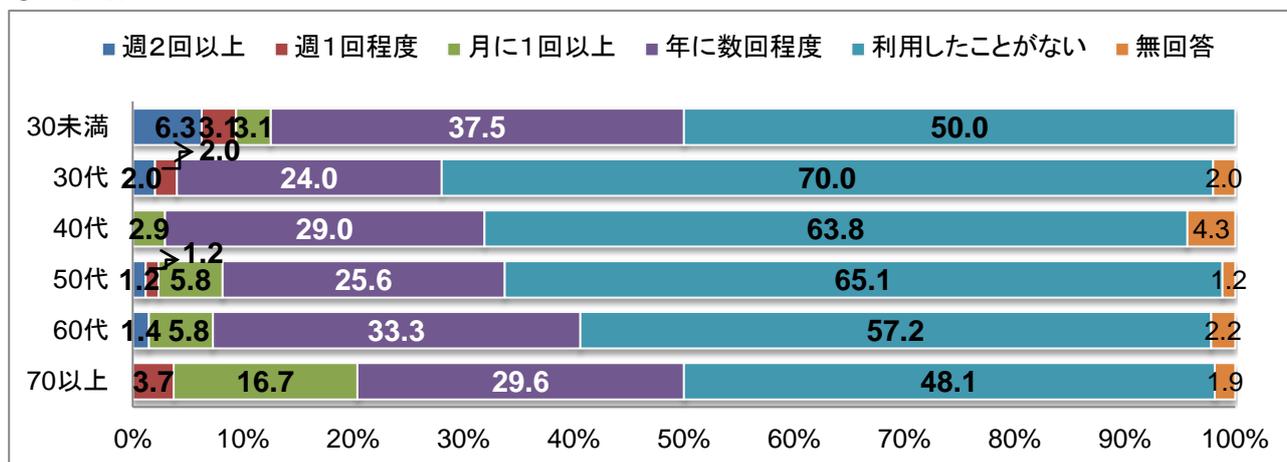
①全体／男女別

[単位：%]



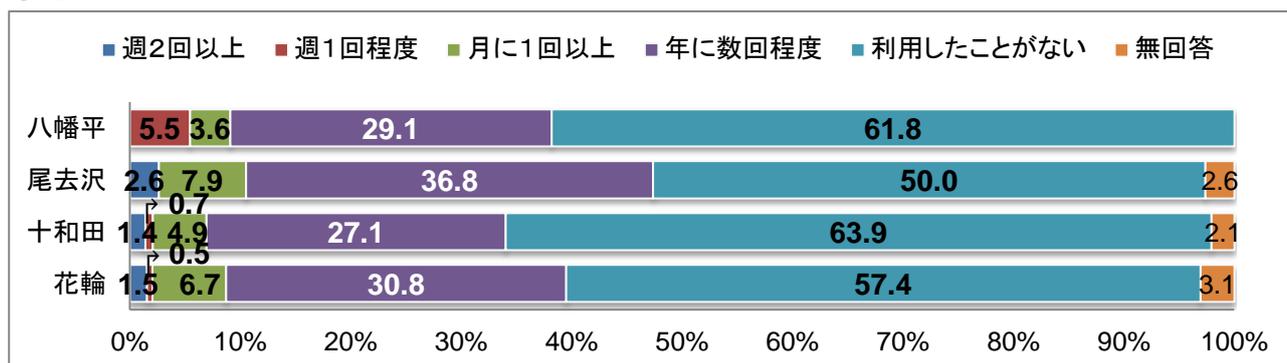
②年齢別

[単位：%]



③地区別

[単位：%]



④分析結果

公共交通機関を数年間利用したことがないと回答した人が58.8%にのぼり、年に数回利用と回答した人を含め9割近い人が、自家用車を日常の移動手段として考えています。

年代別では、全く利用していない人が30代～50代で特に多く、バスの利用者は60代、70代が多くなっています。

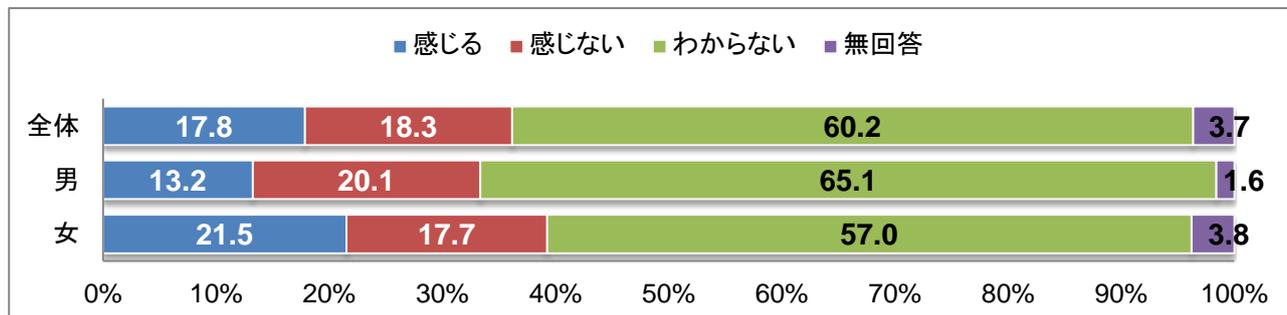
月に1回以上の利用者を見ると、全体では8.2%にとどまっていますが、70歳以上では約2割の人が利用しており、地区別では尾去沢地区が最も多く、十和田地区が最も少なくなっています。

週2回以上の利用者は、1.4%と大変少ないものの、延べ利用数としては大きな需要と捉えています。

設問④-2 あなたは、普段の生活の中で、バスや鉄道などの公共交通機関による移動に不便を感じていますか。

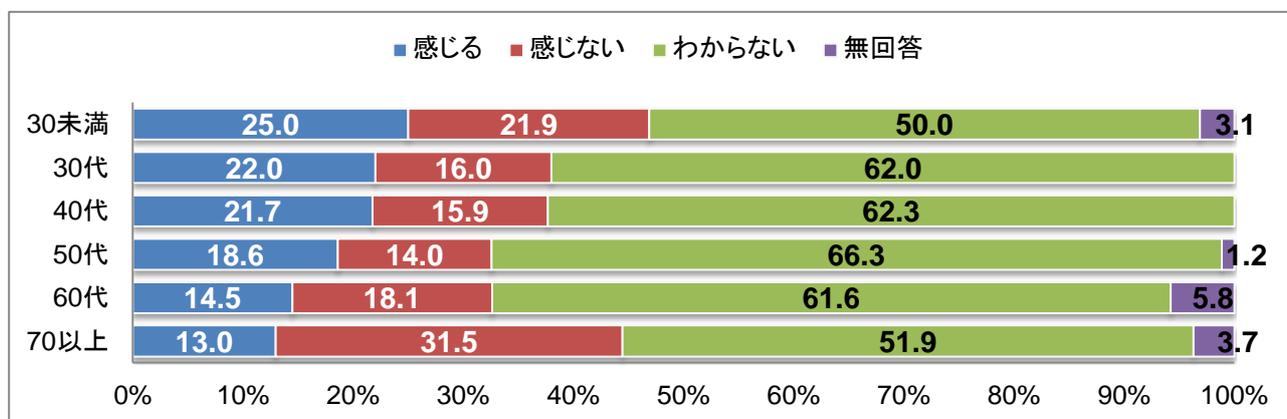
①全体／男女別

[単位：%]



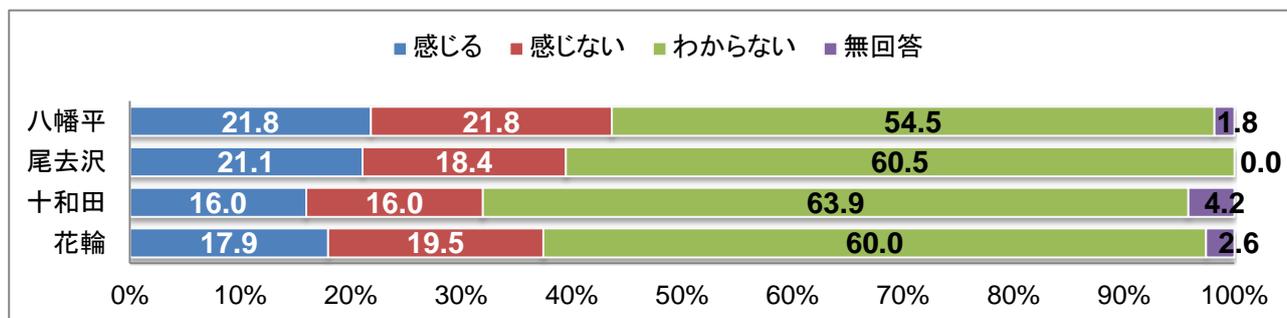
②年齢別

[単位：%]



③地区別

[単位：%]



④分析結果

公共交通に不便を感じると回答した割合は17.8%で、理由としてはバス、鉄道とも「本数が少ない」「時間が合わない」が圧倒的に多く、他に土・日運行が無いことや乗り換えの不便さが挙げられています。不便を感じる人の割合は若い年代ほど高く、地区別では八幡平地区、尾去沢地区が高くなっています。

公共交通が不便かどうかわからないとの回答が60.2%と大変高く、利用しないため関心が向けられていないことがうかがわれます。

【参考】第6次総合計画成果指標と実績値

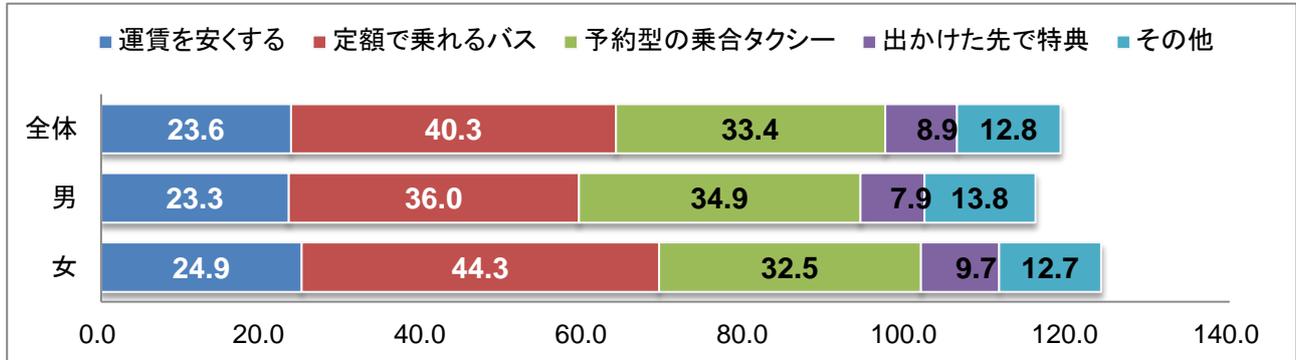
成果指標	基準値	実績値(H26)	目標値(H27)

公共交通に不便を感じる市民の割合	24.6%	17.8%	19.5%
------------------	-------	-------	-------

設問④-3 あなたが、バスがもっと利用しやすくなると思う取り組みはどれですか？(複数回答可)

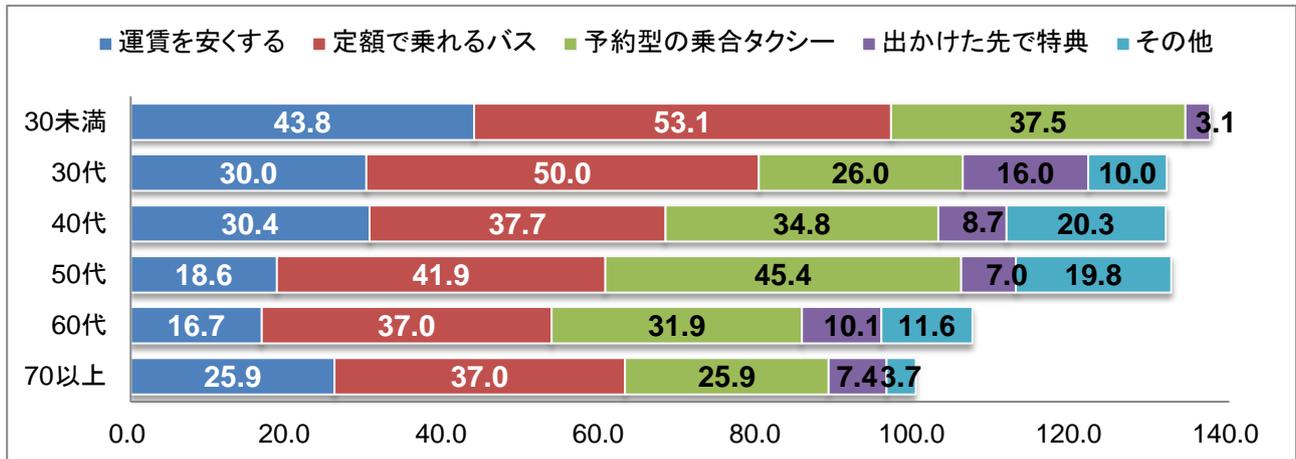
①全体／男女別

[単位：%]



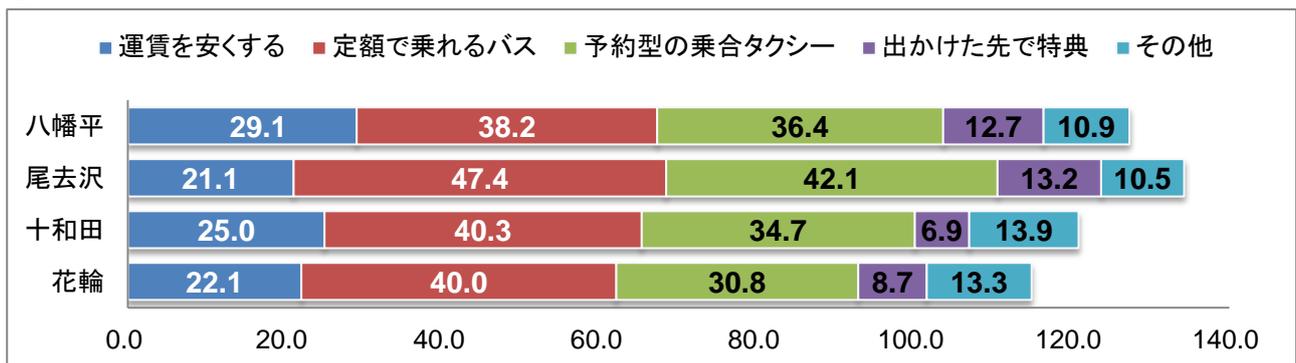
②年齢別

[単位：%]



③地区別

[単位：%]



④分析結果

バスが利用しやすくなる取り組みとして、40.3%の人が「距離に関係なく一定額で乗れるバス」を選択しており、運賃に関しては「安さ」より「定額」を希望する声が多く、分かりやすさが向上することで利用しやすくなるものと考えられます。一方で、運賃の安さを望む声は八幡平地区と十和田地区に比較的多く、距離が長いほど運賃負担が切実である状況がうかがえます。

次いで多かった予約型の乗合タクシーについては、33.4%の方が有効な取り組みと考えており、年代別にみると50代が一番多く約45%の人がデマンドを支持しています。また、地区別では花輪

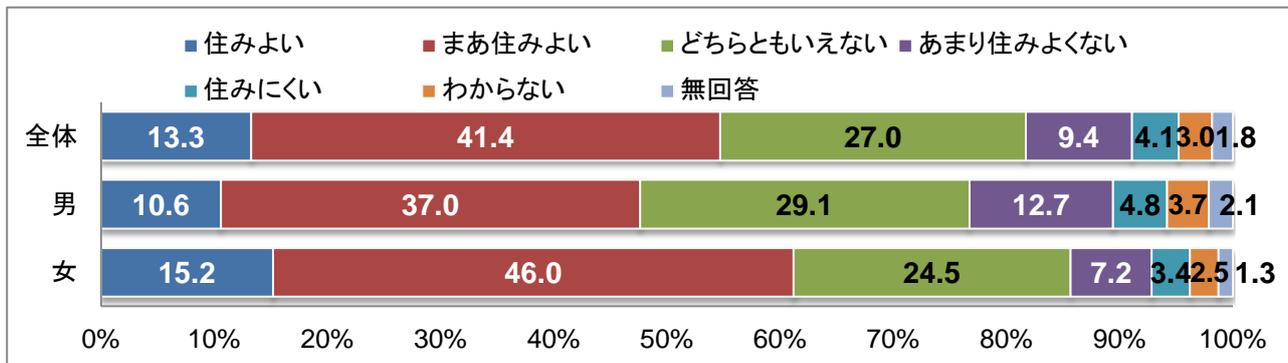
以外の各地区において期待が高い状況となっています。

4 まちづくりについて

設問⑤ あなたにとって、鹿角市の住みごちはどうですか。

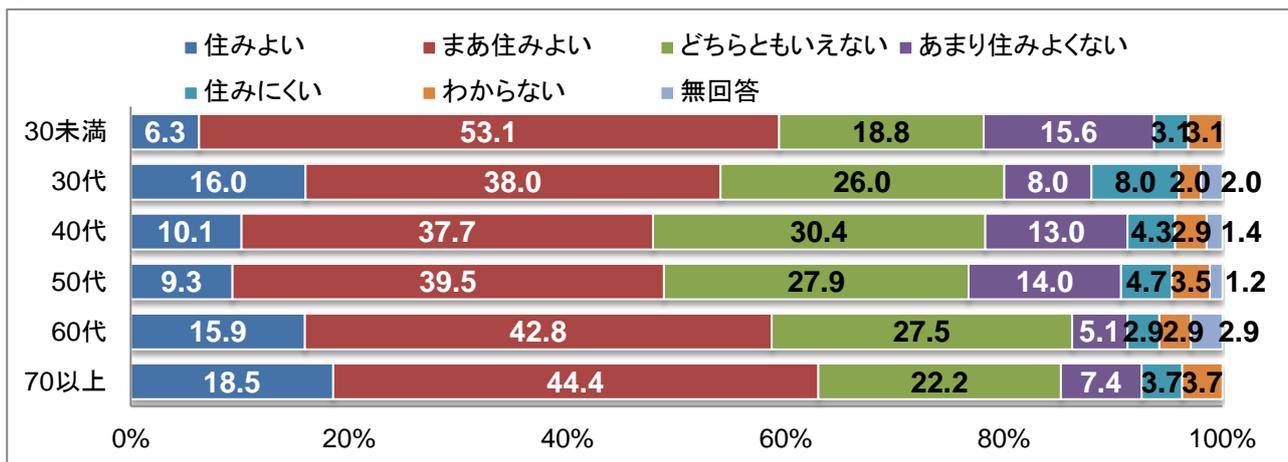
①全体／男女別

[単位：%]



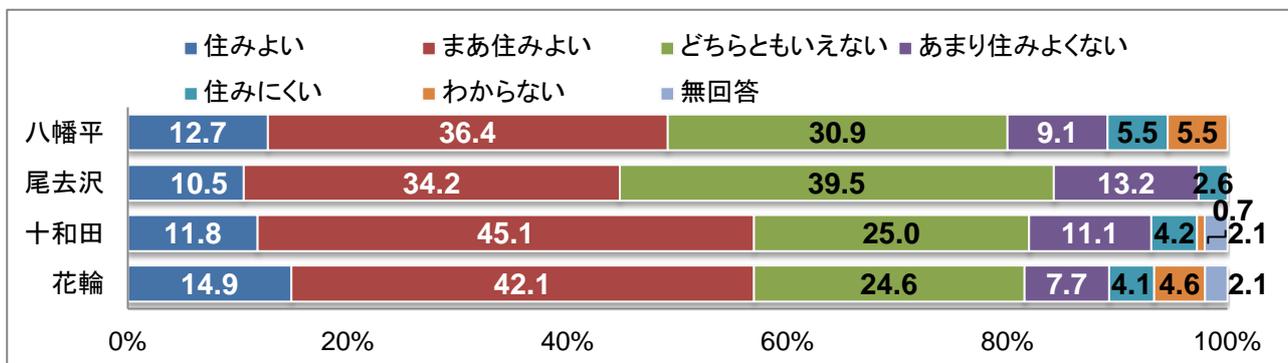
②年齢別

[単位：%]



③地区別

[単位：%]



④分析結果

調査の結果、「住みよい」、「まあ住みよい」と回答された方は54.7%であり、「あまり住みよくない」、「住みにくい」の13.5%を大きく上回っています。

年齢別では70代の62.9%を筆頭に、30歳未満、30代、60代からはおおよそ6割の方が「住みよい」、「まあ住みよい」と回答されていますが、40代、50代では5割を下回っており、年代間で

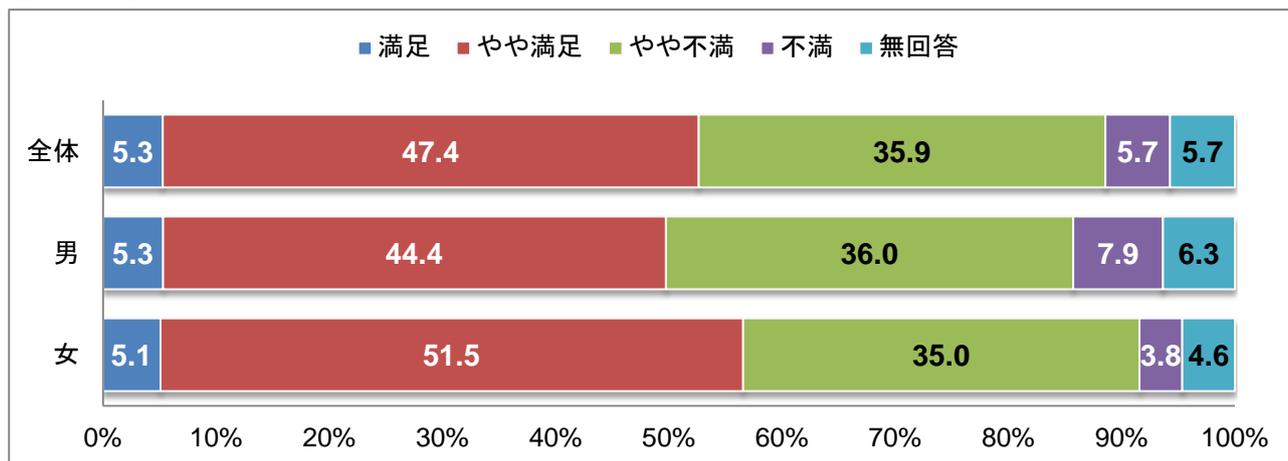
捉え方に若干の差が見られます。地域別では、花輪、十和田地区において、5割を超える方が「住みよい」、「まあ住みよい」と回答される中、八幡平、尾去沢地区では5割を下回っており、商店街を抱える地区の方が住みよいと感じる傾向にあると推測されます。

5 市街地の整備について

設問⑥ あなたは、花輪市街地の生活環境（住みごちだけでなく、交通の便や公共施設の配置など中心地としてのまちの便利さ）に満足していますか。

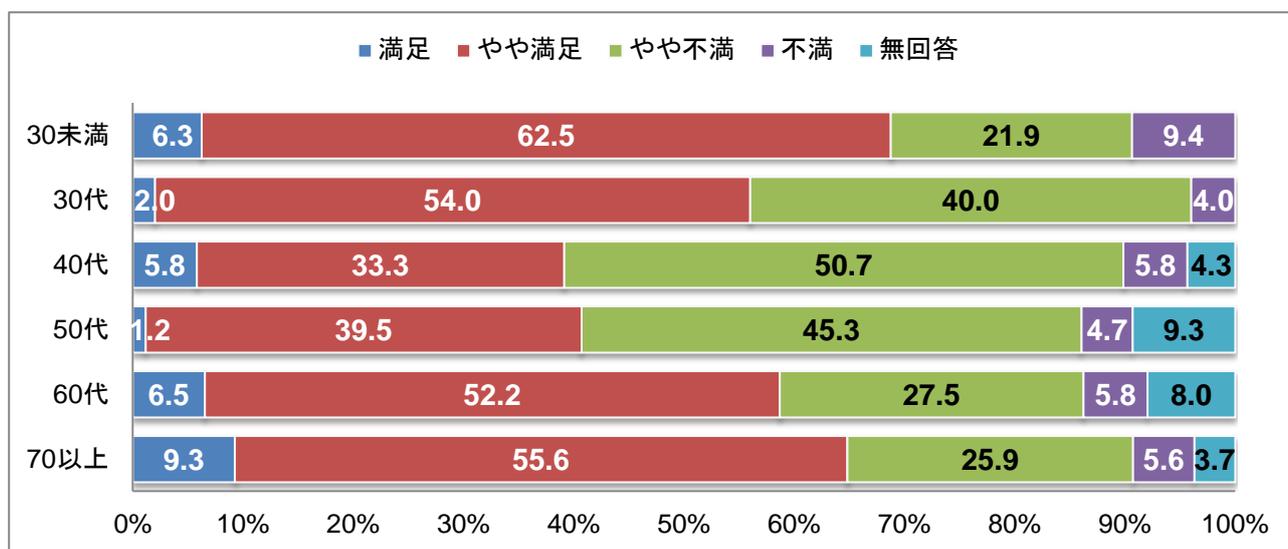
①全体／男女別

[単位：%]



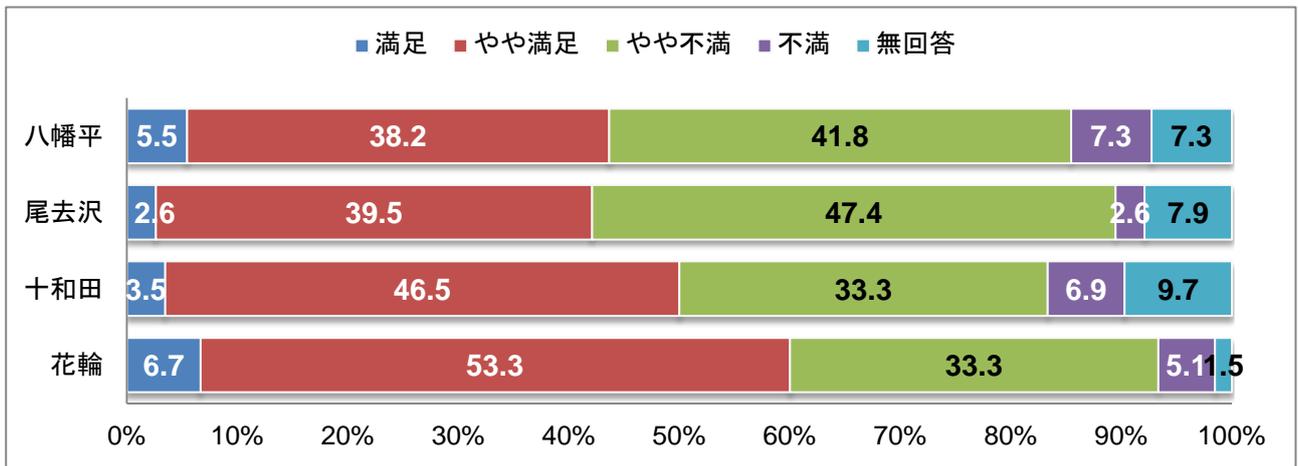
②年齢別

[単位：%]



③地区別

[単位：%]



④分析結果

調査の結果、花輪市街地の「満足」、「やや満足」とする満足度は52.7%と昨年よりも4.5ポイント減少しました。

「不満」と回答した割合は減少傾向にあるものの、「やや不満」と回答した割合は依然として高く、「交通の不便さ」、「駐車場の少なさ」を理由とする意見が多く寄せられています。また、その他の意見として、「お店が少ない」、「購入したい商品がない」、「公共施設が分散していて不便」などが挙げられています。

「やや不満」、「不満」と回答された方の年齢別では、40代の56.5%が最も高く50代の50.0%と続いており、60歳以上の方とは10ポイント以上の差があることから、自家用車で中心市街地や商店街を訪れた際の不便さが主な理由と推測できます。

満足度を地区別にみると、八幡平地区と尾去沢地区で低い傾向にあり、花輪市街地への距離や利用形態の差が現れたものと推測されます。

〔参考〕第6次総合計画成果指標と実績値

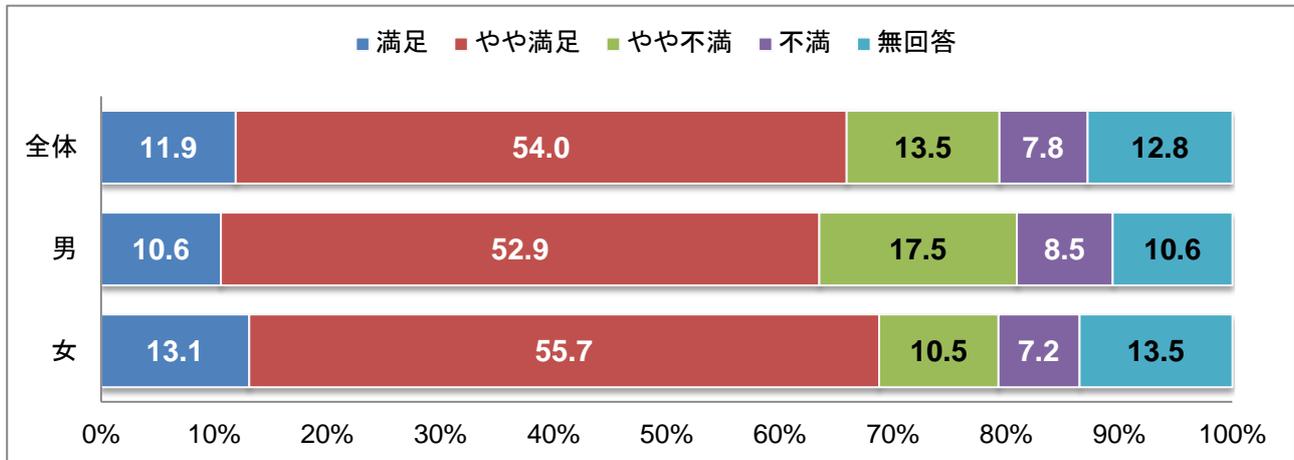
成果指標	基準値	実績値 (H26)	目標値 (H27)
中心市街地の環境に満足している市民の割合	20.2%	52.7%	55.0%

6 公園の環境について

設問⑦ あなたは、市内の公園の整備状況に満足していますか。

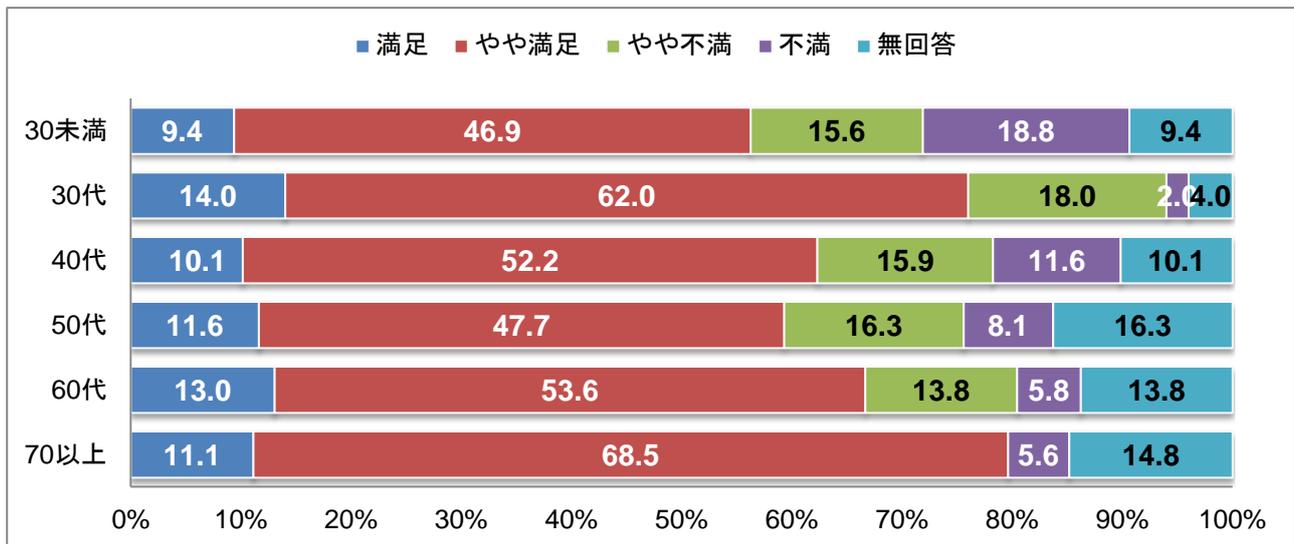
①全体／男女別

[単位：%]



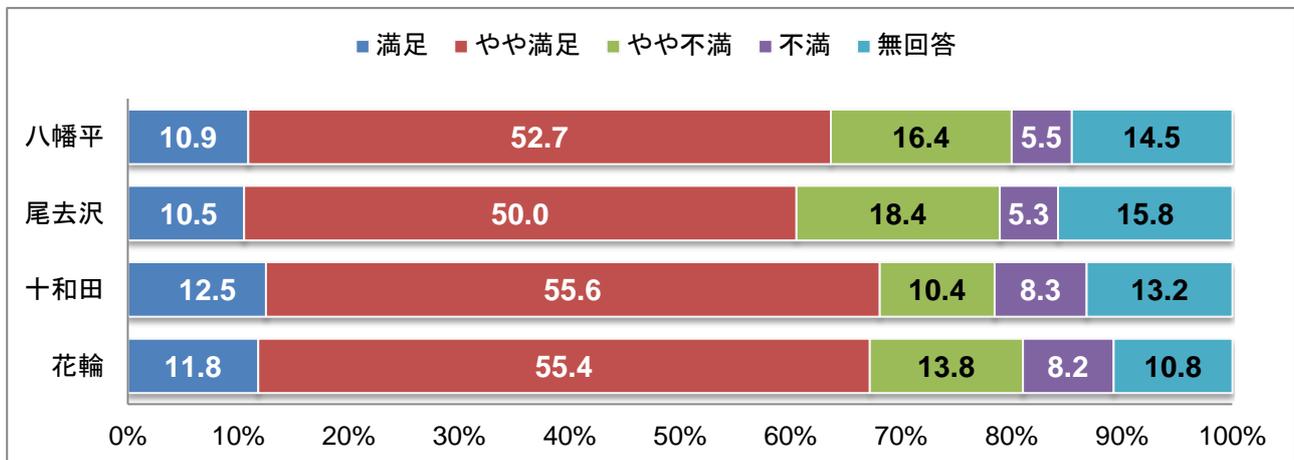
②年齢別

[単位：%]



③地区別

[単位：%]



④分析結果

「満足」、「やや満足」の割合は65.9%となっており、30代の子育て世代と60歳以上で評価が高くなっています。

一方、「やや不満」、「不満」の割合は21.3%と昨年と比べ0.6ポイントの増となっており、「雑草が目立つ」、「トイレが汚い」などの維持管理に関するものや、「場所がわからない」、「近くにない」、「遊具の老朽化」などの周知や整備に関するものなどの理由があげられています。

公園管理においては、地元自治会や老人クラブ等と協力しながら、定期的な点検により故障等の早期対応を実施しており、適切な維持管理に努めます。

〔参考〕第6次総合計画成果指標と実績値

成果指標	基準値	実績値(H26)	目標値(H27)
公園の環境に満足している市民の割合	56.7%	65.9%	71.0%

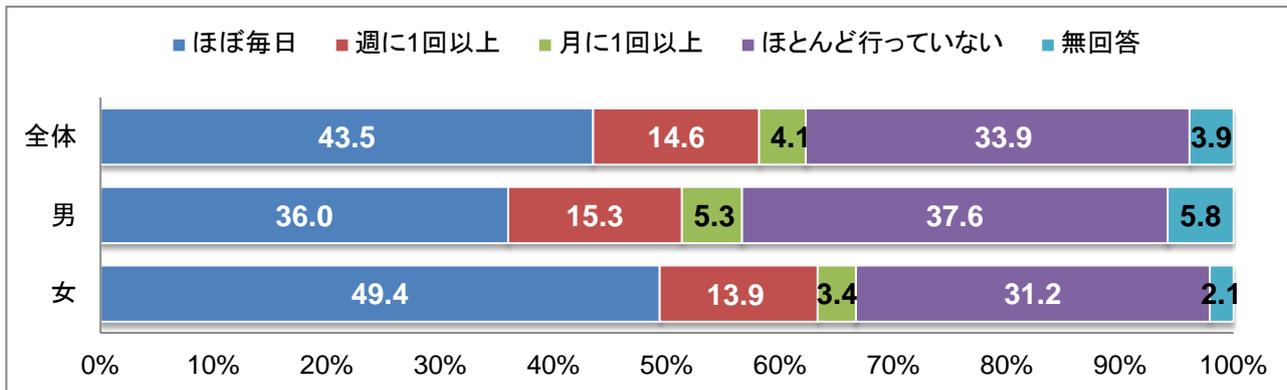
7 運動の実施状況について

設問⑧ あなたは、普段どれくらい「運動」（ウォーキングや軽い体操）や、健康を意識した「生活活動」（農作業や家事、階段の上り下り等も含む）を行っていますか。

また、1回あたりの運動時間はどのくらいですか。

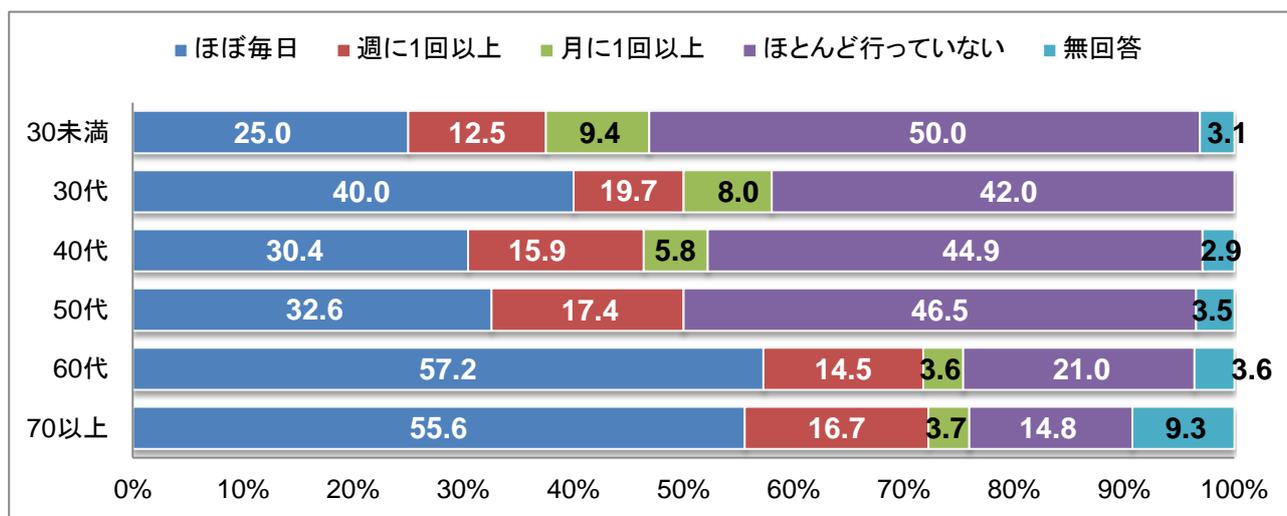
①全体／男女別

[単位：%]



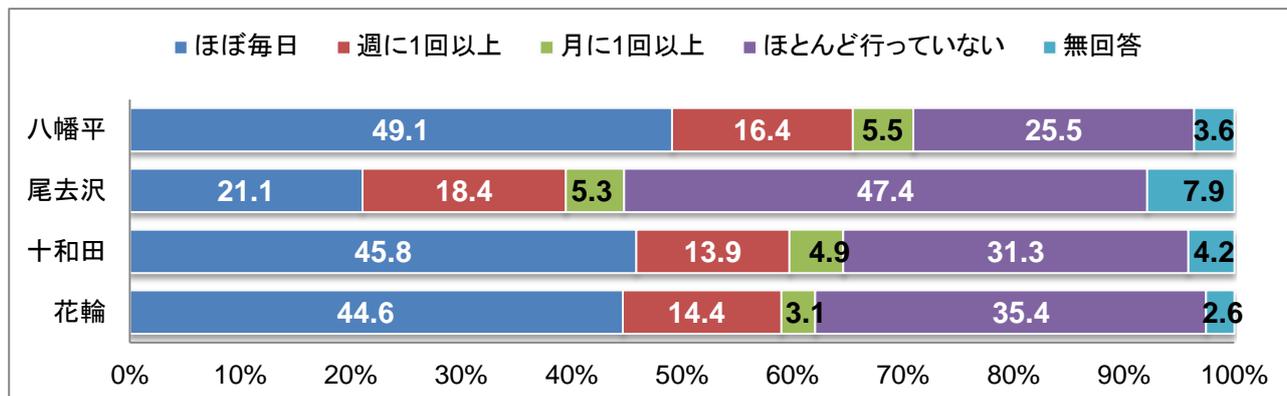
②年齢別

[単位：%]

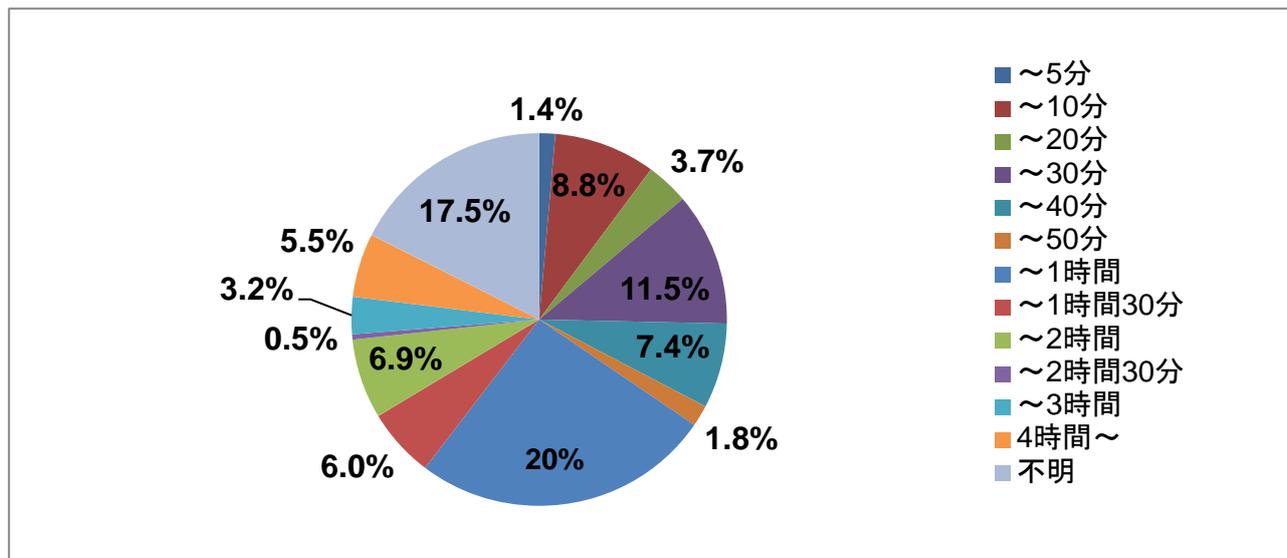


③地区別

[単位：%]



④ 1回あたりの運動時間



⑤分析結果

週1回以上、運動やスポーツを実施している市民の割合は、平成25年度より50%を超えており、今年度は58.1%となりました。

内容としてはウォーキング、散歩、ストレッチ、ラジオ体操への取り組みが多数を占めていますが、家事や農作業などの日常生活により運動をしているとした回答が23.2%に上り、日常的な生活活動動作でも運動を意識して取り組むことで健康づくりにつながる、という意識が醸成されてきているものと考えられます。

市では、チャレンジデーやタートルマラソン大会、スノーフェスティバルなどの開催により、運動やスポーツに取り組むきっかけとなる機会が継続的に提供されているものと考えていますが、特に運動をする機会が少ないとされる働き盛りの30～40歳代の運動実施率の向上を図るため、スポーツに取り組むきっかけづくりや、意識の醸成が重要といえます。

〔参考〕第6次総合計画成果指標と実績値

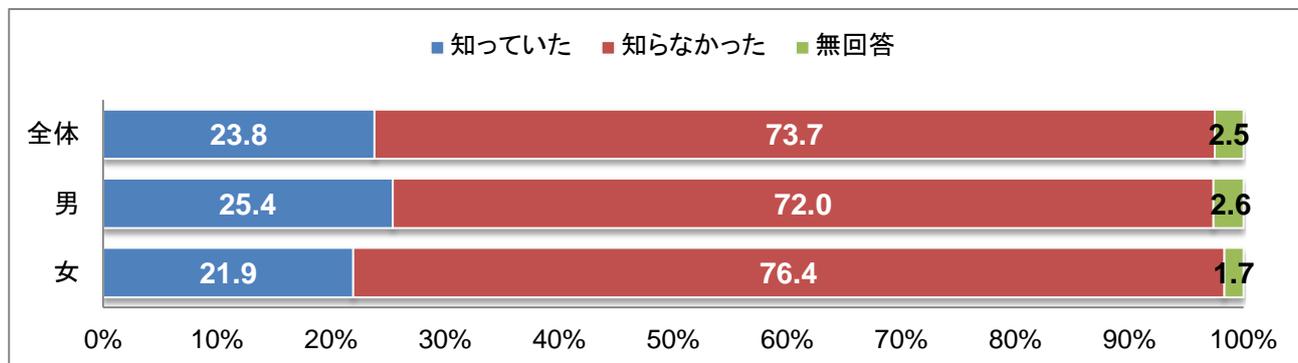
成果指標	基準値	実績値 (H26)	目標値 (H27)
週1回以上の頻度で運動やスポーツを実施する市民の割合	34.6%	58.1%	47.0%

8 男女共同参画の状況について

問⑨-1 あなたは、「ワーク・ライフ・バランス」という言葉を知っていましたか。

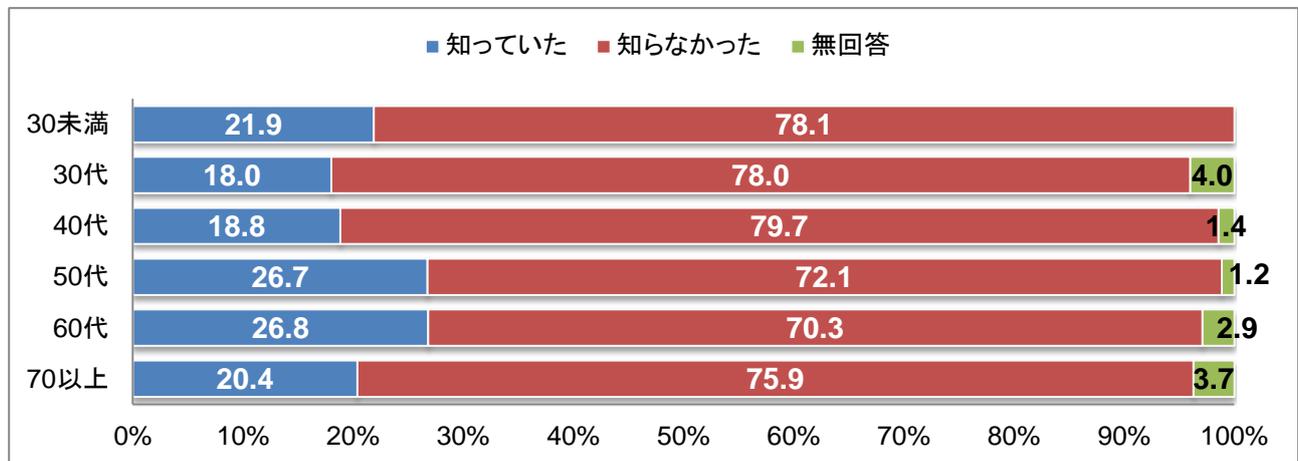
①全体／男女別

[単位：%]



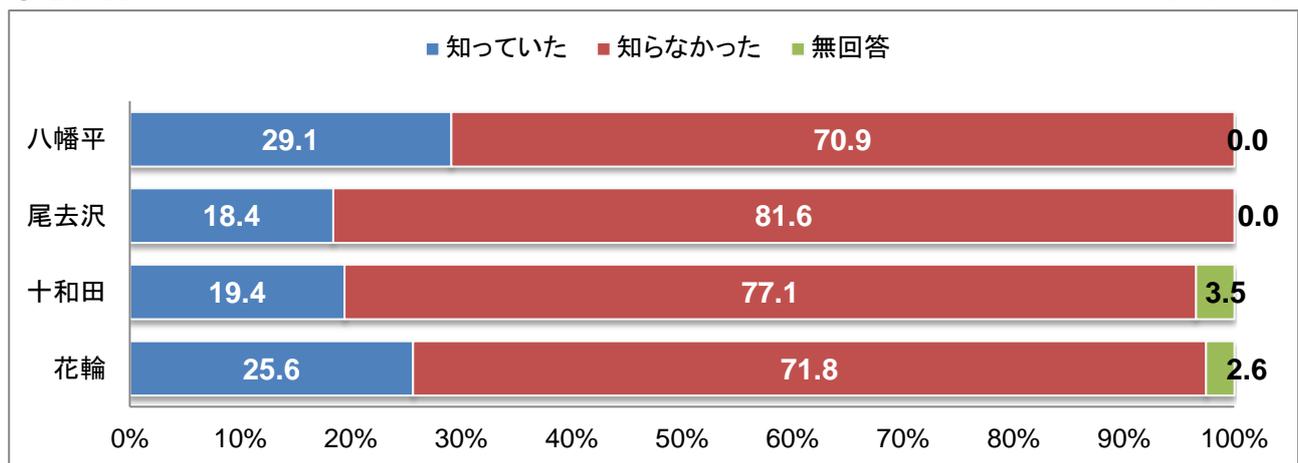
②年齢別

[単位：%]



③地区別

[単位：%]



④分析結果

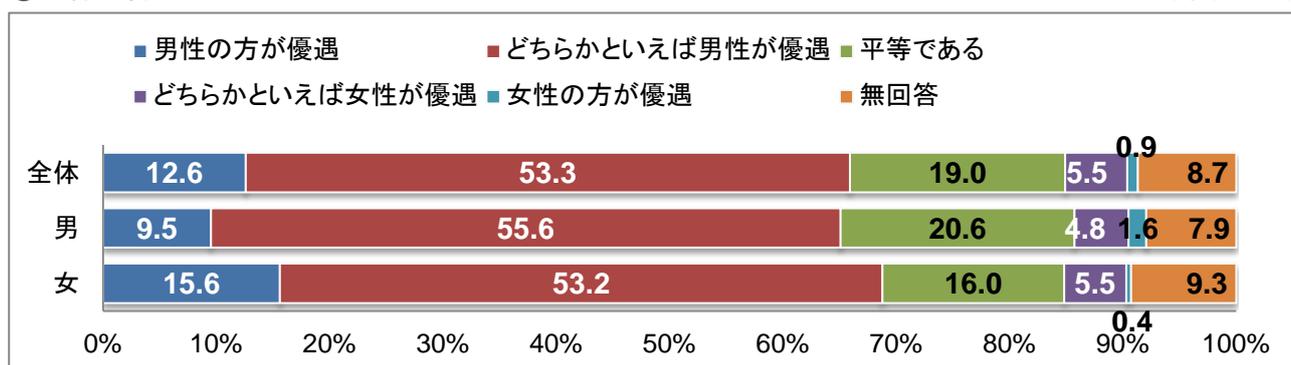
「ワーク・ライフ・バランス」を知っている人の割合は、23.8%と昨年度の調査（23.5%）とほぼ同じ状況です。

年代別で見ると、30歳未満が21.9%と昨年度に引き続き20%を超えてはいるものの、全ての年代で知らなかった割合が70%を超えていることから、全体的な認知度を上げるため、これまでと違う形の周知や啓発に取り組む必要があります。

問⑨-2 あなたは、地域社会全体でみた場合、男女の地位は平等になっていると思いますか。

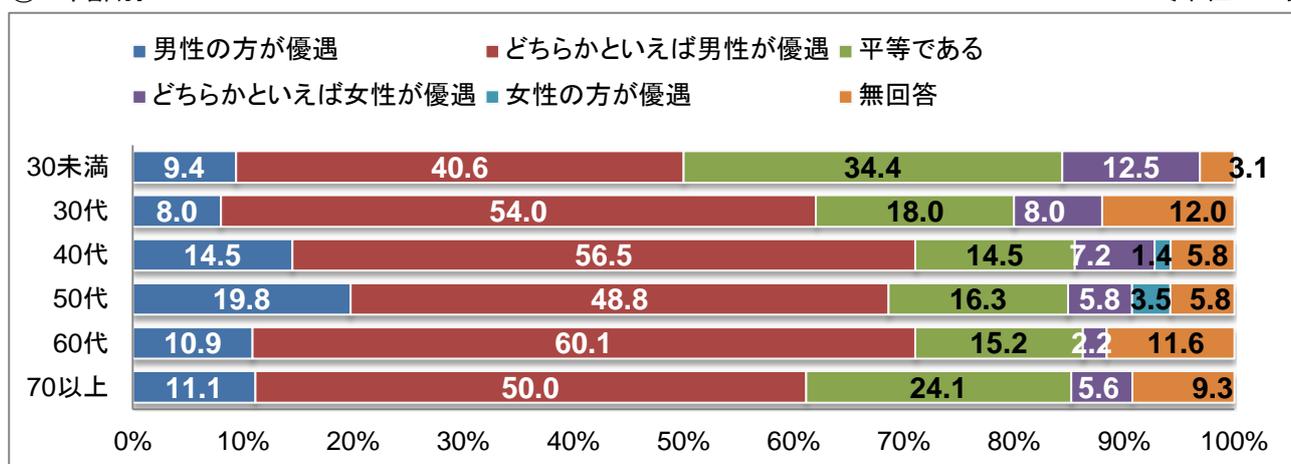
①全体／男女別

[単位：％]



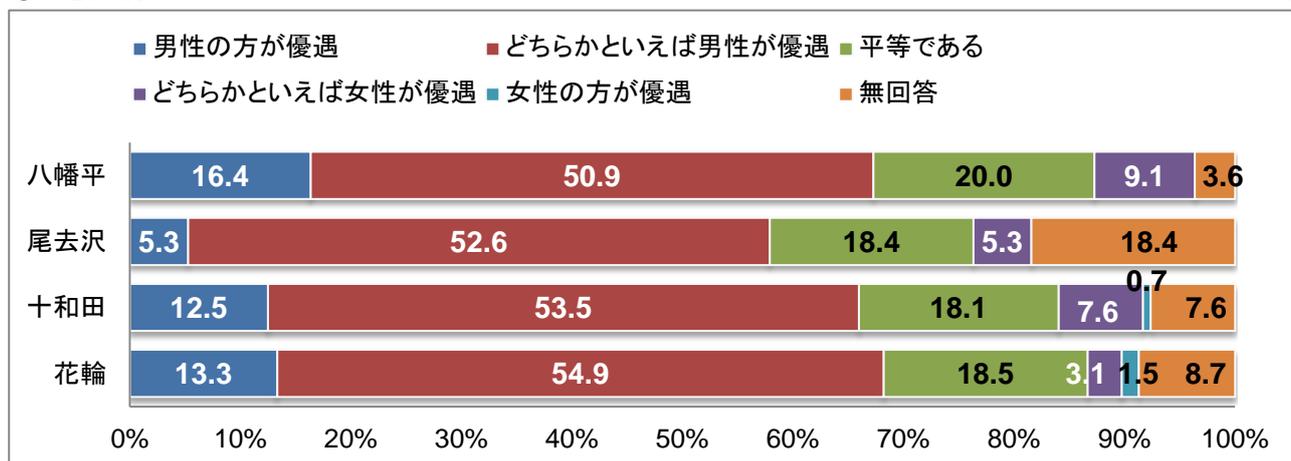
② 年齢別

[単位：％]



③ 地区別

[単位：％]



④分析結果

「男女の地位が平等である」と答えた人の割合は、19.0％と昨年度の調査（18.3％）とほぼ同じ状況です。

「男性が優遇されている」と答えた人は、「どちらかといえば男性が優遇されている」も含めると65.9％と高い状況になっています。

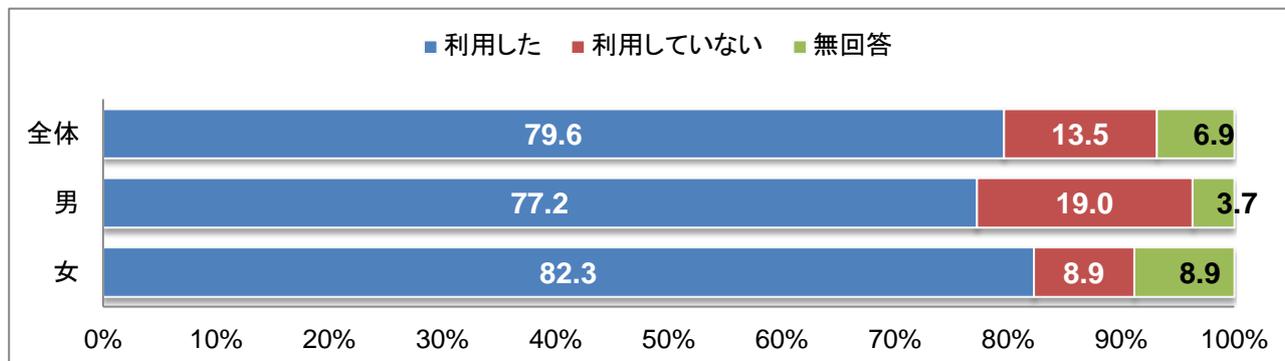
年代別にみると、30歳未満の「平等である」と答えた割合は34.4％と一昨年度、昨年度に引き続き30％を超え、他の年代と比較して高い割合を示していることから、若年層については、男女の地位など男女共同参画に関する知識や学習機会の成果が表れてきていると思われます。

9 地域医療について

問⑩-1 あなた（未成年のお子さんがある場合はその方を含む）は過去1年間で、医療機関を利用しましたか（歯科医を除く、検診及び予防接種を含む）。

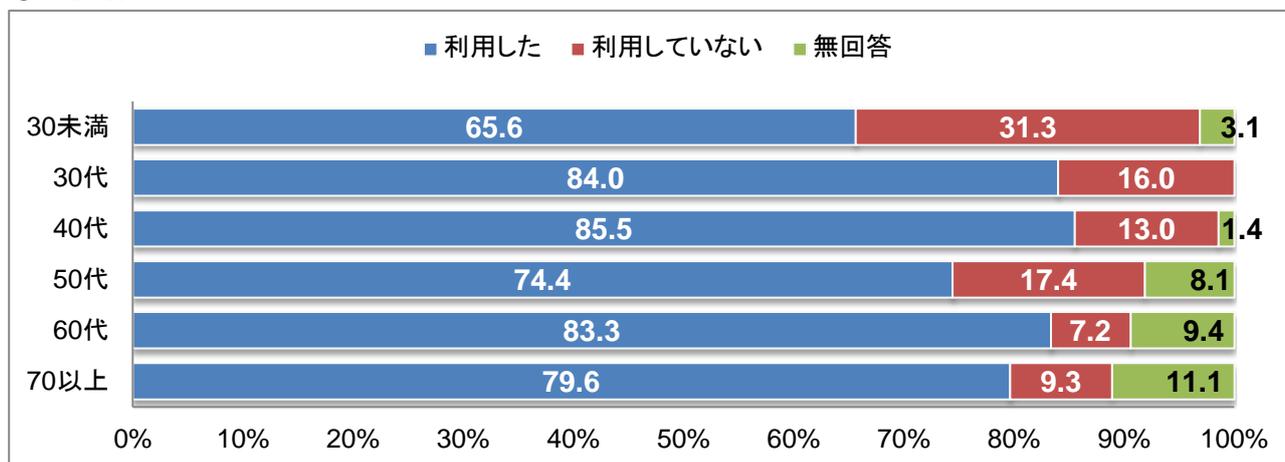
①全体／男女別

[単位：%]



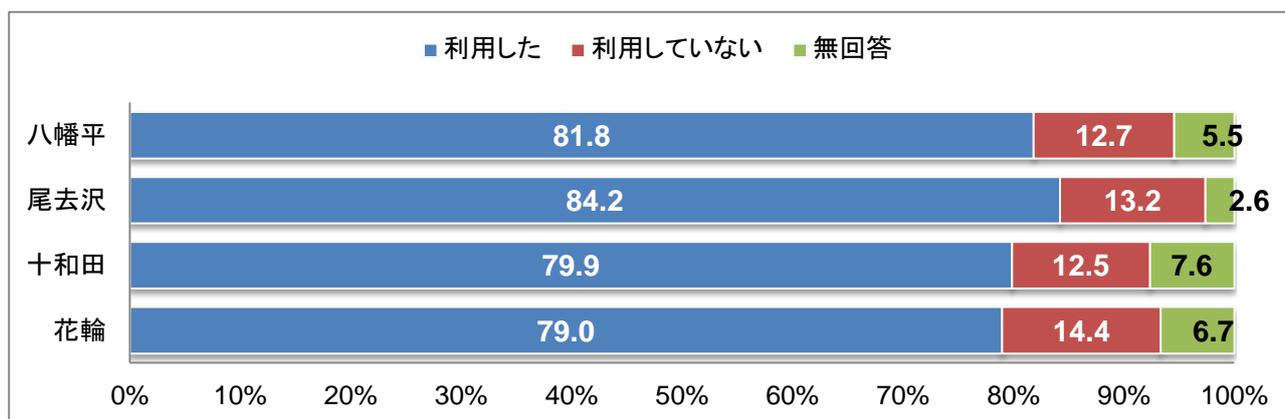
②年齢別

[単位：%]



③地区別

[単位：%]



④分析結果

過去一年間で、検（健）診や予防接種も含め医療機関を利用した人の割合は、79.6%と高い水準であり、多くの方が医療機関を利用していることがわかります。

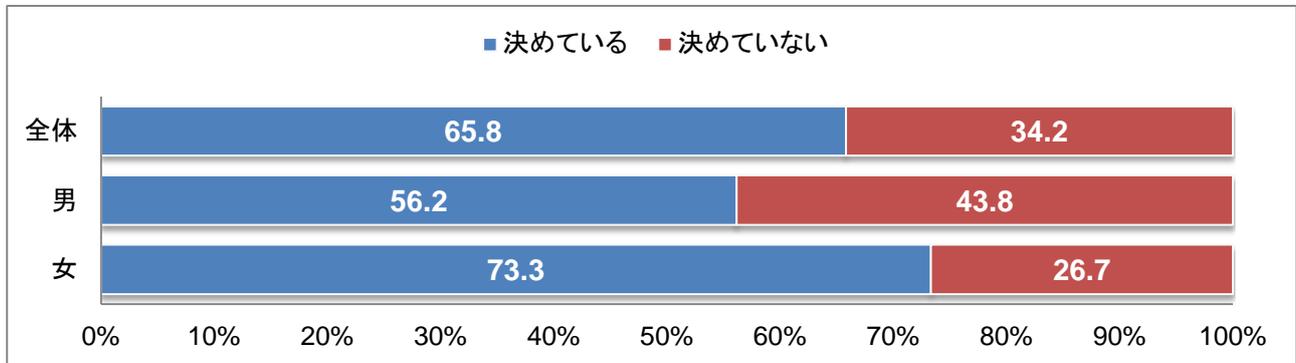
男女別では、女性が82.3%と男性より5.1ポイント高く、年代別では40代の85.5%、次いで30代の84.0%、最も低い30歳未満でも65.6%が利用したと回答しています。

地区別では、尾去沢地区が 84.2%と最も高く、花輪地区が 79.0%と最も低くなっています。

問⑩-2 あなたは、「かかりつけ医（歯科医を除く、検診及び予防接種を含む）」を決めていますか。「かかりつけ医」とは、特定の病気の専門医ではなく、日頃からちょっとした病気のとときに、決まって診てもらっているお医者さんのことです。

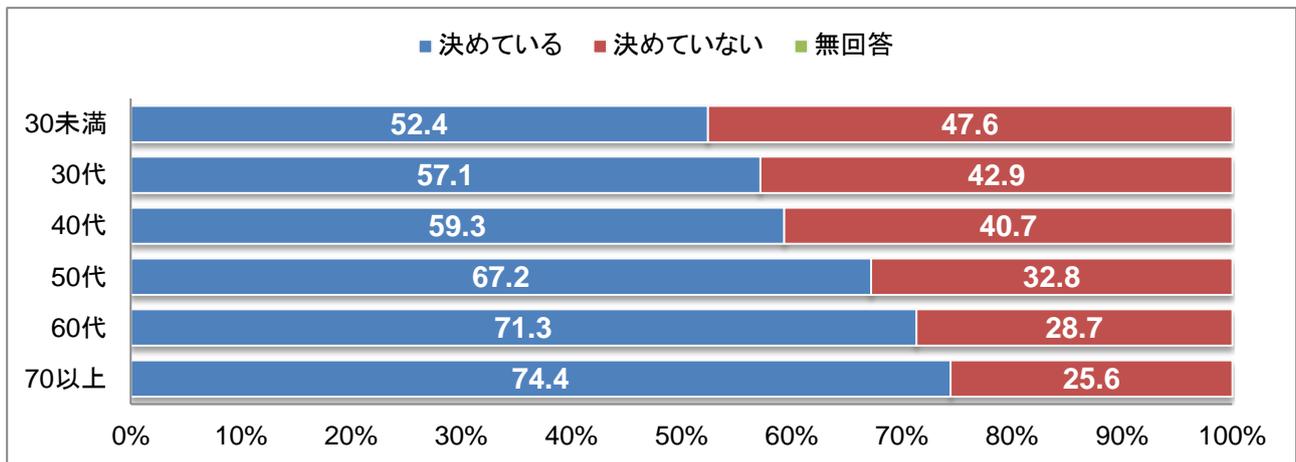
①全体／男女別

[単位：%]



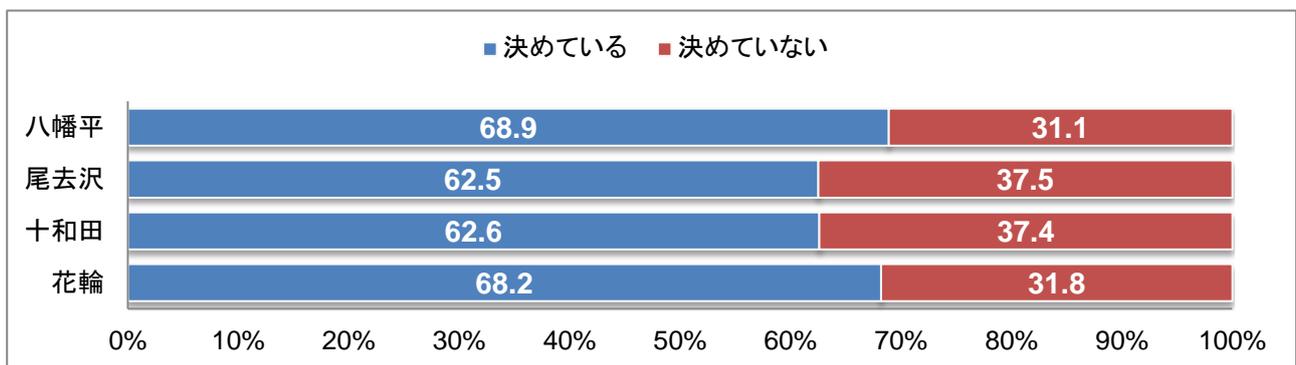
②年齢別

[単位：%]



③地区別

[単位：%]



④分析結果

「かかりつけ医を決めている」と回答した方は 65.8%で、昨年度比 3.1 ポイントの減となったものの、かかりつけ医については一定の割合で浸透しているものと考えられます。

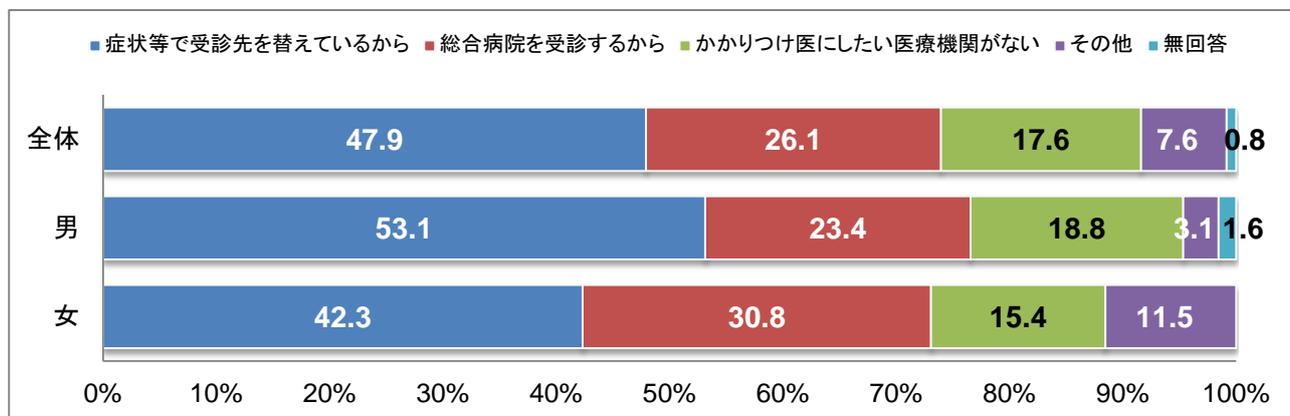
男女別では、男性が 56.2%、女性が 73.3%となっており、女性の方が意識が高いものと考えられます。

年齢別では、加齢ともにかかりつけ医を決めている割合が高くなる傾向が見られ、70代以上では74.4%となっています。また、30歳未満が52.4%と昨年度比21.6ポイント増となり、若い年代の方にもかかりつけ医が浸透しているものと考えられます。

問⑩-3 問⑩-2で「2. 決めていない」を選んだ方におたずねします。それはどのような理由からですか。

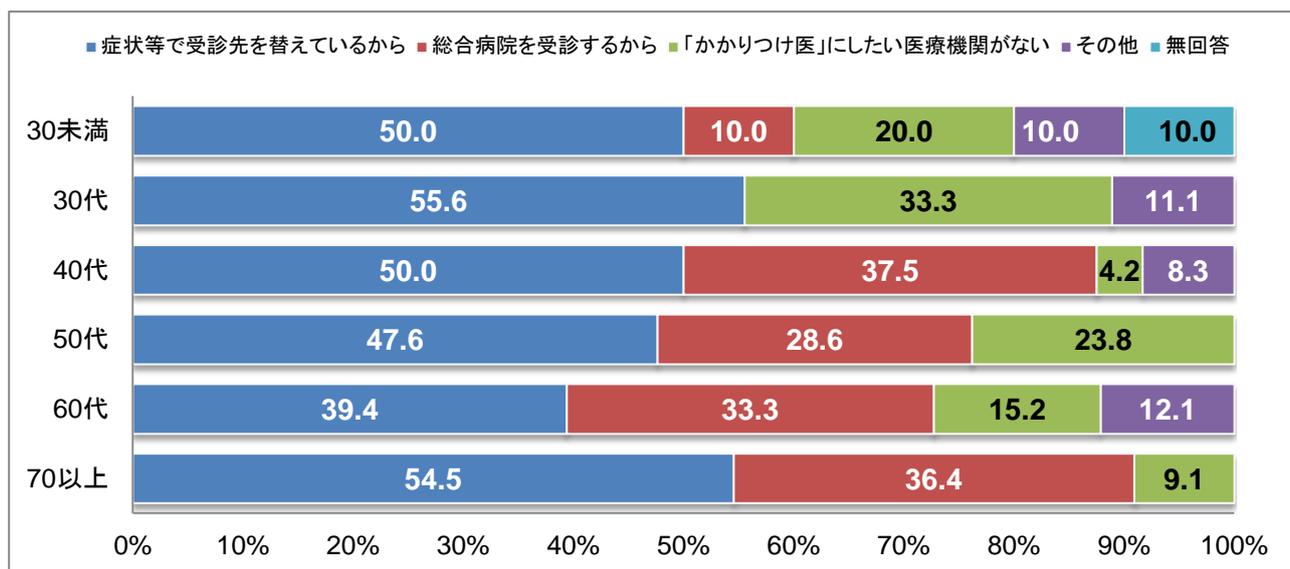
①全体／男女別

[単位：%]



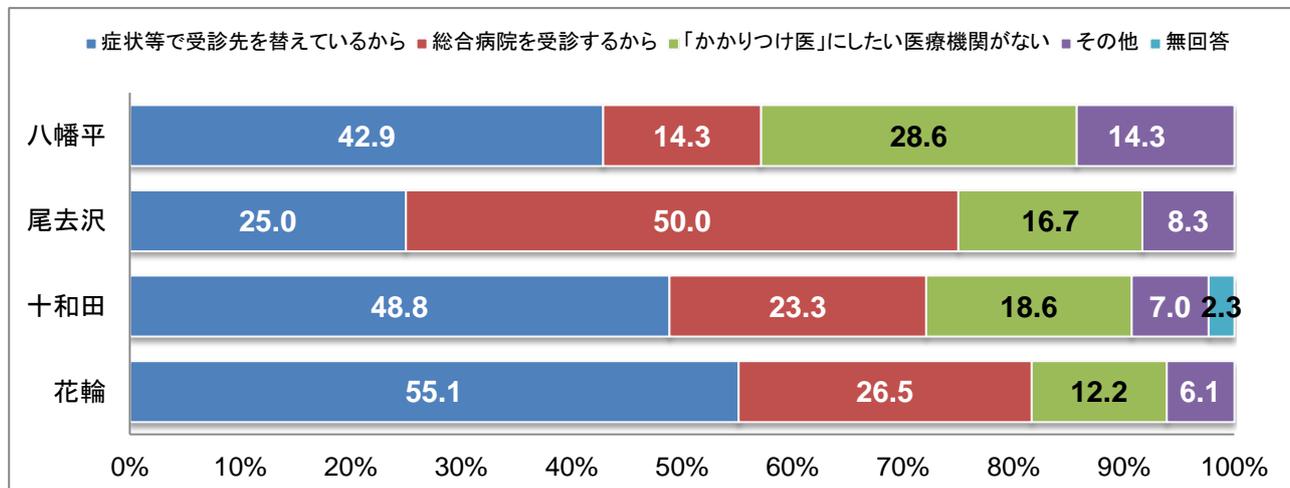
②年齢別

[単位：%]



③地区別

[単位：%]



④分析結果

「かかりつけ医を決めていない理由」として、全体的には「症状等で受診先を替えている」と回答した方の割合が高く、男性は53.1%、女性は42.3%となっています。

また、30歳未満では、「総合病院を受診」という回答が、他の世代と比較して極端に低くなっておりますが、これは若い世代では症状が軽いことが多く、混雑する総合病院を受診することを避ける傾向にあるものと推測されます。

その他の意見としては、「医療機関を受診する機会が少ないので必要性を感じない」とする意見が多くなっています。

〔参考〕第6次総合計画成果指標と実績値

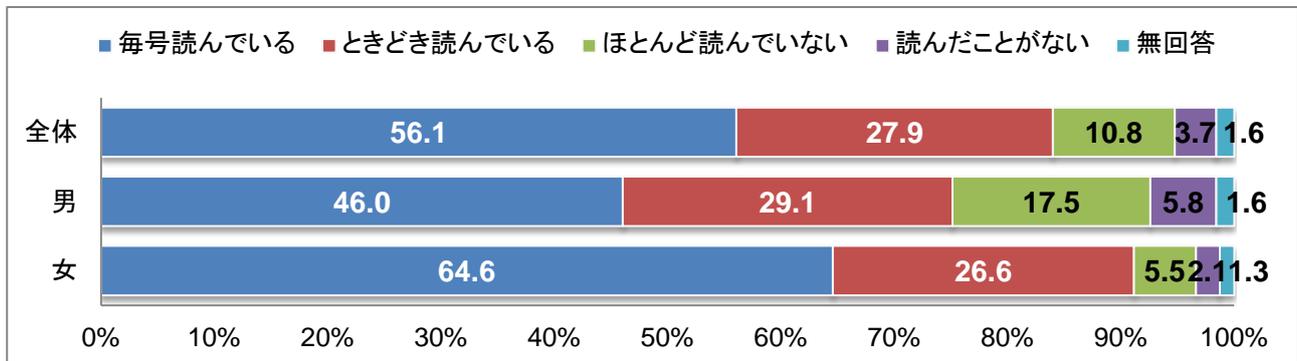
成果指標	基準値	実績値 ^(H26)	目標値 ^(H27)
かかりつけ医を持っている市民の割合	64.1%	65.8%	65.0%

10 広報について

問⑪-1 あなたは普段どのくらい「広報かつの」を読んでいますか。（電子媒体除く）。

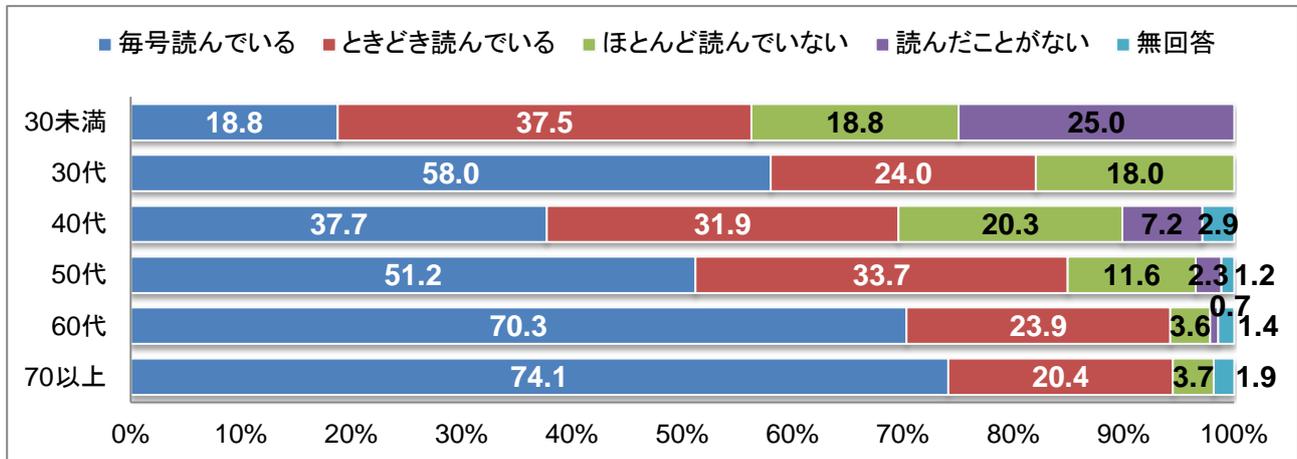
①全体／男女別

[単位：%]



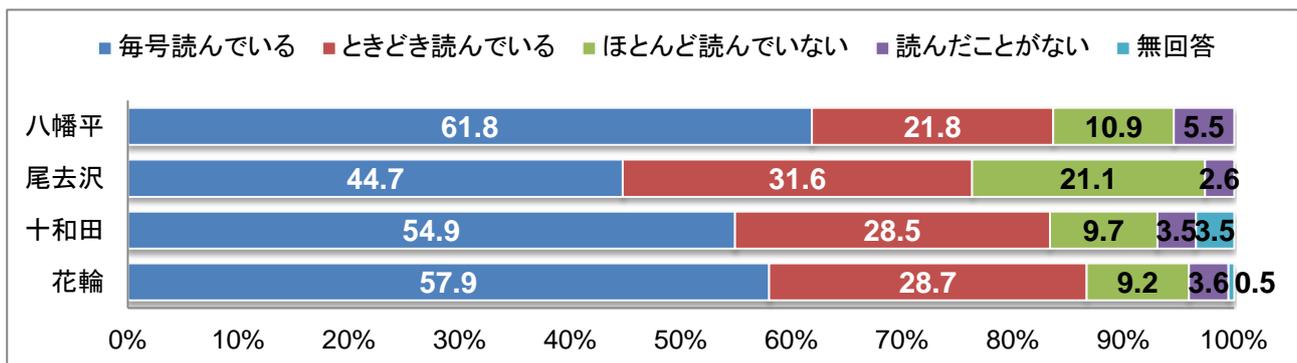
②年齢別

[単位：%]



③地区別

[単位：%]



④分析結果

「毎号読んでいる」方は56.1%、「ときどき読んでいる」方は27.9%と、あわせて84.0%の方が広報かつのを読んでいます。

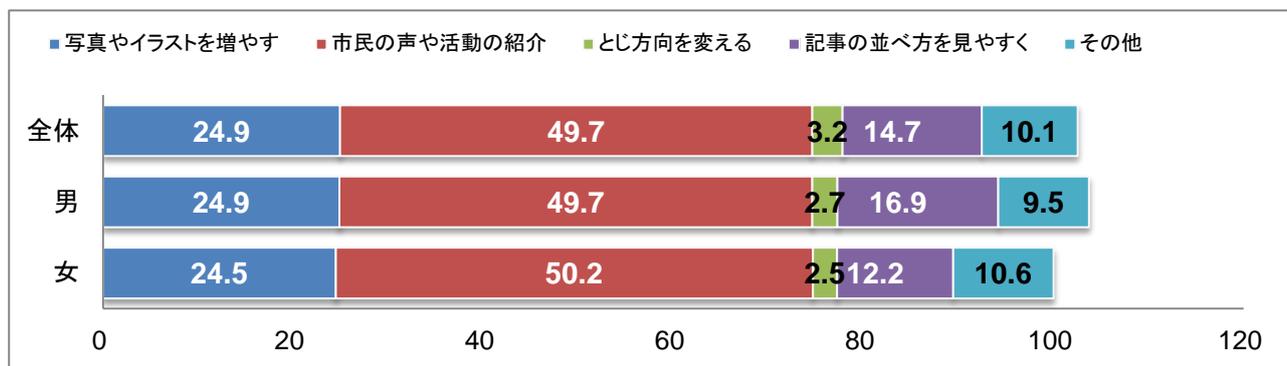
年代別にみると、広報を「毎号読んでいる」、「ときどき読んでいる」と回答した人の割合は、30歳未満で56.3%と他の年代に比べ低くなっていますが、30代、50代では80%以上、60代以上では約95%と広く読まれていることがうかがえます。

同じく読んでいる割合を地区別にみると、尾去沢地区が他地区と比べ低く、「読んでいない」、「ほとんど読んでいない」方が23.7%と高くなっています。

問⑪-2 あなたは、今後「広報かづの」のどのような点に工夫や改善をして欲しいと思いますか。
あてはまるものすべてに○をつけてください。

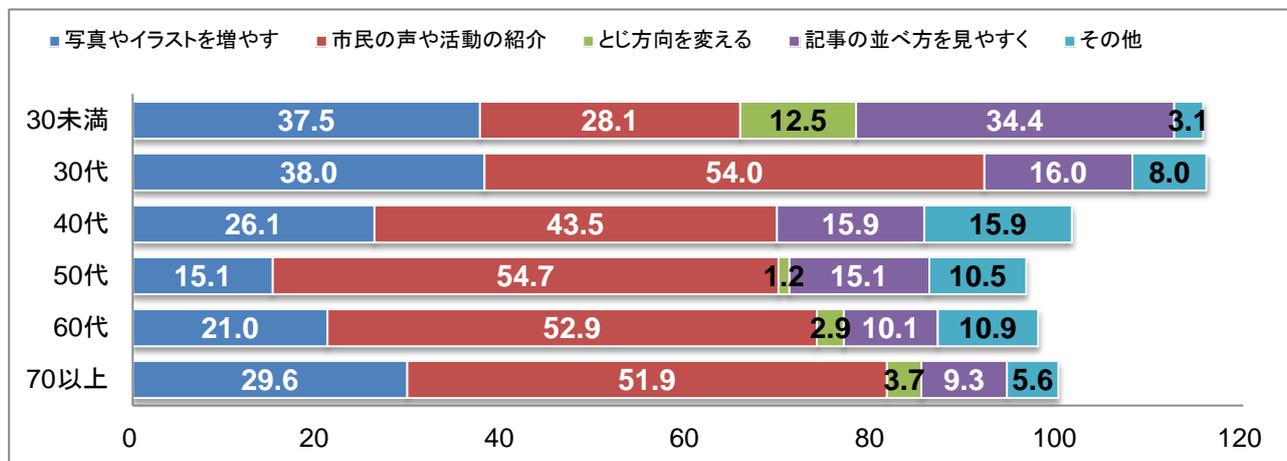
①全体／男女別

[単位：％]



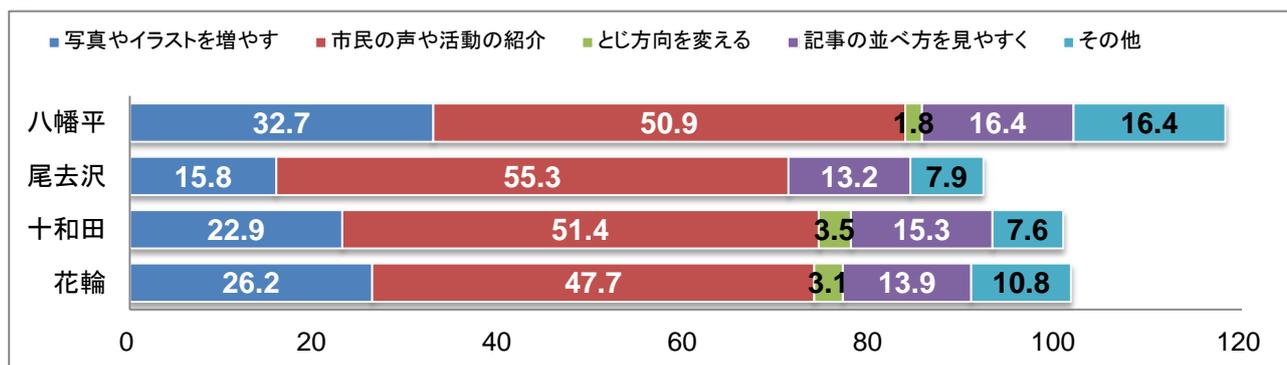
②年齢別

[単位：％]



③地区別

[単位：％]



④分析結果

広報かづのについて求める今後の工夫や改善としては、「市民の声や活動をもっと紙面で紹介する」が半数の方から選ばれており、地域、市民の身近な出来事の紹介がニーズとしてうかがえます。

年代別にみると、30歳未満では紙面構成の工夫（「写真やイラストを増やす」、「記事の並べ方をもっと見やすく」）が選ばれており、介護医療や子育てを中心とした行政情報の必要性が少ない世代であることや、多様なメディアに触れている世代であることなどが理由として考えられます。

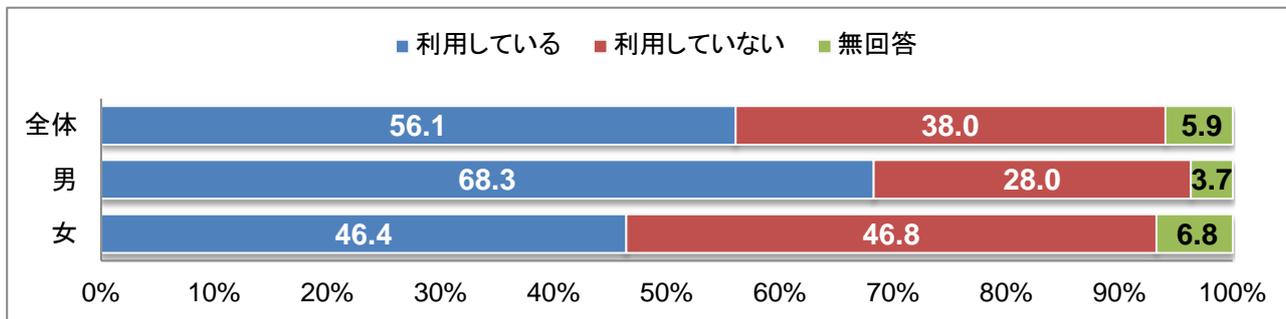
自由記述からは、結果ではなくこれからの出来事の掲載を求めるものも見られました。また、「このままでよい」と現状について好意的な評価も多く、毎号決まった位置に決まった情報があり探しやすいなどの評価もありました。

11 地域情報化について

設問⑫ あなたはインターネットを利用していますか。

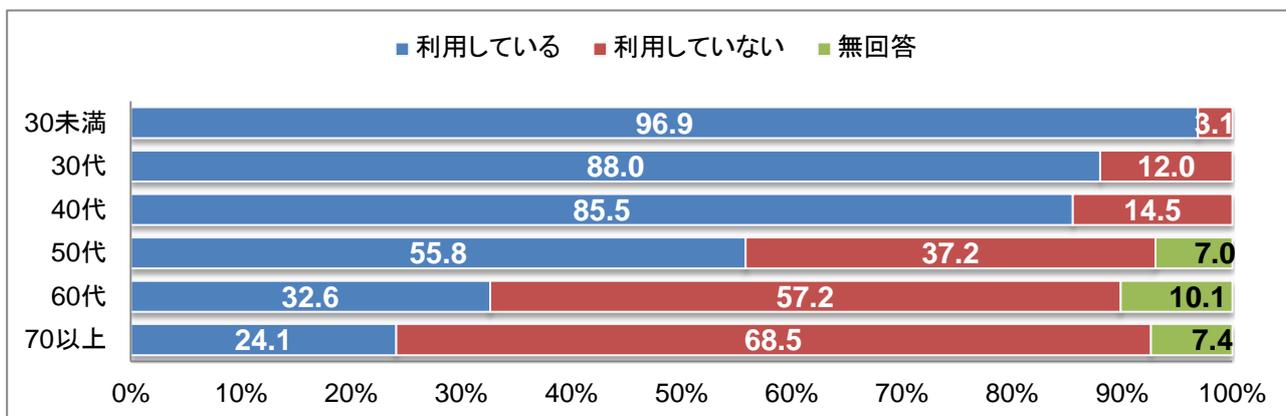
①全体／男女別

[単位：%]



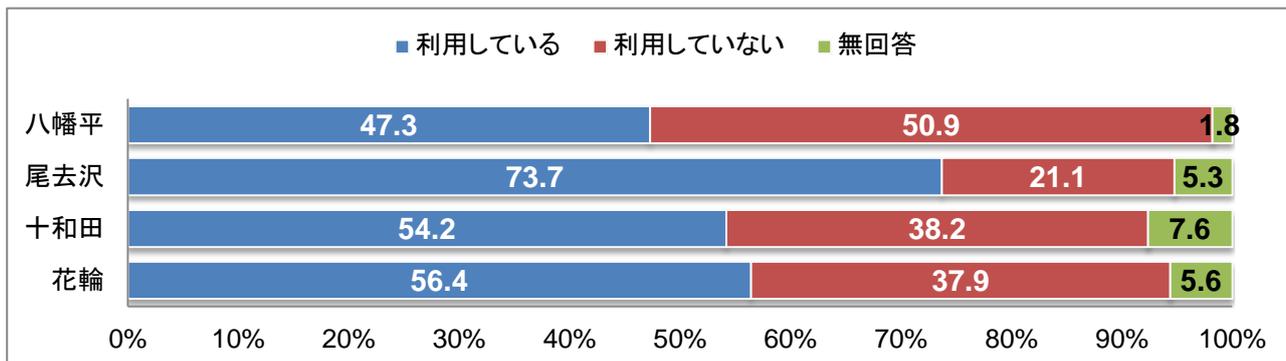
②年齢別

[単位：%]



③地区別

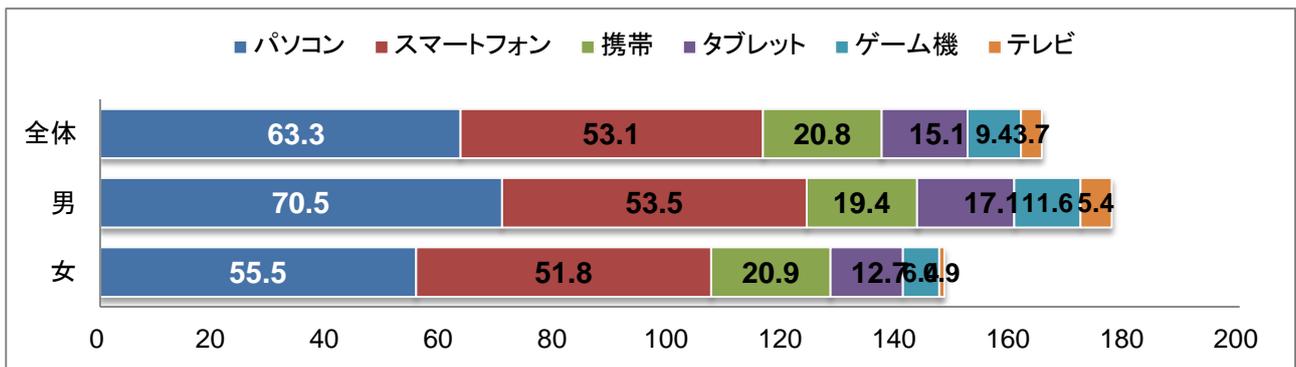
[単位：%]



◆利用している場合の利用機器（すべて回答）

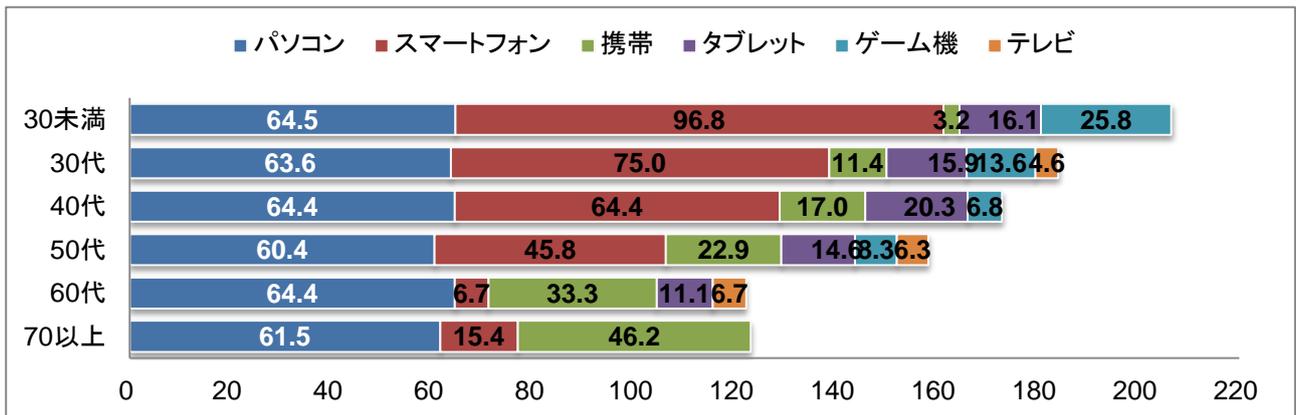
①全体／男女別

[単位：%]



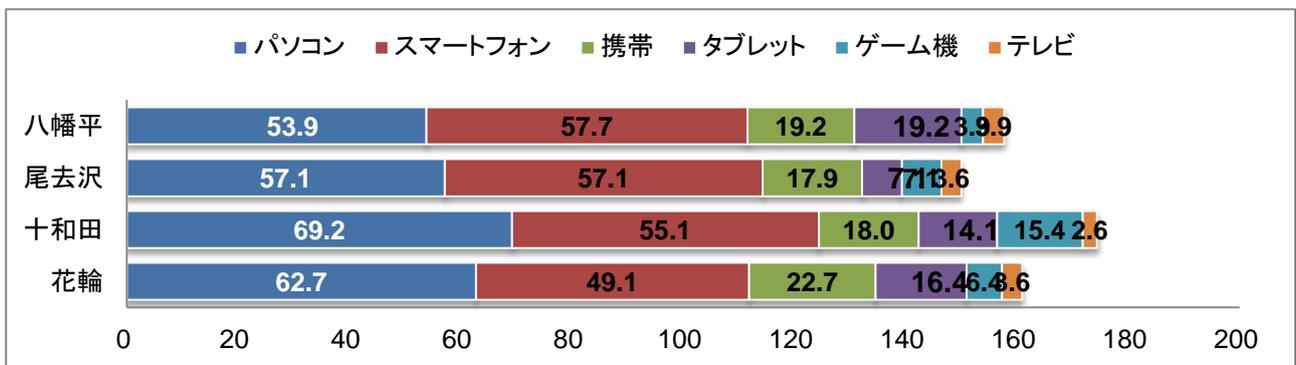
②年齢別

[単位：%]



③地区別

[単位：%]



④分析結果

インターネットを利用しているとの回答は56.1%となっています。これを年代別にみると、30歳未満では9割、40代以下では8割を超える利用状況にありますが、60代以上から4割を下回り、年代が上がるにつれて利用割合は低くなっています。

利用機器別でみると、パソコンの利用が63.3%、次いでスマートフォン53.1%、スマートフォン以外の携帯電話・PHSが20.9%となっています。パソコンの利用割合は各年代とも60%を超えていますが、40代以下の年代では、スマートフォンの利用割合のほうが高く、若年層を中心に普及が進んでいることがうかがえます。

インターネットを利用していない理由（自由記載）は、「関心がない」・「必要としない」という回答が6割、次いで「使い方が分からない」・「操作が難しそう」といった回答が3割、残る1割が「経済的な理由」となっています。

「関心がない」・「必要としない」という回答は、50代以上に多くみられますが、60代以上の「使い方が分からない」・「操作が難しそう」といった回答の中には、インターネットへの関心や興味を示すコメントも複数あります。

〔参考〕第6次総合計画成果指標と実績値

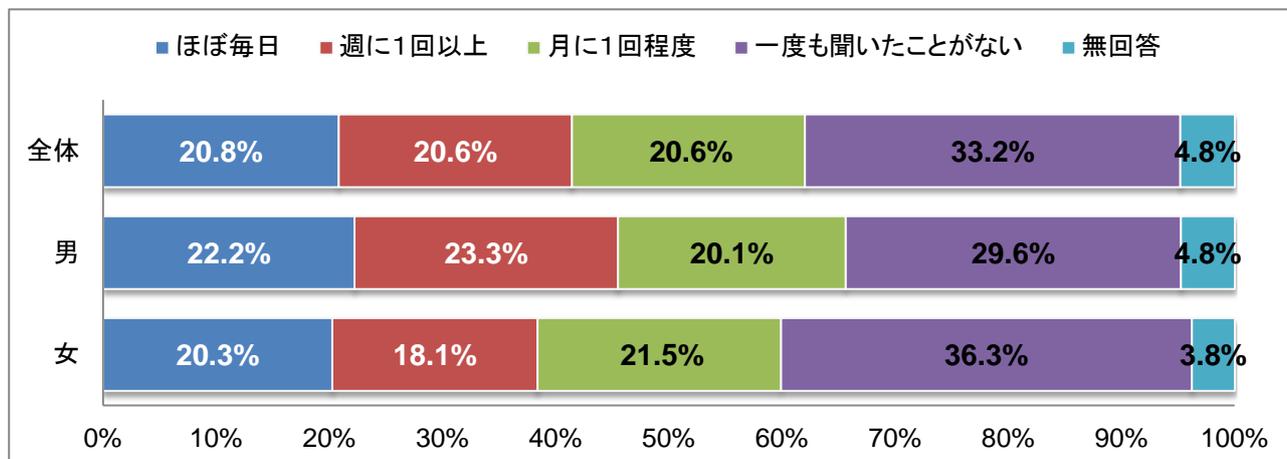
成果指標	基準値	実績値 (H26)	目標値 (H27)
インターネット人口普及率	53.9%	56.1%	60.0%

12 コミュニティFMの利用について

設問⑬ あなたは鹿角きりたんぼFM（79.1MHz）をどの程度聴いていますか。

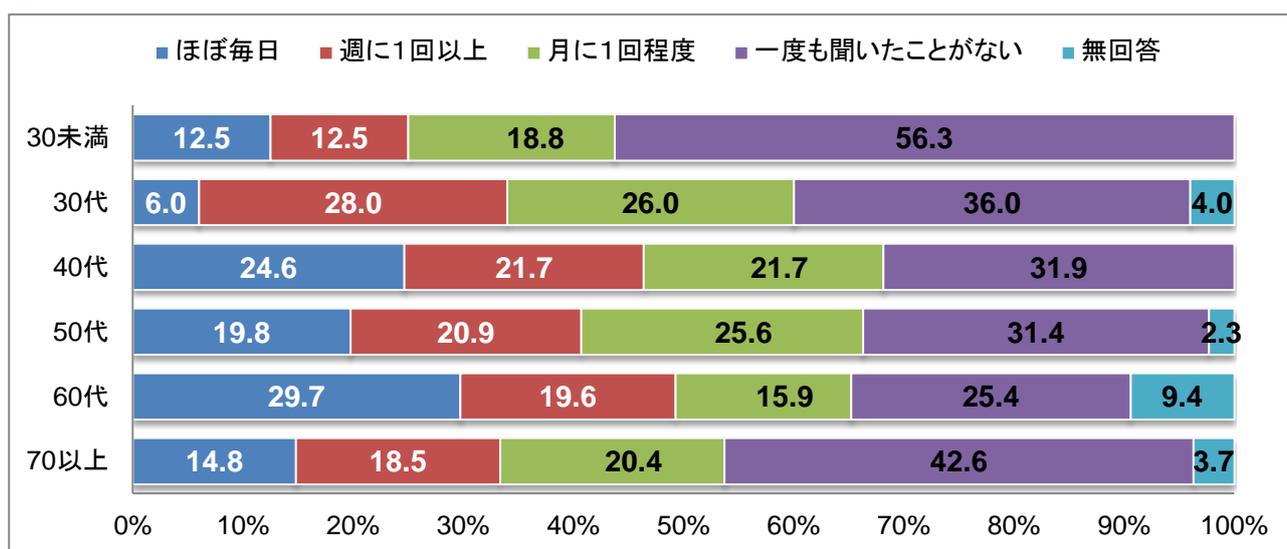
①全体／男女別

[単位：%]



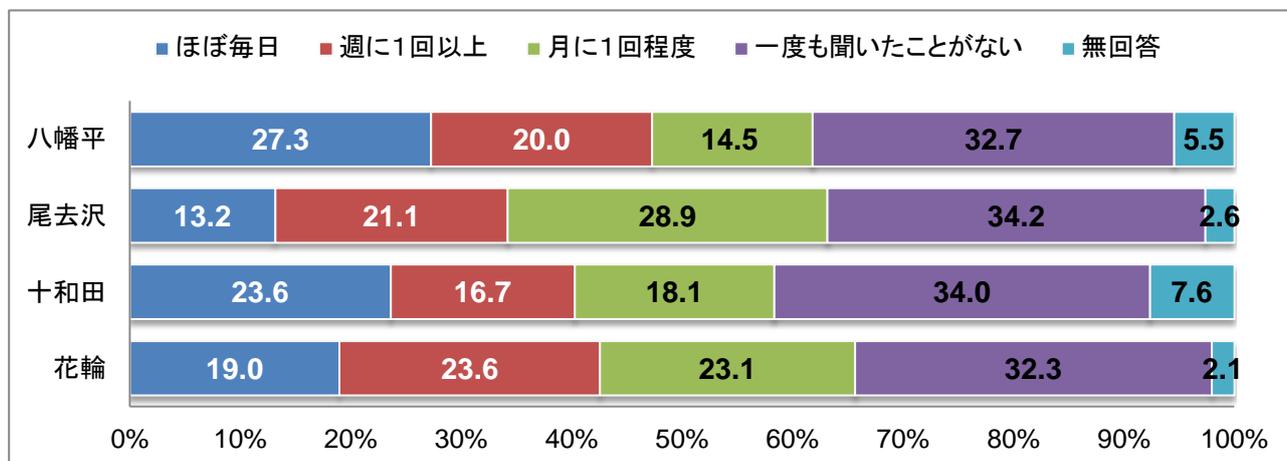
②年齢別

[単位：%]



③地区別

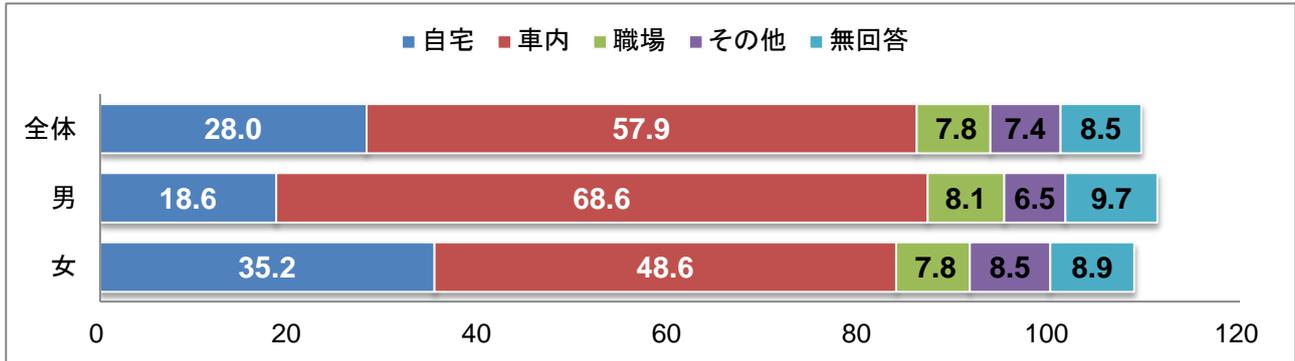
[単位：%]



◆主に聴く場所はどこですか。

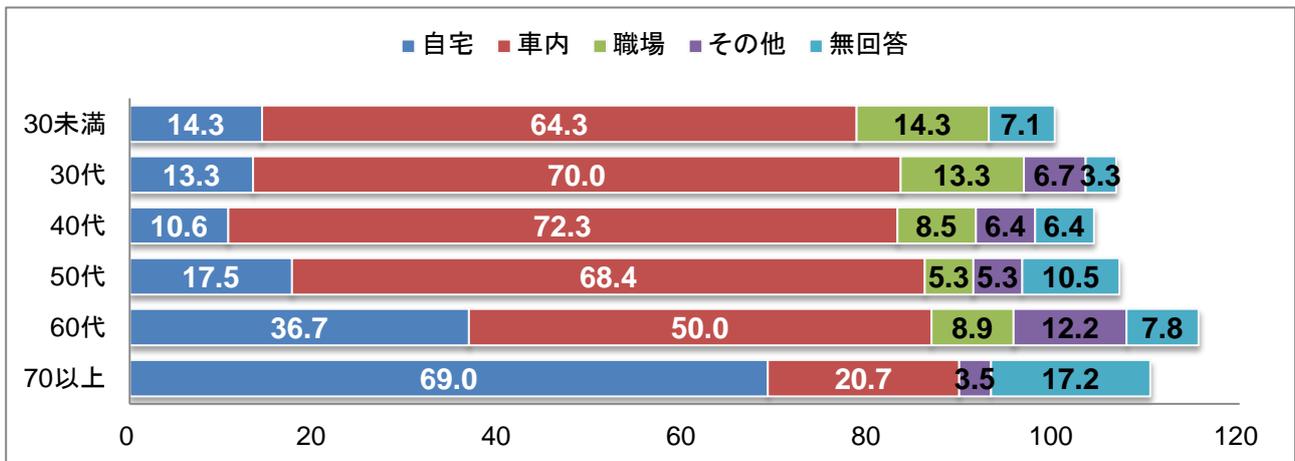
①全体／男女別

[単位：%]



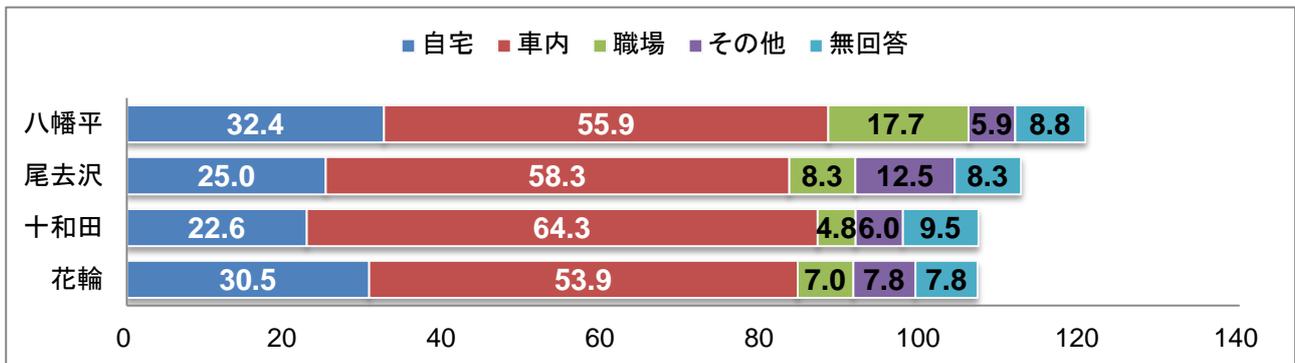
②年齢別

[単位：%]



③地区別

[単位：%]



④分析結果

鹿角きりたんぼFMは、約6割の市民に月1回以上聴かれており、その割合は増加傾向にあるほか、ほぼ毎日聞いていると答えた方は昨年に比べ3ポイント増加しました。

年齢別にみると、30代～60代で6割以上の方が月1回以上耳にしており、特に40代～60代では、「ほぼ毎日」と日常的に聴いている層が2、3割程度います。一方で、多様なメディアに触れていると推察される30歳未満では、聴取率が43.8%と他の年代に比べ低くなっています。

また、地区別では、尾去沢地区において一度も聴いたことのない割合が昨年調査から大幅に減少し、聴いている方が21.5%増加しています。

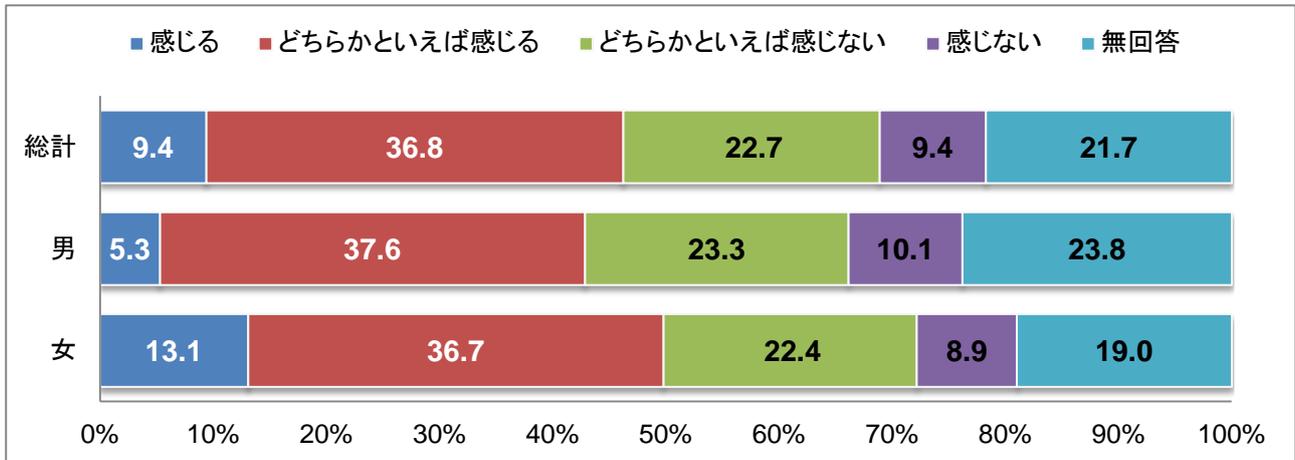
主に聴いている場所については、車内が最も多く男性で68.6%、女性で48.6%となっています。自宅で聞いている方は女性が男性よりも多く、60代以上で高い傾向にあります。

13 子育て支援について

設問⑭-1 あなたは鹿角市が子育てしやすいまちだと感じますか。

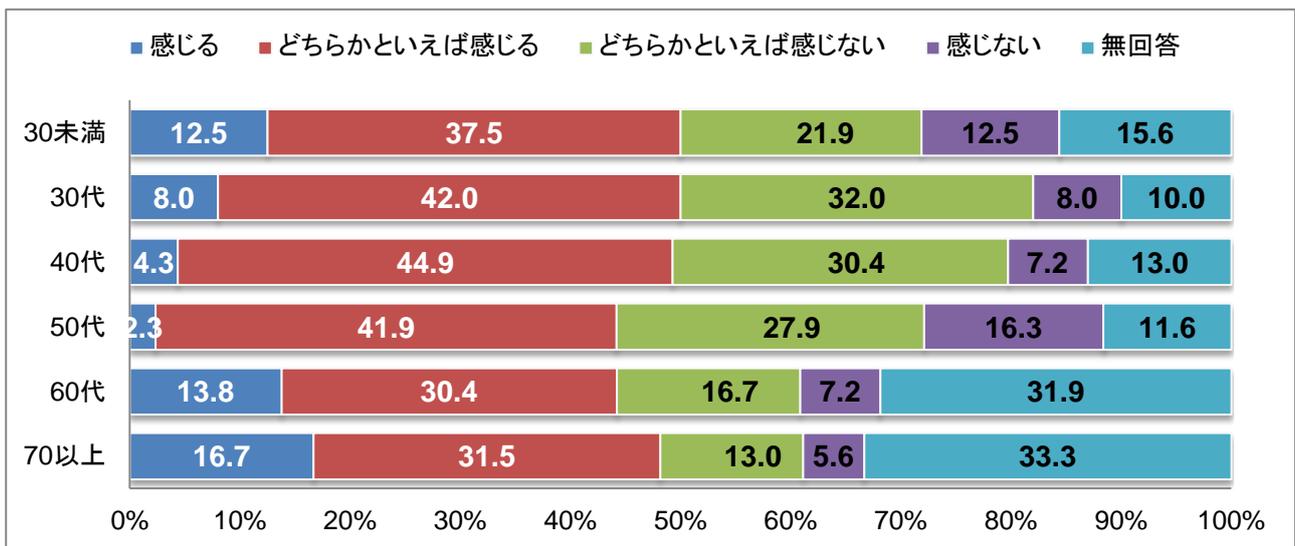
①全体／男女別

[単位：%]



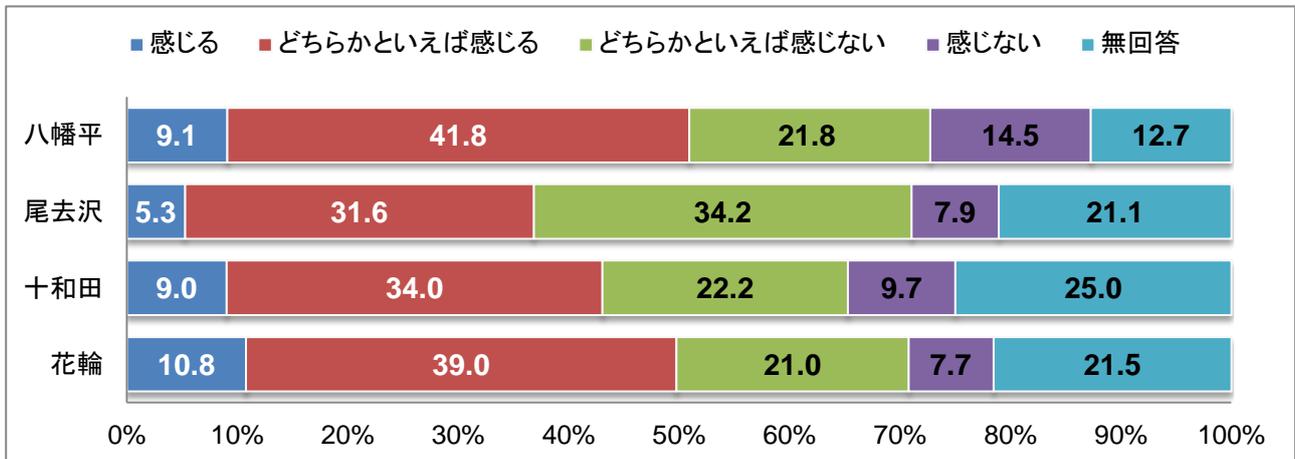
②年齢別

[単位：%]

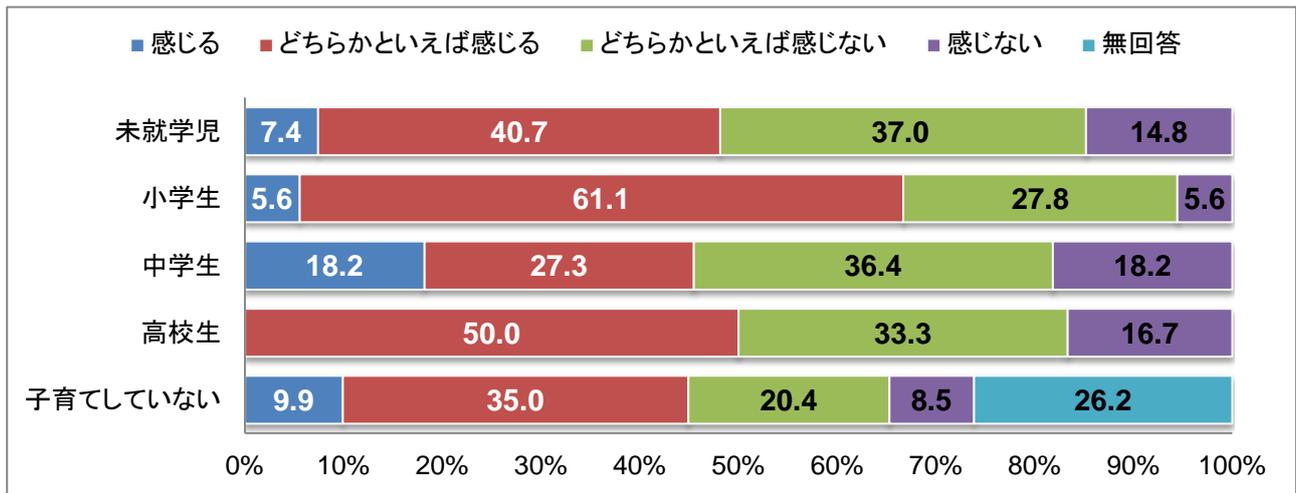


③地区別

[単位：%]



④子育て区分別



⑤分析結果

「子育てしやすいまちだと感じるか」の設問に対し、「感じる」、「どちらかといえば感じる」が46.2%、「感じない」、「どちらかといえば感じない」が32.1%と、プラスに感じる市民の割合が14.1ポイント高い結果となりました。また、21.7%が無回答でしたが、すべて現在子育てしていない方でした。

男女別にみると、女性が子育てしやすいと感じる割合が男性に比べ高く、無回答も少なく関心も高くなっています。年齢別では50代、60代でわずかに低いものの、他の年代ではおおむね5割が子育てしやすいと答えています。

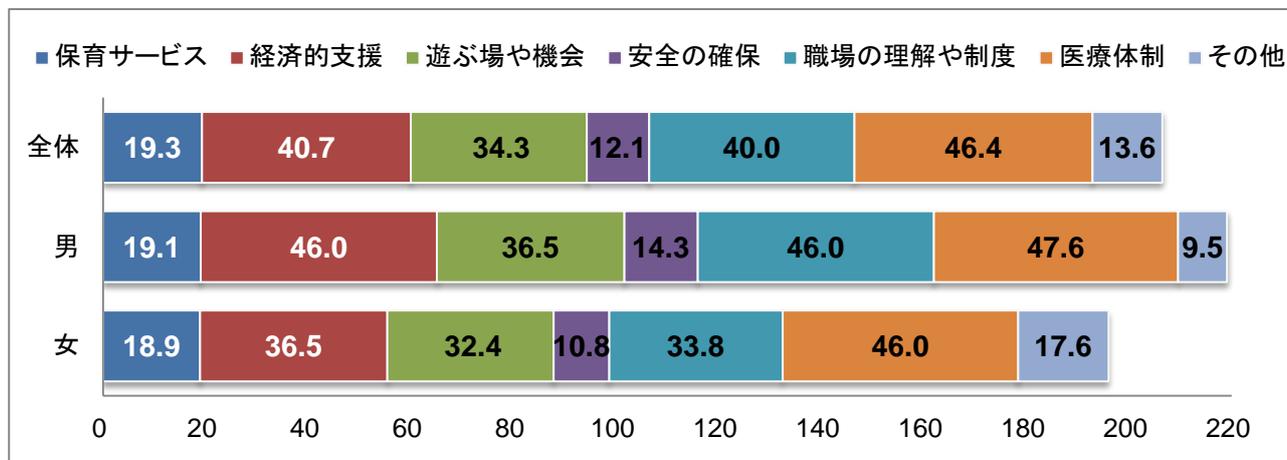
子育て区分別にみると、小学生の子どもがいる方が最も子育てしやすいと感じており66.7%となっています。逆に「感じない」、「どちらかといえば感じない」で最も高い割合となったのは、中学生の子どもがいる方で54.6%という結果でした。

小学生は保育園から引き続き、放課後児童クラブや医療費などの手厚い支援が受けられることが、結果に表れたものと捉えています。

設問⑭-2 問⑭-1で「3. どちらかといえば感じない」、「4. 感じない」を選んだ方におたずねします。それはどのような理由からですか。（複数回答可）

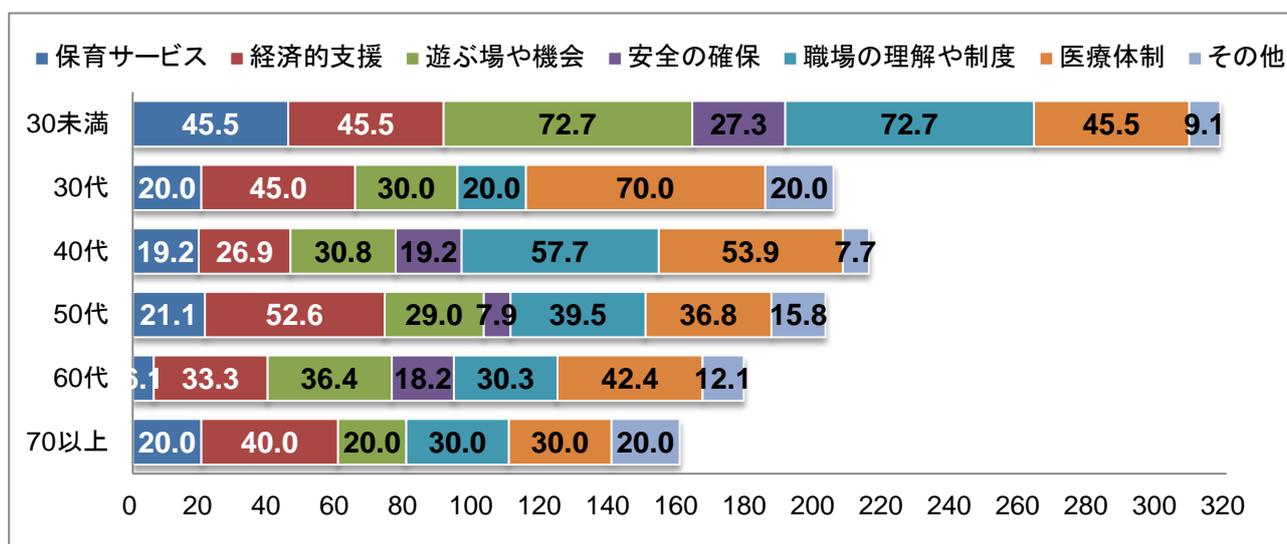
①全体／男女別

[単位：%]



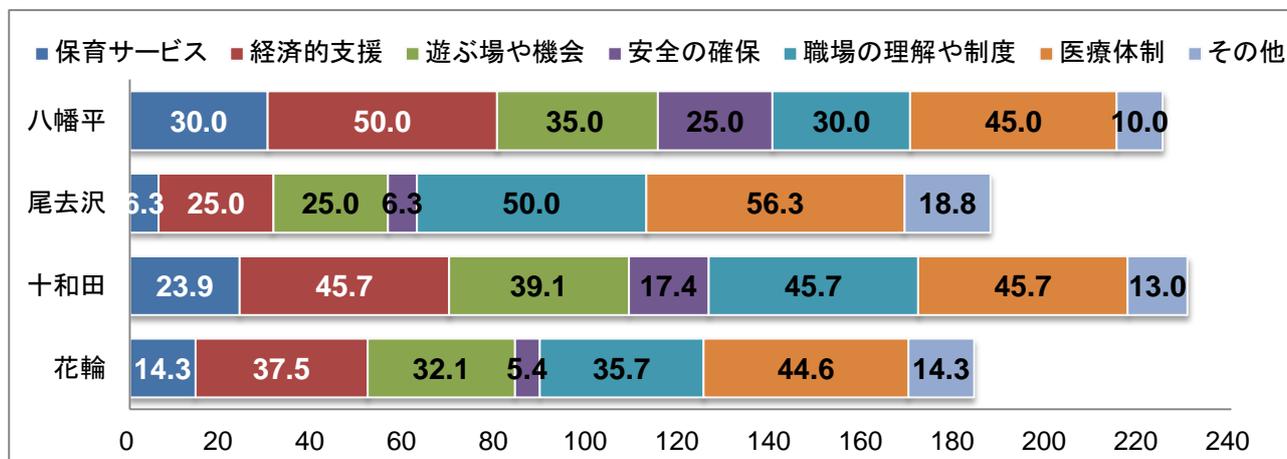
②年齢別

[単位：%]

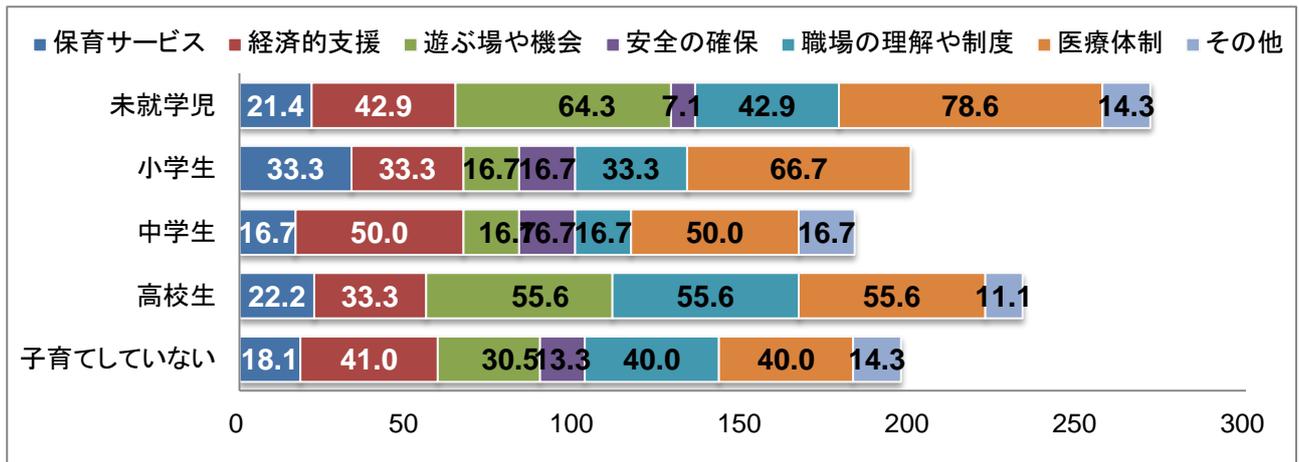


③地区別

[単位：%]



④子育て区分別



⑤分析結果

「子育てしやすいまちだと感じない」、「どちらかといえば感じない」と回答した方にその理由をうかがったところ、「医療体制が不十分」と感じる方が46.4%で最も多く、次いで順に「経済的支援が不十分」40.7%、「職場の理解や制度が不十分」40.0%、「遊ぶ場や機会が不十分」34.3%、「保育サービスが不十分」19.3%となっています。

年代別にみると、30歳未満が最も不安や不満を感じており、「遊ぶ場や機会が不十分」と「職場の理解や制度が不十分」では7割を超える高い割合となっています。

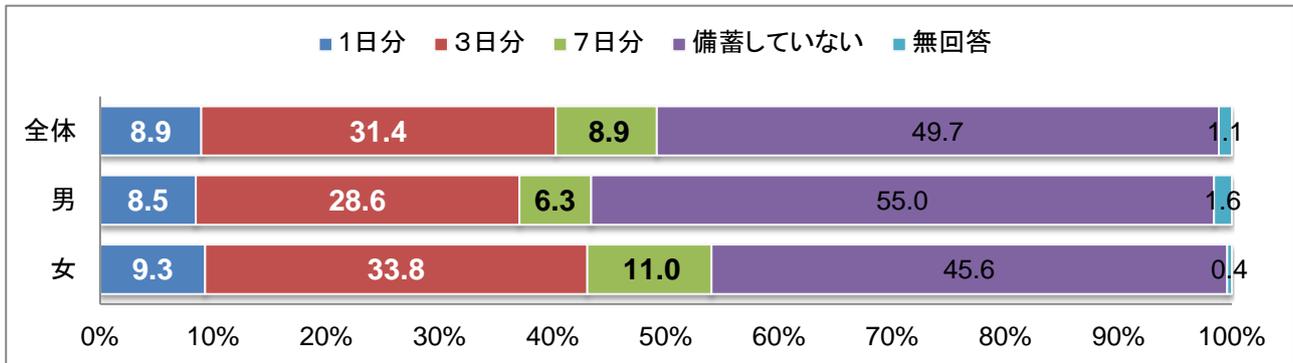
また、子育て区分別にみると、未就学児を持つ方が最も不安や不満を感じており、そのうち、8割近くの方が「医療体制が不十分」を選び、次いで約6割が「遊ぶ場や機会が不十分」を選んでいきます。

14 防災について

設問⑮-1 あなたは災害時に備え、食料品などを何日分備蓄していますか。

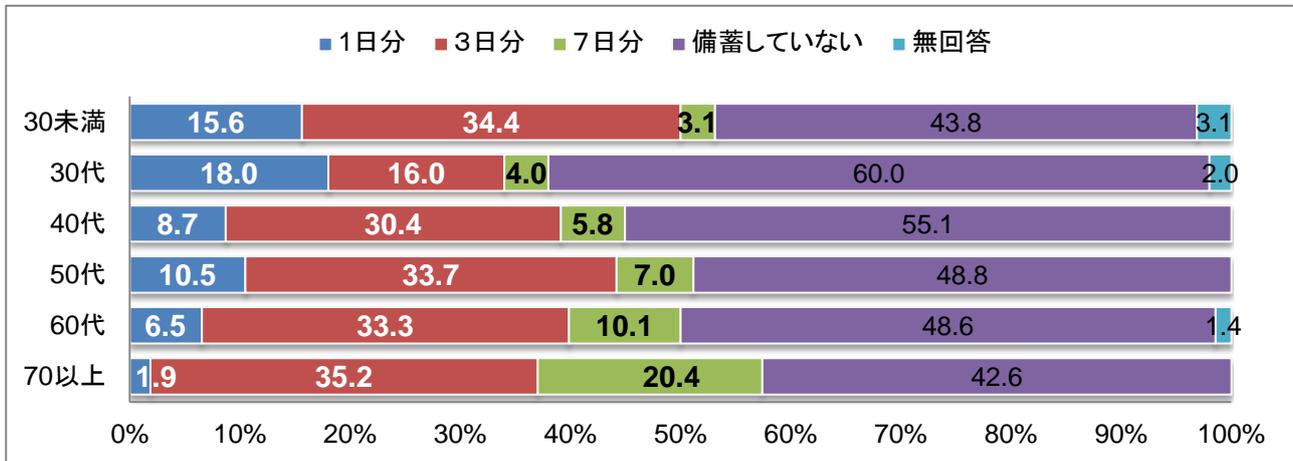
①全体／男女別

[単位：%]



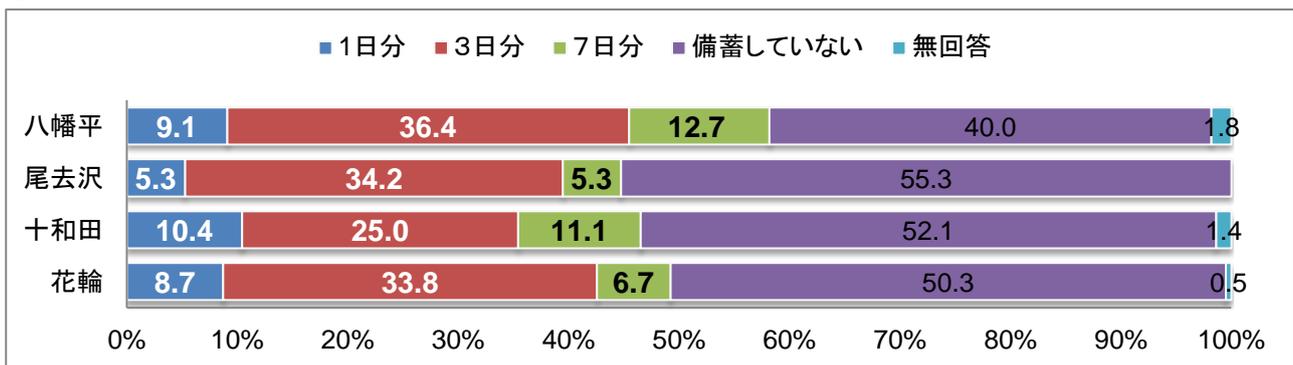
②年齢別

[単位：%]



③地区別

[単位：%]



④分析結果

災害時に備え食料品などを何日分備蓄しているかがったところ、3日分と回答した方が31.4%と最も多く、1日分及び7日分以上が同じく8.9%で、約半数の方が備蓄していませんでした。

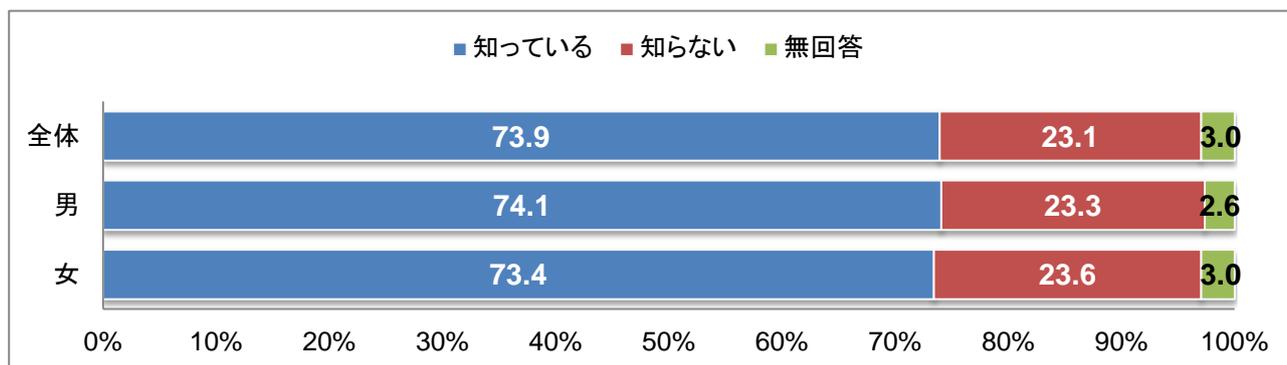
年代別にみると、備蓄している割合が最も高いのは70歳以上で、30代、40代の子育て世代で低くなっているほか、地域別では尾去沢地区が最も低く、自主防災組織率の高い八幡平地区が58.2%で最も多くなっています。

大規模災害時には被災者全員に備蓄品が届くまで時間を要するため、非常食等の備蓄を進めていただけるよう、出前講座等で丁寧に周知を図る必要があります。

設問⑮-2 あなたは、あなたの地域の避難所を知っていますか。

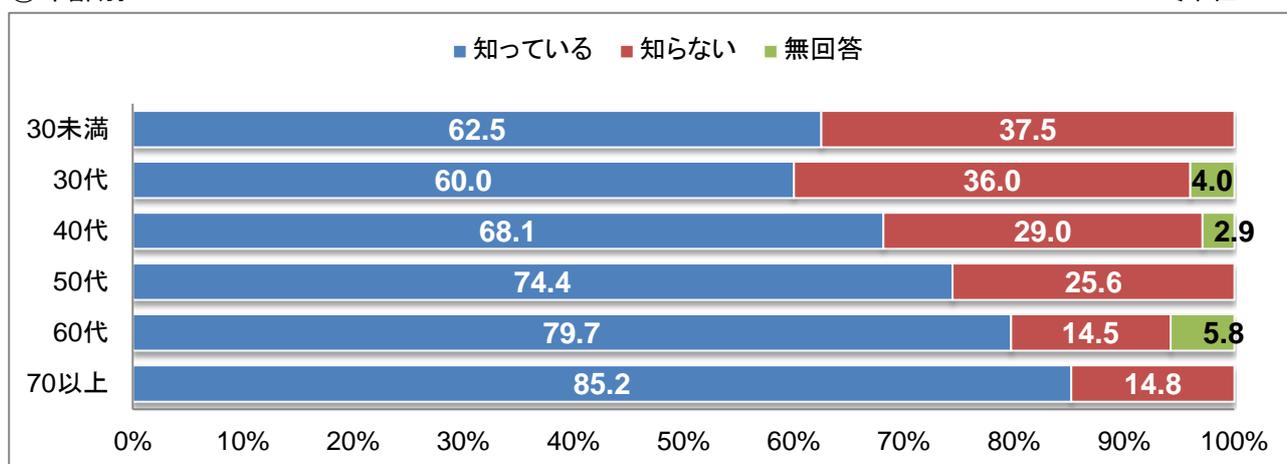
①全体／男女別

[単位：%]



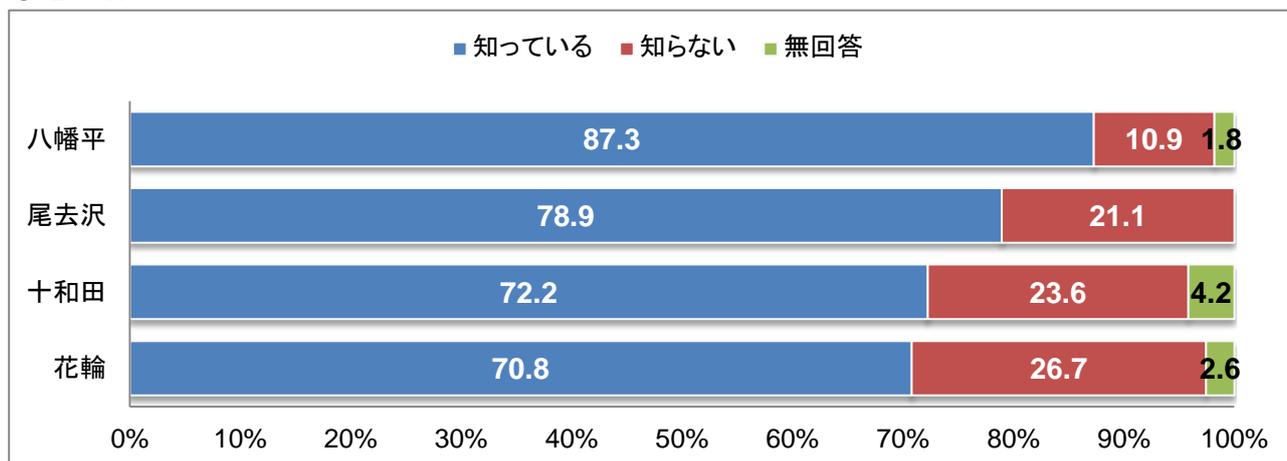
②年齢別

[単位：%]



③地区別

[単位：%]



④分析結果

自宅近くの避難所を知っている方の割合は73.9%で、4人に1人は知らないという結果となりました。

男女間で差はみられませんが、年代別では高齢者ほど認知度が高く、若年になるにつれ認知度が低くなっています。地区別では、問⑮-1と同様、自主防災組織率の高い八幡平地区が一番高く87.3%となっており、最も低かった花輪地区は70.8%と約17%の差が生じています。

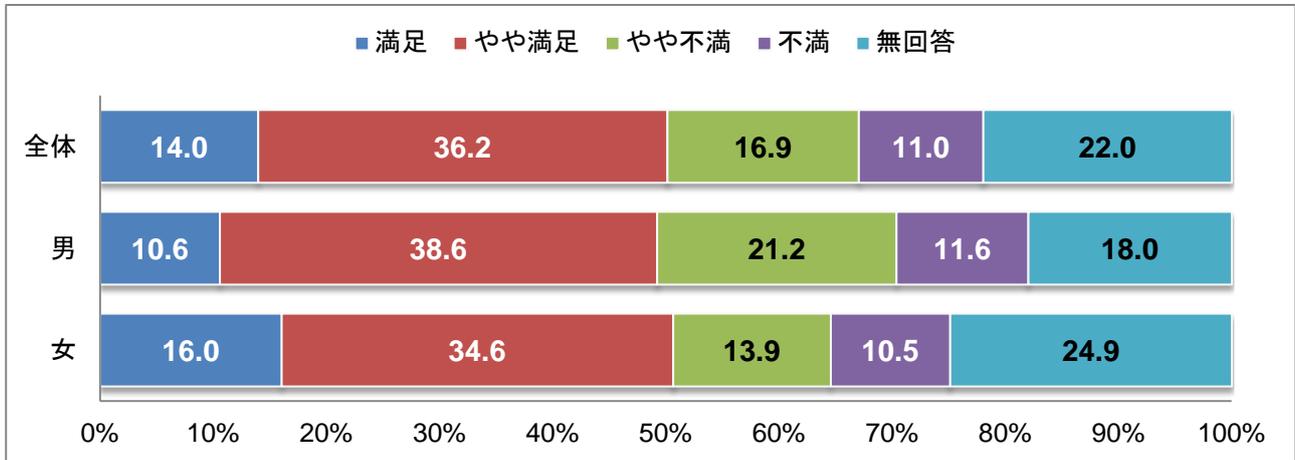
避難行動する際に適した服装や、避難行動に危険が伴う場合には、屋内の二階等の安全な部屋に一時的に退避する垂直避難も有効であることなど、安全避難のポイントについても説明を行いながら、避難場所の周知を図っていきます。

15 スキーと駅伝のまち“賑わい創出”プロジェクトについて

設問⑯ あなたは、「スキーと駅伝のまち“賑わい創出”プロジェクト」の取り組みについてどう思いますか。

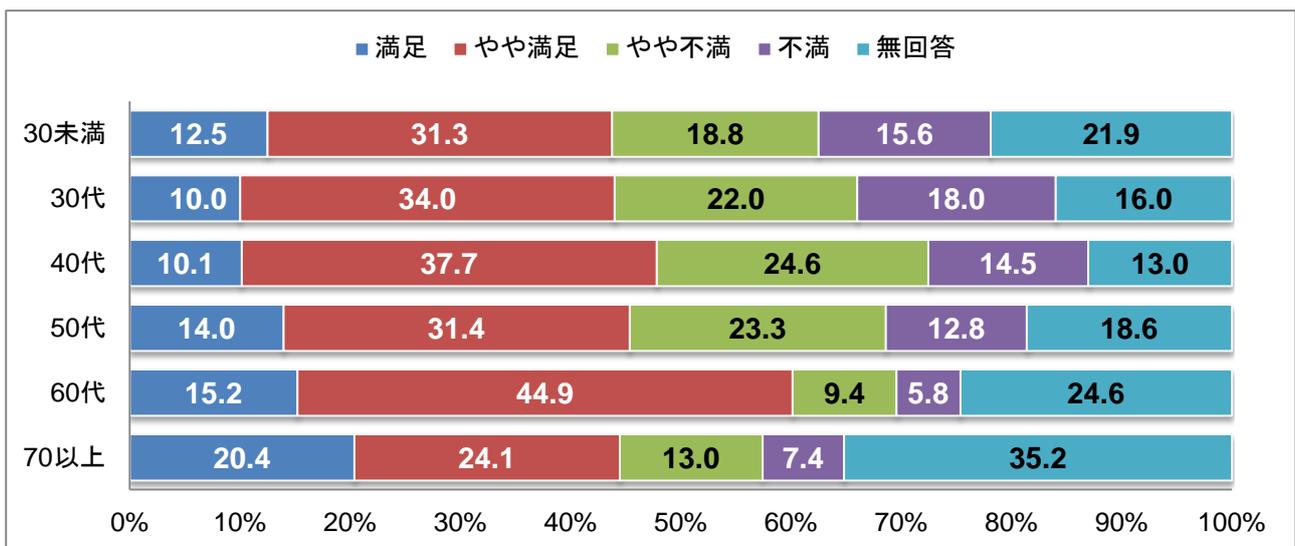
①全体／男女別

[単位：%]



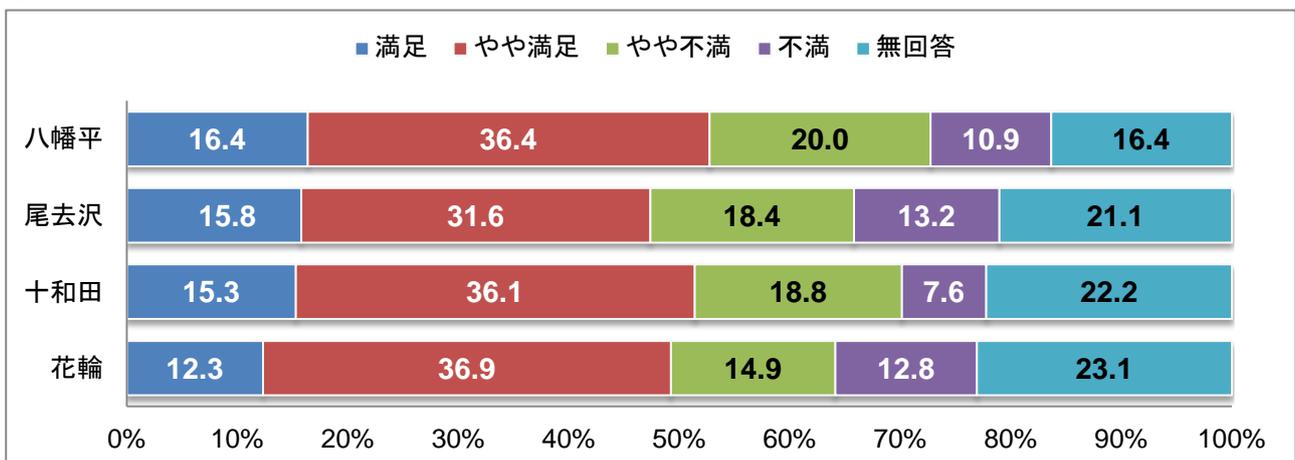
②年齢別

[単位：%]



③地区別

[単位：%]



④分析結果

プロジェクトについて「満足」、「やや満足」とする割合は50.1%で過半数をわずかに上回りました。一方、「やや不満」、「不満」の割合は約30%で、その理由として、「取り組んでいる内容が市民に伝わっていない」のほか、「知名度が足りず全国に浸透していない」、「ほかに優先すべき課題がある」、「関心がない」などが挙げられています。無回答も約20%とやや多めで、これらの方々に、プロジェクトの意義や効果を分かりやすく伝える必要があると考えられます。

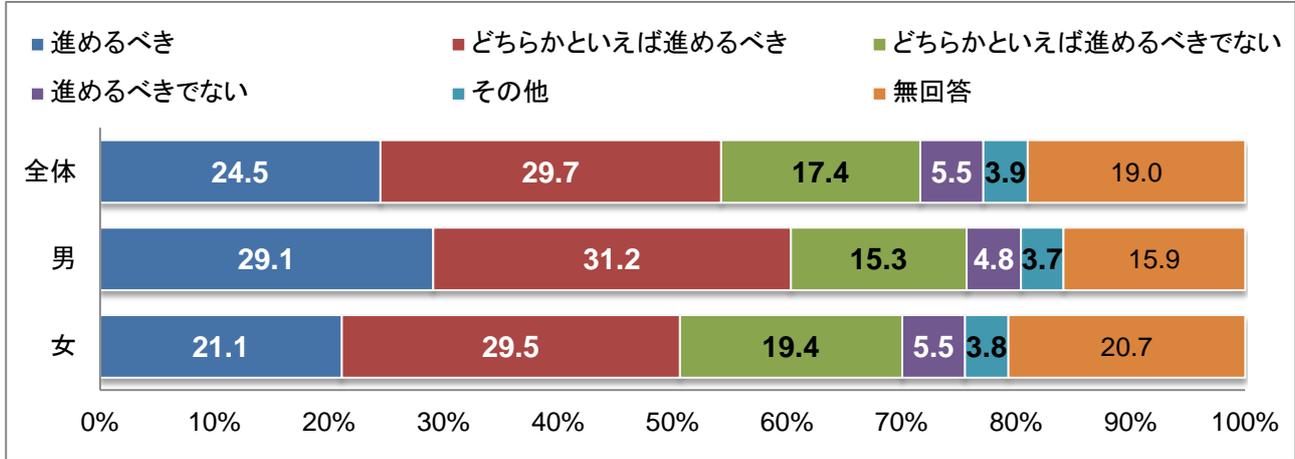
属性別には大きな違いはありませんが、男女別では女性のほうが満足度がやや高く、年代別では60代が高くなっています。また、地区別では、八幡平地区と十和田地区で高くなっています。

16 学校の再編(統合等)について

設問⑱ 学校規模は小中学校ともに「12学級以上18学級以下」が標準とされていますが、学校規模適正化のため再編(統合等)を進めることをどのように思いますか。

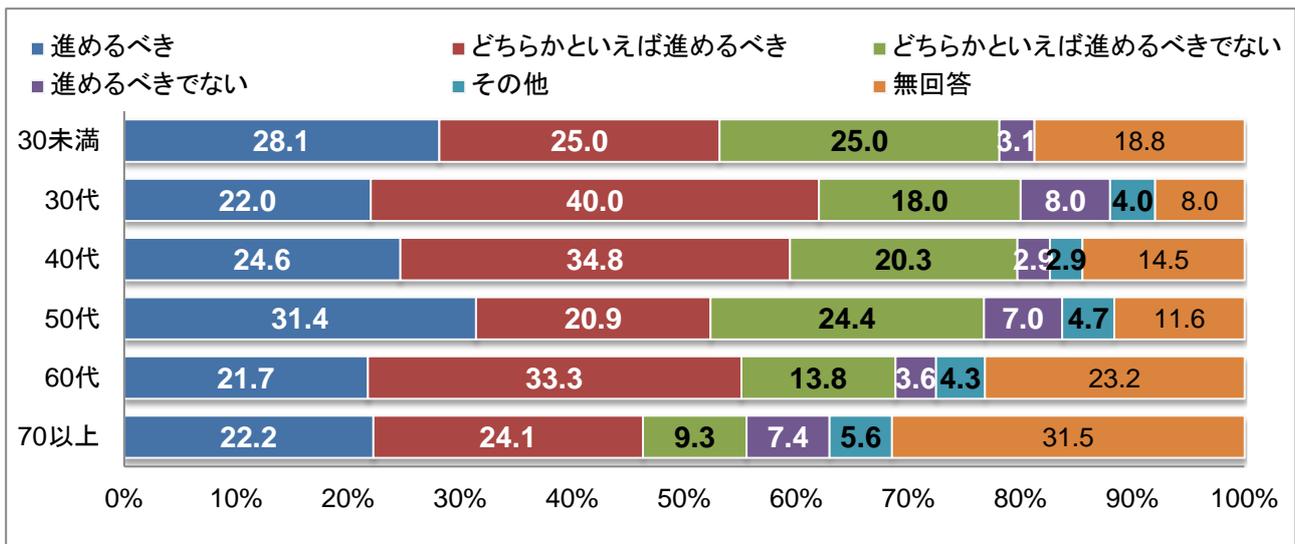
①全体/男女別

[単位: %]



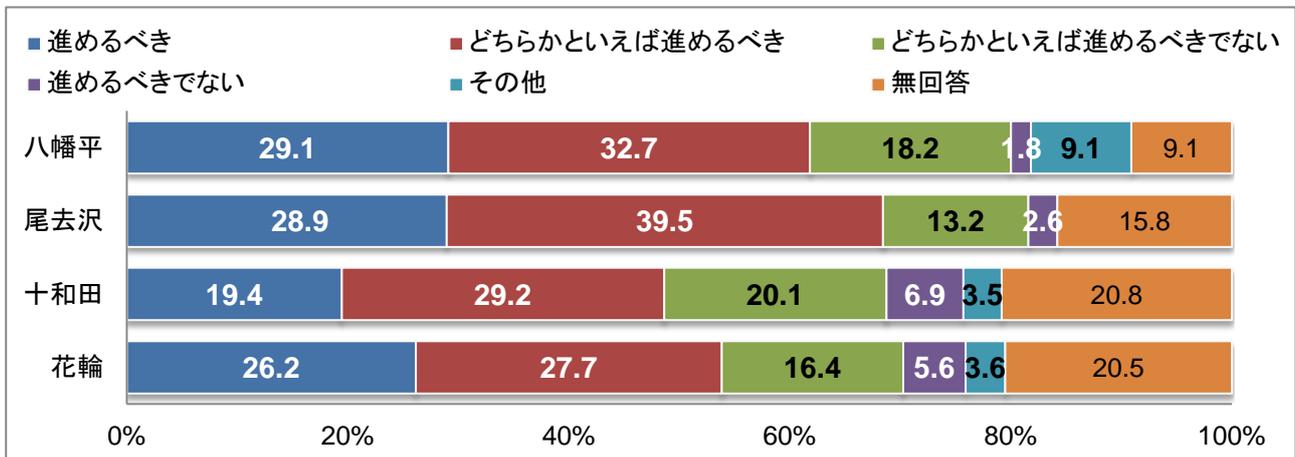
②年齢別

[単位: %]



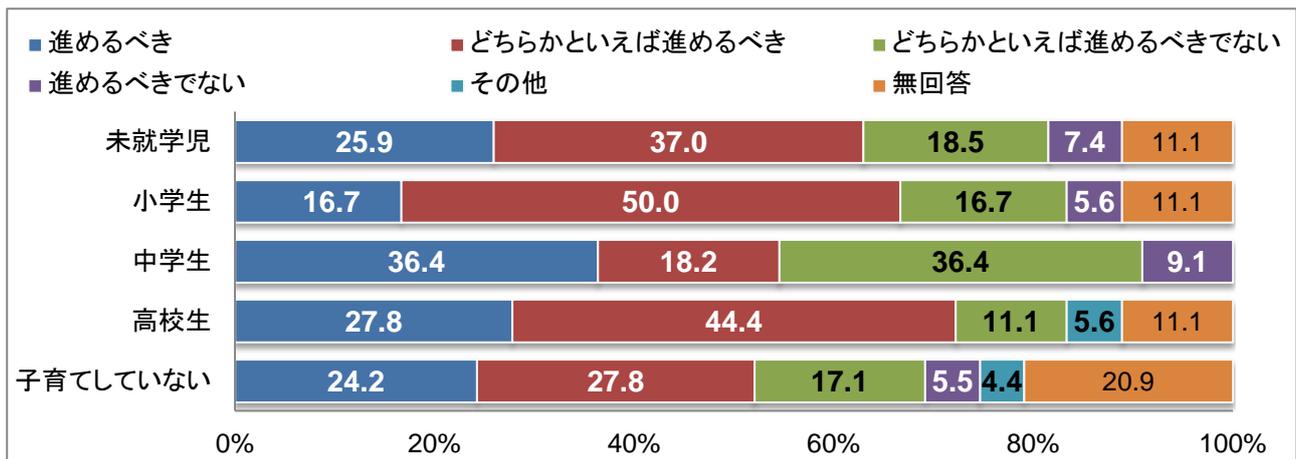
③地区別

[単位: %]



④子育て区分別

[単位：%]



⑤分析結果

「進めるべき」、「どちらかといえば進めるべき」と回答した方は、54.2%で「進めるべきでない」、「どちらかといえば進めるべきでない」と回答した方は22.9%でした。

「進めるべき」、「どちらかといえば進めるべき」と回答した方をみると、子育て世代である30代、40代で約6割程度と他の年代に比べて割合が高いほか、地区別では、尾去沢地区が68.4%、八幡平地区が61.8%と高い割合になっています。また、子育て区分別では、高校生を持つ方が72.2%と最も高く、次いで小学生を持つ方が66.7%、未就学児を持つ方が62.9%と続いています。

「進めるべきでない」、「どちらかといえば進めるべきでない」と回答した方をみると、年代別では50代で31.4%と最も高く、地域活力の低下を不安視する意見が多くなっています。地区別では、十和田地区が27.0%と全体回答の22.9%に比べ高い割合を占めているほか、子育て区分別では、中学生を持つ方が36.4%と高くなっています。

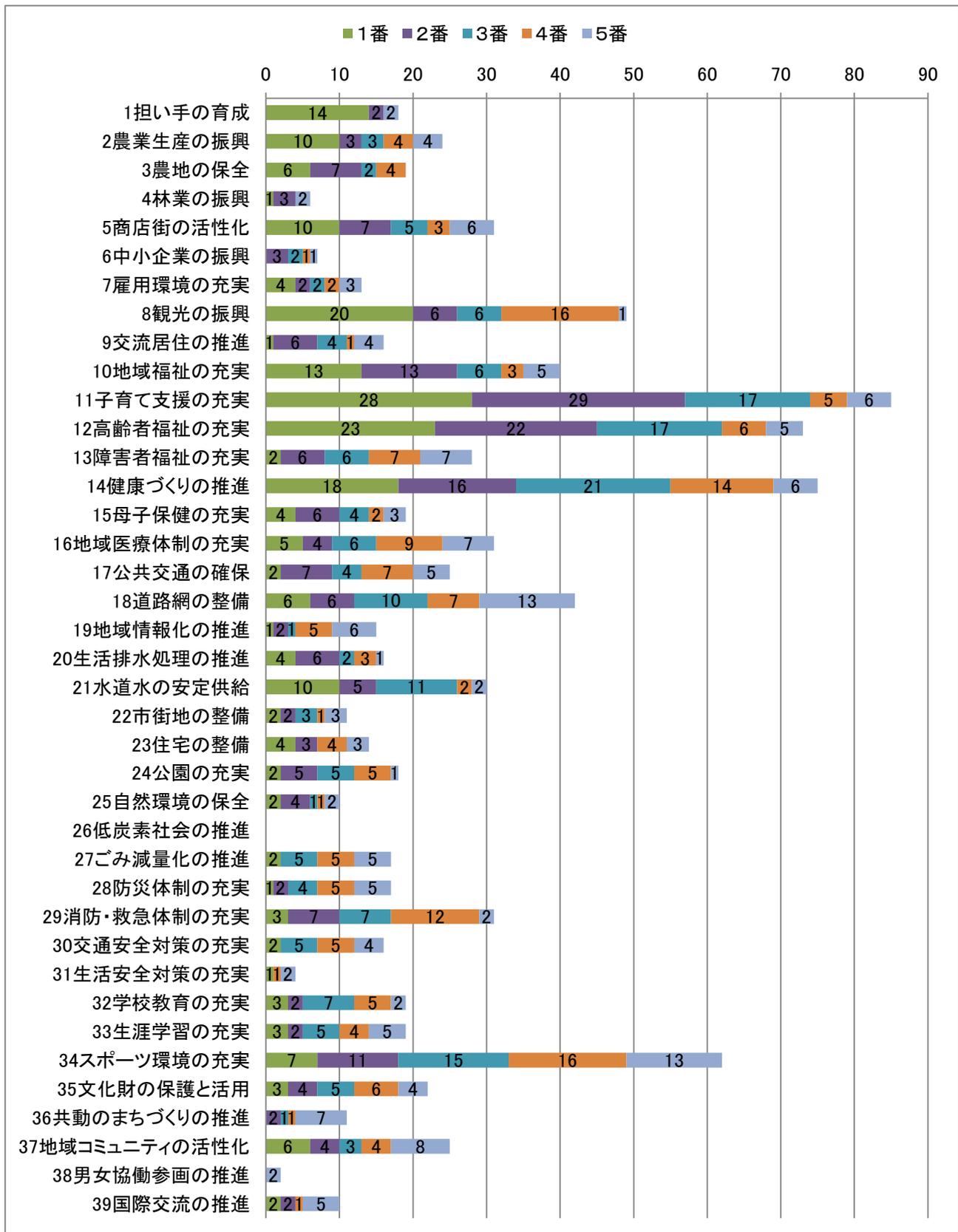
また、無回答が19.0%あり、年代別でみると30歳未満、60代、70代で高い傾向がみられることから、その他意見でもあったとおり、判断が難しいため無回答であったと推測されます。

17 市の政策について

設問⑱-1 市が進めている取り組みの中で、効果が得られていると感じるものを下表の39項目から順に5つ選んでください。

①全体／男女別（項目別選択割合／複数回答）

〔単位：点〕



順位	No.	施策	1番	2番	3番	4番	5番	計
1	11	子育て支援の充実	28	29	17	5	6	85
2	14	健康づくりの推進	18	16	21	14	6	75
3	12	高齢者福祉の充実	23	22	17	6	5	73
4	34	スポーツ環境の充実	7	11	15	16	13	62
5	8	観光の振興	20	6	6	16	1	49
6	18	道路網の整備	6	6	10	7	13	42
7	10	地域福祉の充実	13	13	6	3	5	40
8	5	商店街の活性化	10	7	5	3	6	31
9	16	地域医療体制の充実	5	4	6	9	7	31
9	29	消防・救急体制の充実	3	7	7	12	2	31
11	21	水道水の安定供給	10	5	11	2	2	30
12	13	障害者福祉の充実	2	6	6	7	7	28
13	17	公共交通の確保	2	7	4	7	5	25
13	37	地域コミュニティの活性化	6	4	3	4	8	25
15	2	農業生産の振興	10	3	3	4	4	24
16	35	文化財の保護と活用	3	4	5	6	4	22
17	3	農地の保全	6	7	2	4	0	19
17	15	母子保健の充実	4	6	4	2	3	19
17	32	学校教育の充実	3	2	7	5	2	19
17	33	生涯学習の充実	3	2	5	4	5	19
21	1	担い手の育成	14	2	0	0	2	18
21	24	公園の充実	2	5	5	5	1	18
23	27	ごみ減量化の推進	2	0	5	5	5	17
23	28	防災体制の充実	1	2	4	5	5	17
25	9	交流居住の推進	1	6	4	1	4	16
25	20	生活排水処理の推進	4	6	2	3	1	16
25	30	交通安全対策の充実	2	0	5	5	4	16
28	19	地域情報化の推進	1	2	1	5	6	15
29	23	住宅の整備	4	3	0	4	3	14
30	7	雇用環境の充実	4	2	2	2	3	13
31	22	市街地の整備	2	2	3	1	3	11
31	36	共働きのまちづくりの推進	0	2	1	1	7	11
33	25	自然環境の保全	2	4	1	1	2	10
33	39	国際交流の推進	2	2	0	1	5	10
35	6	中小企業の振興	0	3	2	1	1	7
36	4	林業の振興	1	3	0	0	2	6
37	31	生活安全対策の充実	1	0	0	1	2	4
38	38	男女協働参画の推進	0	0	0	0	2	2
39	26	低炭素社会の推進	0	0	0	0	0	0

②分析結果

効果が得られていると感じる施策として、最も多くの人に選択されたのは「子育て支援の充実」で85人の回答者が選択しています。保育料や医療費をはじめ、3人目以降への各種助成などの経済的支援のほか、コモッセでの子育て支援や病児保育など更なる対策への姿勢が評価されています。

2番目に多く選択されたのは「健康づくりの推進」で、75人の回答者が選択しています。がん検診など各種検診へのきめ細やかな啓発と受診勧奨に対する評価のほか、脳ドックなど幅の広い支援に評価がありました。

3番目に多く選択されたのは「高齢者福祉の充実」で、73人の回答者が選択しています。デイサービスや特別養護老人ホームの施設整備が進んだことや、街なか福祉コミュニティエリアが評価されています。

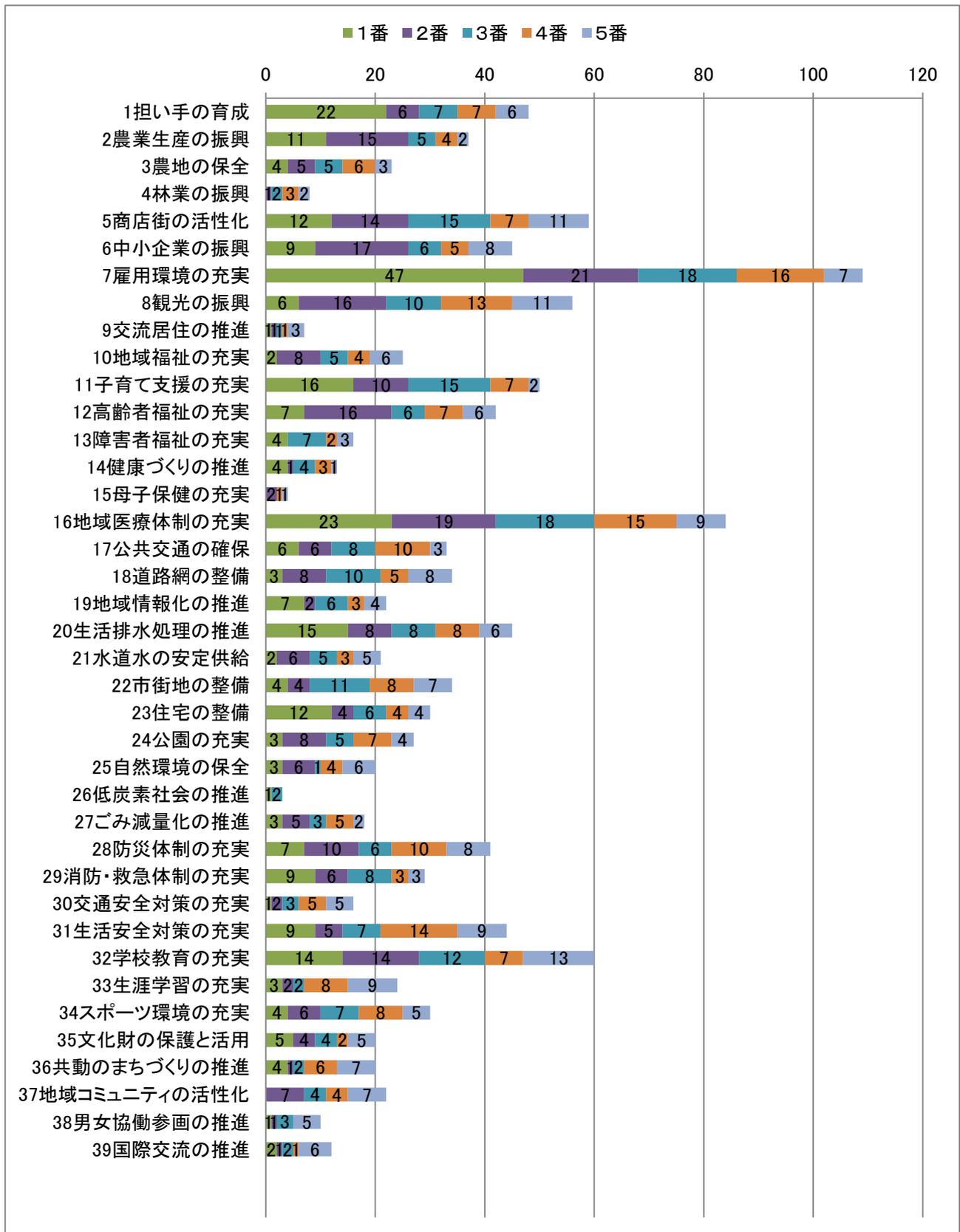
4番目には「スポーツ環境の充実」が選択されました。「スキーのまち、駅伝のまち」として、総合運動公園の施設充実に加え、全国規模の大会の開催が評価されています。

5番目の「観光の振興」では、観光イメージキャラクター「たんぽ小町ちゃん」などを活用した情報発信をはじめ、観光宣伝に対する取り組みが評価を得ています。

設問⑱-2 市が進めている取り組みの中で、もっと「力」を入れて欲しいと感じるものを下表の39項目から順に5つ選んでください。

①全体／男女別（項目別選択割合／複数回答）

〔単位：点〕



順位	No.	施策	1番	2番	3番	4番	5番	計
1	7	雇用環境の充実	47	21	18	16	7	109
2	16	地域医療体制の充実	23	19	18	15	9	84
3	32	学校教育の充実	14	14	12	7	13	60
4	5	商店街の活性化	12	14	15	7	11	59
5	8	観光の振興	6	16	10	13	11	56
6	11	子育て支援の充実	16	10	15	7	2	50
7	1	担い手の育成	22	6	7	7	6	48
8	6	中小企業の振興	9	17	6	5	8	45
8	20	生活排水処理の推進	15	8	8	8	6	45
10	31	生活安全対策の充実	9	5	7	14	9	44
11	12	高齢者福祉の充実	7	16	6	7	6	42
12	28	防災体制の充実	7	10	6	10	8	41
13	2	農業生産の振興	11	15	5	4	2	37
14	18	道路網の整備	3	8	10	5	8	34
14	22	市街地の整備	4	4	11	8	7	34
16	17	公共交通の確保	6	6	8	10	3	33
17	23	住宅の整備	12	4	6	4	4	30
17	34	スポーツ環境の充実	4	6	7	8	5	30
19	29	消防・救急体制の充実	9	6	8	3	3	29
20	24	公園の充実	3	8	5	7	4	27
21	10	地域福祉の充実	2	8	5	4	6	25
22	33	生涯学習の充実	3	2	2	8	9	24
23	3	農地の保全	4	5	5	6	3	23
24	19	地域情報化の推進	7	2	6	3	4	22
24	37	地域コミュニティの活性化	0	7	4	4	7	22
26	21	水道水の安定供給	2	6	5	3	5	21
27	25	自然環境の保全	3	6	1	4	6	20
27	35	文化財の保護と活用	5	4	4	2	5	20
27	36	共働のまちづくりの推進	4	1	2	6	7	20
30	27	ごみ減量化の推進	3	5	3	5	2	18
31	13	障害者福祉の充実	4	0	7	2	3	16
31	30	交通安全対策の充実	1	2	3	5	5	16
33	14	健康づくりの推進	4	1	4	3	1	13
34	39	国際交流の推進	2	1	2	1	6	12
35	38	男女協働参画の推進	1	1	3	0	5	10
36	4	林業の振興	0	1	2	3	2	8
37	9	交流居住の推進	1	1	1	1	3	7
38	15	母子保健の充実	0	2	0	1	1	4

②分析結果

もっと力を入れて欲しいと感じる施策として、最も多くの人に選択されたのは「雇用環境の充実」で、109人の回答者が選択しています。人口減少対策として、若い人が鹿角で暮らすことができるよう働く場の確保と、求人は改善しつつあるものの、魅力ある雇用環境を求める意見が多くありました。

2番目に多く選択されたのは「地域医療体制の充実」で、84人の回答者が選択しています。耳鼻科や小児科など診療科が少ないことへの不満から、医師確保対策への意見が見られます。

3番目に多く選択されたのは「学校教育の充実」で、60人の回答者が選択しました。市の未来へ向けて人材教育に力を入れて欲しいとの意見や、学力の向上のため更なる取り組みを求める意見がありました。

4番目の「商店街の活性化」では、空き店舗が多く活気が無いことや、商店の魅力の少なさ、駐車場が無いといったことに意見がありました。

5番目の「観光の振興」では、観光資源に恵まれているものの鹿角観光の核は何なのかといったことや、特に八幡平、湯瀬、大湯の活性化を望む意見がありました。

18 自由意見

設問⑱では自由意見として、66名の方から意見や感想などをいただきました。

これらを施策別にとすると下表のとおりです。

いただいた意見については、庁内においてその内容をよく考察し、今後の施策推進に役立ててまいります。

施策		件数	施策		件数
1-1-1	担い手の育成	1	3-2-5	住宅の整備	1
1-1-2	農業生産の振興	-	3-2-6	公園の充実	1
1-1-3	農地の保全	-	3-3-1	自然環境の保全	-
1-1-4	林業の振興	-	3-3-2	低炭素社会の推進	1
1-2-1	商店街の活性化	13	3-3-3	ごみ減量化の推進	-
1-2-2	中小企業の振興		3-4-1	防災体制の充実	1
1-2-3	雇用環境の充実		3-4-2	消防・救急体制の充実	-
1-3-1	観光の振興	8	3-4-3	交通安全対策の充実	6
1-3-2	交流居住の推進		3-4-4	生活安全対策の充実	3
2-1-1	地域福祉の充実	-	4-1-1	学校教育の充実	1
2-1-2	子育て支援の充実	3	4-2-1	生涯学習の充実	4
2-1-3	高齢者福祉の充実	4	4-2-2	スポーツ環境の充実	4
2-1-4	障害者福祉の充実	-	4-2-3	文化財の保護と活用	-
2-2-1	健康づくりの推進	2	5-1-1	共働のまちづくりの推進	-
2-2-2	母子保健の充実	-	5-1-2	地域コミュニティの活性化	1
2-2-3	地域医療体制の充実	1	5-1-3	男女協働参画の推進	1
3-1-1	公共交通の確保	-	5-1-4	国際交流の推進	-
3-1-2	道路網の整備	-	政策全般に関すること		11
3-2-1	地域情報化の推進	1	職員に関すること		11
3-2-2	生活排水処理の推進	-	アンケートに関すること		5
3-2-3	水道水の安定供給	-	その他		14
3-2-4	市街地の整備	5	合 計		103

資料

平成27年度
市民アンケート 回答票

はじめに、あなた自身についておたずねします。

設問① あなたの住んでいる地区、性別、年代等について、あてはまるものの□に○印を記入してください。

- ・住んでいる地区 花輪 十和田
 尾去沢 八幡平
- ・性別 男性 女性
- ・年代 30歳未満 30代 40代
 50代 60代 70歳以上

※現在、ご自分が子育てをされている方はご記入をお願いします。

- ・子どもの成長段階 未就学児 小学生 中学生
(複数いらっしゃる方は下の子) 高校生

共動についておたずねします。

設問② 市が提唱している共動について、あなたは共感できますか。

市では“市民、団体及び企業と市が、相互に良好な関係のもとで理念と情報を共有し、同じ視点で共に活動を進めていくこと”を「共動(きょうどう)」と表し、推進しています。

市が目指す共動は、市民と市が協力し合うだけでなく、市民同士や地域の力で支え合うことによって、理想の地域社会を実現することを目的としています。

1. 共感できる

2. 共感できない

理由がありましたらお書きください

地域コミュニティについておたずねします。

設問③ あなたは、昨年1年間に社会活動や地域活動（ボランティア活動、自治会活動など）にどの程度参加しましたか。

1. 10回以上
2. 4回～9回
3. 3回以下
4. 参加しなかった

理由がありましたらお書きください

公共交通についておたずねします。

設問④-1 バス（予約型乗合タクシー含む）または鉄道（以下、「公共交通機関」といいます。）の利用頻度として当てはまるものを一つ選んでください。

1. 週2回以上利用
2. 週1回程度利用
3. 月に1回以上利用
4. 年に数回程度利用
5. 数年間利用したことがない

設問④-2 あなたは、普段の生活の中で、公共交通機関による移動に**不便**を感じていますか。

1. 感じる
2. 感じない
3. あまり利用しないのでわからない

不便を感じる理由：

設問④-3 あなたが、バスがもっと利用しやすくなると思う取り組みはどれですか。（複数回答可）

1. バスの運賃をもっと安くする
2. 距離に関係なく一定額で乗れるバスにする
3. 自治会などを単位として、より自宅近くで乗降車できる予約型の乗合タクシーを導入する
4. バスの利用者が、出かけた先で特典などを受けられるような制度を導入する
5. その他（)

まちづくりについておたずねします。

設問⑤ あなたにとって、鹿角市の住みごころはどうですか。

1. 住みよい
2. まあ住みよい
3. どちらともいえない
4. あまり住みよくない
5. 住みにくい
6. わからない

中心市街地の整備についておたずねします。

設問⑥ あなたは、花輪市街地の生活環境（住みごころだけでなく、交通の便や公共施設の配置など中心地としてのまちの便利さ）に満足していますか。

1. 満足している
 2. やや満足している
 3. どちらともいえない
 4. やや不満である
 5. 不満である
- どちらかといえば
(丸で囲んでください)
- やや満足
やや不満
- 不満と感じる理由：

公園の環境についておたずねします。

設問⑦ あなたは、市内の公園の整備状況に満足していますか。

1. 満足している
 2. やや満足している
 3. やや不満である
 4. 不満である
- 不満と感じる理由：

運動の実施状況についておたずねします。

設問⑧ あなたは、普段どれくらい「運動」（ウォーキングや軽い体操）や、健康を意識した「生活活動」（農作業や家事、階段の上り下り等も含む）を行っていますか。
また、1回あたりの運動や活動の時間はどのくらいですか。

1. ほぼ毎日
2. 週に1回以上
3. 月に1回程度
4. ほとんど行っていない

主に行っている運動や活動： _____

1回あたりの時間： 約 _____ 分

男女共同参画の状況についておたずねします。

設問⑨-1 「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」とは、一人ひとりが充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できることを指した言葉です。

あなたは、「ワーク・ライフ・バランス」という言葉を知っていましたか。

1. 知っていた
2. 知らなかった

設問⑨-2 男女共同参画社会とは、固定的な男性観、女性観にとらわれず、男女が社会の対等な構成員として自らの意思で、個性と能力を発揮することができる社会をいいます。

あなたは、地域社会全体でみた場合、男女の地位は平等になっていると思いますか。

1. 男性のほうが優遇されている
2. どちらかといえば男性のほうが優遇されている
3. 平等である
4. どちらかといえば女性のほうが優遇されている
5. 女性のほうが優遇されている

地域医療についておたずねします。

設問⑩-1 あなた（未成年のお子さんがある場合はその方を含む）は過去1年間で、医療機関を利用しましたか。（歯科医を除く、検診及び予防接種を含む）

1. 利用した → **問⑩-2**へ
2. 利用していない → **問⑪-1**へ

設問⑩-2 あなたは、「かかりつけ医（歯科医を除く、検診及び予防接種を含む）」を決めていますか。

「かかりつけ医」とは、特定の病気の専門医ではなく、日頃からちょっとした病気のとくに、決まって診てもらっているお医者さんのことです。

1. 決めている → **問⑪-1**へ
2. 決めていない → **問⑩-3**へ

設問⑩-3 問⑩-2で「2. 決めていない」を選んだ方におたずねします。それはどのような理由からですか。最もあてはまるもの**1つに○**をつけてください。

1. 症状等で診療科ごとに受診先を替えているから
2. 病気になったら総合病院を受診するから
3. 「かかりつけ医」にしたいような医療機関がないから
4. その他 →

{	具体的に：	}
---	-------	---

広報についておたずねします。

設問⑪-1 あなたは普段どのくらい「広報かづの」を読んでいますか。（電子媒体除く）

1. 毎号読んでいる
2. ときどき読んでいる
3. ほとんど読んでいない
4. 読んだことがない

設問⑪-2 あなたは、今後「広報かづの」のどのような点に工夫や改善をしてほしいと思いますか。あてはまるもの**すべてに○**をつけてください。

1. 写真やイラストを増やす
2. 市民の声や活動をもっと紙面で紹介する
3. とじ方向を変える（「右とじ・たて書き」から「左とじ・よこ書き」へ）
4. 記事の並べ方をもっと見やすくする
5. その他（

地域情報化についておたずねします。

設問⑫ あなたはインターネットを利用していますか。また、利用している場合は、利用機器のうち、あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. インターネットを利用している

- ①パソコン ②スマートフォン ③スマートフォン以外の携帯電話・PHS
④タブレット型端末 ⑤ゲーム機 ⑥インターネット機能付きテレビ
⑦その他(具体的に: _____)

2. インターネットを利用していない (その理由 _____)

コミュニティFMの利用についておたずねします。

設問⑬ あなたは鹿角きりたんぽFM(79.1MHz)をどの程度聴いていますか。

1. ほぼ毎日 _____ →
2. 週に1回以上 _____ →
3. 月に1回程度 _____ →
4. 一度も聴いたことがない
- (主に聴く場所はどこですか。
1. 自宅 2. 車内 3. 職場 4. その他)

子育て支援について

設問⑭-1 あなたは鹿角市が子育てしやすいまちだと感じますか。

1. 感じる _____ → **問⑮-1へ**
2. どちらかといえば感じる _____
3. どちらかといえば感じない _____ → **問⑭-2へ**
4. 感じない _____

設問⑭-2 問⑭-1で「3. どちらかといえば感じない」、「4. 感じない」を選んだ方におたずねします。それはどのような理由からですか。(複数回答可)

1. 保育サービスが不十分
2. 子育てに対する経済的支援(保育料等の軽減や医療費助成など)が不十分
3. 子どもが遊ぶことができる場や機会が不十分
4. 子どもの安全を確保する取組みが不十分
5. 職場の子育てに対する理解や制度が不十分
6. 小児科医の不足など、子どもの医療体制が不十分
7. その他(_____)

防災について

設問⑮-1 あなたは災害時に備え、食料品などを何日分を備蓄していますか。

1. 1日分
2. 3日分
3. 7日以上
4. 備蓄していない

設問⑮-2 あなたは、あなたの地域の避難所を知っていますか。

1. 知っている
2. 知らない

スキーと駅伝のまち“賑わい創出”プロジェクトについて

設問⑯ 市では「スキーと駅伝のまち」による地域活性化をより強力に推進するため、平成24年度から平成26年度にかけて「スキーと駅伝のまち“賑わい創出”プロジェクト」として下記の取り組みを進めてきましたが、これらの取り組みについてどう思いますか。その理由もご記入ください。

1. 満足している
2. やや満足している
3. あまり満足していない
4. 満足していない

その理由

【プロジェクトの主な内容】

- ・花輪スキー場のジャンプ台や総合運動公園のランニングコースの整備
- ・スキー、駅伝の全国大会の開催
- ・スポーツ合宿の誘致
- ・ジュニア選手の育成強化

学校の再編(統合等)について

設問⑰ 少子化の影響により本市の児童生徒数は減少しており、各小中学校の小規模化が進んでいます。学校規模は小中学校ともに「12学級以上18学級以下」が標準とされていますが、学校規模適正化のため再編(統合等)を進めることをどのように思いますか。その理由もご記入ください。

1. 進めるべき
2. どちらかといえば進めるべき
3. どちらかといえば進めるべきでない
4. 進めるべきでない
5. その他()

その理由

参 考

市の小学校9校、中学校5校のうち、複式学級を持つ小学校が2校、1学年1学級規模の小規模校は小学校で5校、中学校では3校あります。

※複式学級・・・2つ以上の学年の児童、生徒を1つに編制した学級

文部科学省では、様々な集団の編成や多様な学習活動の展開により個々の能力や資質をさらに伸ばしやすいなどの利点から学校規模の適正化が望ましいとしています。

市の政策についておたずねします。

設問⑱-1 市が進めている取り組みの中で、効果が得られていると感じるものを下表の39項目(①～ ⑲)から順に5つ選んでください。(理由がありましたらその記入をお願いします)

1番. 理由

2番. 理由

3番. 理由

4番. 理由

5番. 理由

農林業の振興

- | | |
|---|---------|
| ① | 担い手の育成 |
| ② | 農業生産の振興 |
| ③ | 農地の保全 |
| ④ | 林業の振興 |

福祉の充実

- | | |
|---|----------|
| ⑩ | 地域福祉の充実 |
| ⑪ | 子育て支援の充実 |
| ⑫ | 高齢者福祉の充実 |
| ⑬ | 障害者福祉の充実 |

商工業の振興

- | | |
|---|---------|
| ⑤ | 商店街の活性化 |
| ⑥ | 中小企業の振興 |
| ⑦ | 雇用環境の充実 |

保健・医療の充実

- | | |
|---|-----------|
| ⑭ | 健康づくりの推進 |
| ⑮ | 母子保健の充実 |
| ⑯ | 地域医療体制の充実 |

観光業の振興

- | | |
|---|---------|
| ⑧ | 観光の振興 |
| ⑨ | 交流居住の推進 |

交通基盤の整備

- | | |
|---|---------|
| ⑰ | 公共交通の確保 |
| ⑱ | 道路網の整備 |

設問⑩-2 市が進めている取り組みの中で、もっと「ちから」を入れて欲しいと感じるものを下表の39項目(①～ ③⑨)から順に5つ選んでください。(理由がありましたらその記入をお願いします)

1番. 理由

2番. 理由

3番. 理由

4番. 理由

5番. 理由

住環境の整備	
⑱	地域情報化の推進
⑳	生活排水処理の推進
㉑	水道水の安定供給
㉒	市街地の整備
㉓	住宅の整備
㉔	公園の充実

人と自然に優しい環境づくり	
㉕	自然環境の保全
㉖	低炭素社会の推進
㉗	ごみ減量化の推進

安全に暮らせる市民生活の確保	
㉘	防災体制の充実
㉙	消防・救急体制の充実
㉚	交通安全対策の充実
㉛	生活安全対策の充実

子どもが輝く学校教育の推進	
㉜	学校教育の充実

地域をつくる生涯学習の推進	
㉝	生涯学習の充実
㉞	スポーツ環境の充実
㉟	文化財の保存と活用

市民参加と地域づくりの推進	
㊱	共働のまちづくりの推進
㊲	地域コミュニティの活性化
㊳	男女共同参画の推進
㊴	国際交流の推進

設問⑱ 市の政策・事業・各種の手続き等について知りたい点、提言、改善要望等がありましたらご自由にお書きください。



以上で「市民アンケート」は終わりです。ご協力ありがとうございました。

平成27年度
市民アンケート実施結果報告書

平成27年8月
鹿角市総務部政策企画課総合戦略室
電話：0186-30-0201